



「信州暮らし」が
”憧れ”と”感動”を生む。

長野県観光振興基本計画 [2013～2017]



しあわせ信州

 **長野県**

～みんなで取り組む合言葉～

多くの来訪者に

「もう1か所」

観光してもらえるように

「もう1泊」

宿泊してもらえるように

「もう1コイン」

使ってもらえるように

「もう1度」

訪れてもらえるように

めざす姿の実現に向けて、「**足元の価値**」を掘り起こし、大いに「**発信**」しましょう。

そして、みんなで知恵を出し合い、協働して取り組みましょう。

「信州暮らし」を楽しみ、発信しましょう。



長野県観光は、豊かな自然や美しい景観、各地に受け継がれる伝統や文化など様々な資源に恵まれているにも関わらず、観光地利用者は長期的に減少しており、厳しい状況にあります。

一方で、全国トップレベルの健康長寿や「都道府県別幸福度ランキング」が総合第1位に輝くなど長野県の暮らしそのものが高く評価されるとともに、東日本大震災がもたらした価値観の変化により、心の豊かさを実感できる私たちのライフスタイルが注目されるようになっていきます。加えて、平成26年度末に予定される北陸新幹線の金沢延伸は、長野県観光の発展の可能性を広げています。

これらを踏まえ、長野県観光振興基本計画〔2013～2017〕では、長野県観光のめざす姿として『「信州暮らし」が“憧れ”と“感動”を生む観光立県』を掲げ、観光関連事業者はもとより県民の皆様にも御参加いただきながら、「地域の日常」をありのままに楽しもうとする新しい観光ニーズに対応していくことを提案いたしました。

この計画には、観光地利用者数9千万人、観光消費額3,300億円など長野県総合5か年計画（しあわせ信州創造プラン）と共通する4つの主要な達成目標を掲げました。これらの目標を県民の皆様と共有しながら、長野県観光のめざす姿の実現に向けて、足元の価値を掘り起こし、観光と他分野との連携でチャンスを広げることにより、国内外から多くの人々が繰り返し訪れる観光地づくりに取り組んでまいります。

計画策定にあたりまして貴重な御意見や御提言を賜りました県観光振興審議会の委員、10広域圏ごとに開催した地域懇談会や大都市圏での懇談会への参加者、県民の皆様にご心より感謝申し上げますとともに、本計画の着実な推進に向けて、今後とも一層の御理解と御協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成25年3月

長野県知事

阿部守一

～ 目 次 ～

	ページ
はじめに	1
1 計画策定の趣旨	1
2 計画の位置付け	1
3 計画の期間	1
第1編 現状と課題	2
第1章 観光を取り巻く環境	2
1 人口減少に伴う地域活力の低下	2
2 旅行形態の多様化	2
3 外国人旅行者の増加	2
4 高速交通網整備による可能性の広がり	3
5 東日本大震災を契機とした価値観の変化	3
第2章 長野県観光の現状	5
1 近年の観光の動向	5
2 長野県観光の魅力と評価	7
3 観光産業の現状	11
第3章 長野県観光の課題	14
1 観光振興施策の点から面への転換	14
2 地域経済への貢献	14
3 顧客満足度と利便性・快適性の向上	14
4 新たな観光スタイルへの対応と 高齢者、子ども、女性の視点の重視	15
5 海外からの誘客の促進	15
6 信州のブランド力の向上	15
7 人材育成と仕組みの構築	16
第4章 長野県観光の強み	17
1 豊かな自然がもたらす観光資源	17
2 信州の暮らしが育んだ観光資源	17
3 大都市圏から近い地理的優位性	18
4 観光振興を進める上での高いポテンシャル	18
第2編 長野県観光のめざす姿	20
第1章 長野県観光のめざす姿	20
第2章 達成目標	23
<コラム1 ～「信州暮らし」～>	24

	ページ
第3編 施策の展開	26
第1章 重点的に取り組むプロジェクト	27
1 山岳高原などの強みを活かした滞在型観光地の形成	29
<コラム2 ~山岳高原観光地~>	34
2 県民参加による共創と協働の観光地域づくり	35
<コラム3 ~観光地域づくり~>	39
3 食や物産、サービスの価値の向上とブランドとしての発信	41
<コラム4 ~信州ブランド戦略~>	46
第2章 県の観光振興施策	47
1 観光地域づくりを担う人材の育成	48
<コラム5 ~おもてなし~>	51
2 強みを活かした信州観光の質の向上	52
3 来訪者にやさしいハード・ソフト整備	56
4 市場のニーズを踏まえた誘客、交流の促進	60
5 ゴールデンルートに負けない外国人旅行者誘致戦略	64
第4編 エリア別の観光地域ビジョン	67
1 佐久地域	68
2 上小地域	73
3 諏訪地域	78
4 上伊那地域	83
5 飯伊地域	88
6 木曾地域	93
7 松本地域	98
8 大北地域	103
9 長野地域	108
10 北信地域	113
11 10の広域圏を越えた取組	118
第5編 計画の推進のために	120
1 計画推進の基本的な考え方	120
2 計画の検証と評価	122
3 計画の見直し	122
附属資料	123

観光振興基本計画の構成

第1編 現状と課題 (P2)

第1章 観光を取り巻く環境 1 人口減少に伴う地域活力の低下 2 旅行形態の多様化 3 外国人旅行者の増加 4 高速交通網整備による可能性の広がり 5 東日本大震災を契機とした価値観の変化	第2章 長野県観光の現状 1 近年の観光の動向 2 長野県観光の魅力と評価 3 観光産業の現状 観光地利用者の長期的減少をはじめとする厳しい現状	第3章 長野県観光の課題 1 観光振興施策の点から面への転換 2 地域経済への貢献 3 顧客満足度と利便性・快適性の向上 4 新たな観光スタイルへの対応と高齢者、子ども、女性の視点の重視 5 海外からの誘客の促進 6 信州のブランド力の向上 7 人材育成と仕組みの構築	第4章 長野県観光の強み 1 豊かな自然がもたらす観光資源 2 信州の暮らしが育んだ観光資源 3 大都市圏から近い地理的優位性 4 観光振興を進める上で高いポテンシャル
--	---	--	---

第2編 長野県観光のめざす姿 (P20)

第1章 長野県観光のめざす姿

「信州暮らし」が「憧れ」と「感動」を生む観光立県
 ～めざす姿の実現に向けた県民、地域及び県全体のあり方～

(県民) 県民一人ひとりが「信州暮らし」を楽しみ、発信

(地域) 地域全体で魅力を高める「観光地域づくり」

(県全体) 信州のブランド力を高め、国内外から選ばれる長野県へ

◇めざす姿の実現に向けて 県、市町村、観光関連団体、事業者、県民等が一体となって取り組む。

観光地利用者の減少トレンドを増加に反転!!

交流人口の拡大
滞在時間の増加

地域経済への貢献

第2章 達成目標

○主要な達成目標

観光地利用者数
8,435万人(H23年) ⇒ 9,000万人

観光消費額
3,063億円(H23年) ⇒ 3,300億円

旅行者満足度
実績値なし ⇒ 大変満足 20%
必ず再訪したい 20%

外国人宿泊者数
20万3千人(H23年) ⇒ 50万人

第3編 施策の展開 (P26)

第1章 重点的に取り組むプロジェクト

○長野県観光のめざす姿の実現のため、行政、観光関連団体、事業者、県民等が一体となって重点的に取り組む施策

プロジェクト1
山岳高原などの強みを活かした滞在型観光地の形成

- 世界水準の山岳高原観光地づくり
- 景観や自然環境の保全・活用
- 質の高い滞在の提供
- 登山や自然に親しむ機会の提供
- 戦略的な外国人旅行者誘致 など

プロジェクト2
県民参加による共創と協働の観光地域づくり

- 県民参加による観光地域づくり
- おもてなしの向上
- 地域性豊かな食に触れる機会の提供
- ロケーション撮影の支援
- 教育旅行の誘致と体験の機会の提供 など

プロジェクト3
食や物産、サービスの価値の向上とブランドとしての発信

- 食の魅力向上、物産の振興
- 観光地としてのブランド化
- ブランド価値の開発や磨き上げ
- 信州ブランドとしての発信

第2章 県の観光振興施策

○5年間の計画期間に県が着実に取り組む観光振興施策

1 観光地域づくりを担う人材の育成

(1)観光を担う人材の育成 (2)観光に対する意識の醸成
(3)おもてなしの向上 (4)地域の連携・協働の促進

2 強みを活かした信州観光の質の向上

(1)新しい観光の魅力づくり (2)食の魅力向上と物産の振興
(3)観光地域づくり組織の育成と他分野との連携の促進
(4)信州ブランドとしての磨き上げと発信

3 来訪者にやさしいハード・ソフト整備

(1)自然や景観など観光資源の保全・継承
(2)来訪者の利便性や快適性の向上 (3)来訪者にやさしい地域づくり
(4)観光産業の振興と観光事業者の競争力向上

4 市場のニーズを踏まえた誘客、交流の促進

(1)観光情報の発信と宣伝 (2)効果的な誘客の促進
(3)交流の促進 (4)北陸新幹線延伸を活かした誘客の促進
(5)広域観光の推進

5 ゴールデンルートに負けない外国人旅行者誘致戦略

(1)誘客体制の整備 (2)戦略的な外国人旅行者誘致の促進
(3)訪日教育旅行の誘致

第4編 エリア別の観光地域ビジョン (P67)

佐久 東京が一番近い信州・佐久 ～軽井沢と浅間山・八ヶ岳・蓼科山に連なる滞在型高原観光エリア～	木曾 「歴史が息づく心のふるさと木曾」 ～豊かな自然、歴史と文化 感動を思い出に～
上小 お日様いっぱい ゆったりのんびり 戦国浪漫に温泉天国 ～真田氏の郷～	松本 「世界に誇る山岳と田園風景、 そして多種で優れた文化が広がる感動空間の創出」
諏訪 自然、歴史、ものづくり産業が織りなす 活力あふれる滞在型観光地「諏訪」を地域で紡ぐ。	大北 北アルプスの山懐に抱かれて ～感動 体験 四季のたび～
上伊那 二つのアルプスに抱かれて 行き交う人々 もてなす心	長野 千曲川がゆったり流れるぬくもり 感動のふるさと 「長野」
飯伊 南アルプスと天竜川が育む豊かな自然・食・伝統文化 南信州	北信 北陸新幹線飯山駅が開業 つながろう北信州!

第5編 計画の推進のために (P120)

- 1 計画推進の基本的な考え方 2 計画の検証と評価 3 計画の見直し



はじめに

1 計画策定の趣旨

長野県観光を取り巻く環境の変化を踏まえ、①本県の観光施策を計画的かつ戦略的に推進するための方策を明らかにするとともに、②県、市町村、観光関連団体、事業者、県民等が、適切な役割分担のもと、互いに協働して取り組むための指針としてこの計画を策定するものです。

2 計画の位置付け

この計画は、長野県総合5か年計画（しあわせ信州創造プラン）における観光関連施策の個別計画と位置付けられるものです。

3 計画の期間

この計画は、平成25年度（2013年度）を初年度とし、29年度（2017年度）を目標年度とする5か年間を対象とします。

第1編 現状と課題

第1章 観光を取り巻く環境

1 人口減少に伴う地域活力の低下

- 少子高齢化の進行により日本の総人口の長期的な減少が予想される中、地域活力の低下が懸念されています。
- 人口減少社会にあっても、交流人口の増加により地域を活性化させることができる観光への期待が高まっています。

2 旅行形態の多様化

- 国内観光旅行は、景気の低迷や余暇活動の多様化などにより、回数、年間宿泊数ともに減少傾向にあります。また、国内宿泊旅行実施率も減少傾向にあり、宿泊、日帰り旅行ともに実施しない旅行ゼロ階層の割合は過半数にのぼっています。
- 年代別の旅行回数を比較した場合、特に20歳代、30歳代の旅行回数の落ち込みが顕著となっています。
- 価値観やライフスタイルの多様化を背景に旅行の形態が団体旅行から個人・グループ旅行に変化する中で、体験や交流、趣味や知的欲求を満たすことを目的とする旅行など多様化するニーズへの対応の重要性が高まっています。
- 情報通信技術（「ICT」、以下同じ。）が発達する中で、旅行先を決めた後の行動を知人から現地情報を聞いた上で決めたり、実際に訪れる場所を現地に行ってからパソコンや携帯電話で探す人が増えており、口コミやICTツールを活用した取組の重要性が高まっています。

3 外国人旅行者の増加

- 中国をはじめとするアジア諸国は人口が増加するとともに目覚ましい成長を続けており、日本を訪れる外国人旅行者数は増加傾向にあります。また、中国人に対する個人観光査証の発給要件の緩和、台湾や香港などの訪日旅行の成熟を背景に個人旅行の増加が顕著になっています。
- 初訪日の外国人旅行者を中心に東京－富士山－京都・大阪を結ぶゴールデンルートに引き続き人気が集まり、価格競争が激化する中で、新たな destinations（目的地）の開拓に期待が高まっています。

- 日本独特の“和”の魅力や雪など日本の観光の魅力を活かした国際競争力のある地域づくり、観光地における案内表示の整備など受入体制整備の重要性が高まっています。

4 高速交通網整備による可能性の広がり

- 中部横断自動車道（静岡市－佐久市間）、中部縦貫自動車道（松本市－福井市間）、三遠南信自動車道（飯田市－浜松市間）などの高規格幹線道路[※]の整備に加え、北陸新幹線の金沢延伸、さらには、リニア中央新幹線[※]（東京－名古屋間）の開業をめざす構想を踏まえた観光振興の可能性が広がっています。
- とりわけ、平成26年度末に予定される北陸新幹線金沢延伸を見据えた具体的な観光振興の重要性が高まっています。

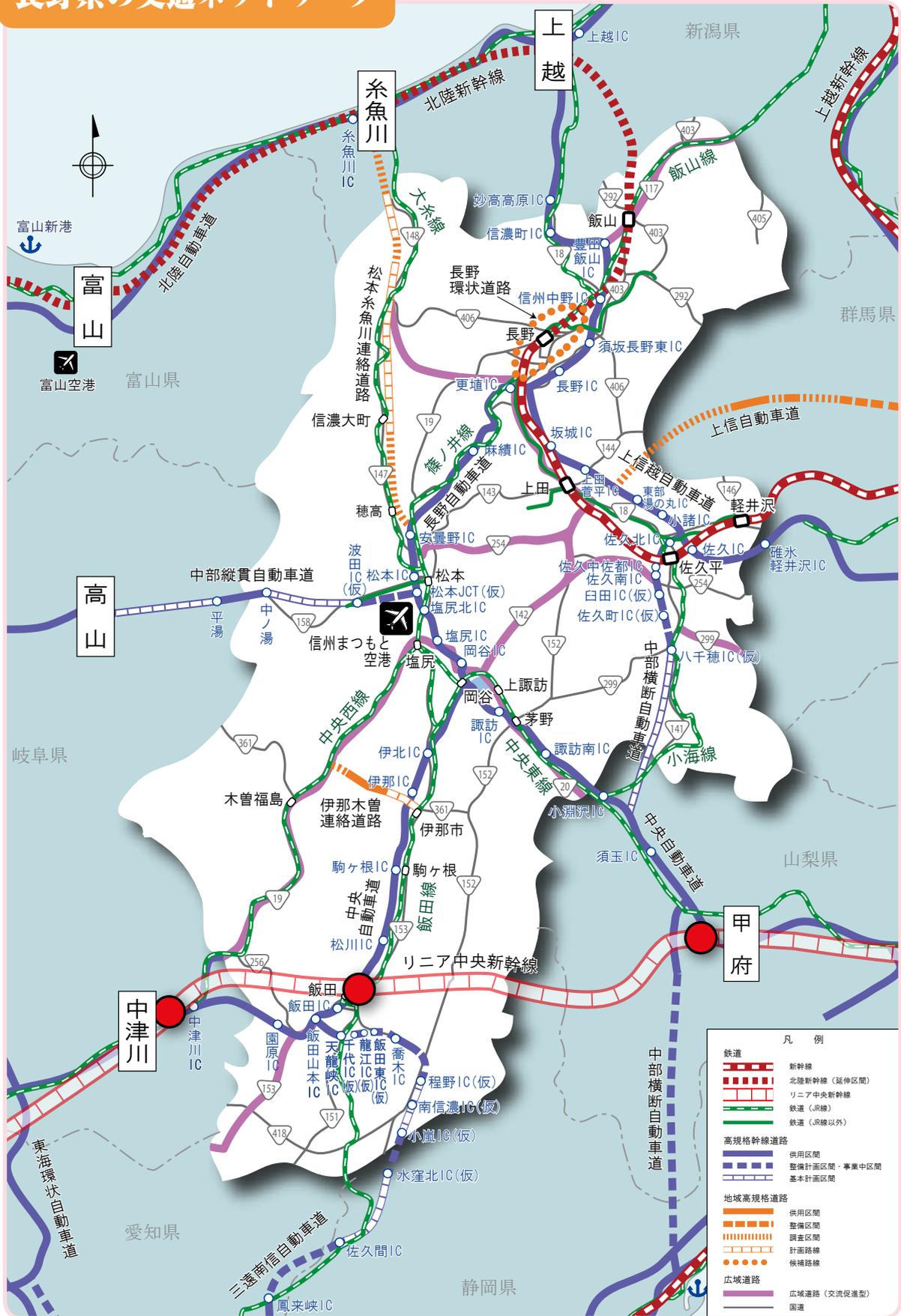
5 東日本大震災を契機とした価値観の変化

- 平成23年3月に発生した東日本大震災を契機に、人と人、人と地域のつながりや豊かさに対する考え方など、人々の価値観が変化しています。
- これに伴って、再認識された絆意識を活かした地域づくり、ゆとりや心の豊かさを実感できるライフスタイルが重視されるとともに、日頃からの地域間交流の重要性が高まっています。
- 原子力発電所の事故を契機とした自然エネルギーの利用拡大など環境負荷の少ない暮らしの重要性が高まっています。

【用語解説】

- ※高規格幹線道路 高速交通サービスの提供を目的に、全国的な自動車交通網を構成する自動車専用道路。国の道路計画審議会の答申（昭和62年（1987年））を受け、第4次全国総合開発計画において定められている。県内の高規格幹線道路は中央自動車道、長野自動車道、上信越自動車道、中部横断自動車道、三遠南信自動車道、中部縦貫自動車道
- ※リニア中央新幹線 東京～大阪間を最高設計速度505km/hで結ぶ超電導磁気浮上方式による新幹線。建設・営業主体であるJR東海は、開業予定を、東京～名古屋間は平成39年（2027年）、名古屋～大阪間は平成57年（2045年）と想定

長野県の交通ネットワーク



第2章 長野県観光の現状

1 近年の観光の動向

～観光地利用者はピーク時に比べ20%以上減少、特にスキー客は3分の1に～

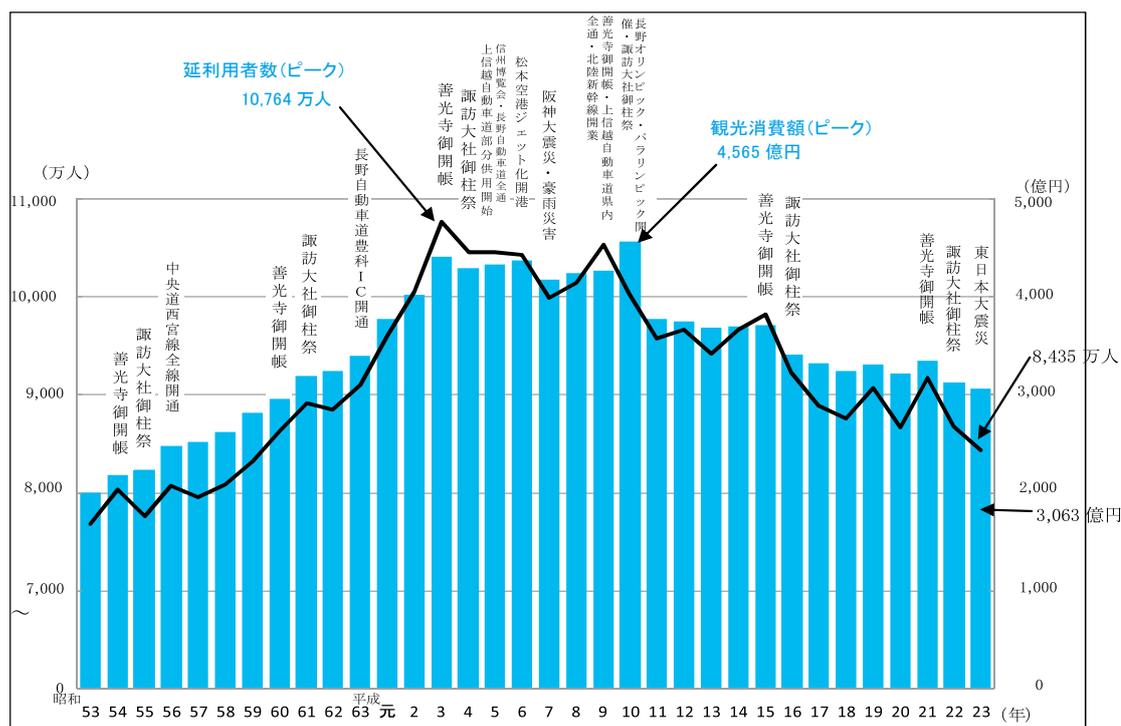
○近年の観光動向は、平成20年秋のリーマンショックを契機とした世界同時不況や東日本大震災、円高の長期化などによる経済の停滞が大きく影響しており、長野オリンピック（平成10年）開催前には1億人を超えていた観光地利用者数は平成23年には約8,500万人にまで減少しています。

○特に、平成4年度に約2,100万人を数えたスキー客数が平成23-24年シーズンには3分の1にまで減少しています。

○高速交通網の整備により大都市圏との時間的距離が大幅に短縮されたことに伴い日帰り圏化が進む中で、観光地利用者に占める宿泊客の割合は、平成10年の38.1%から平成23年には31.6%まで低下しています。この間、観光客一人当たりの消費額も900円以上減少しており、これらにより県内の観光産業に深刻な影響が生じています。

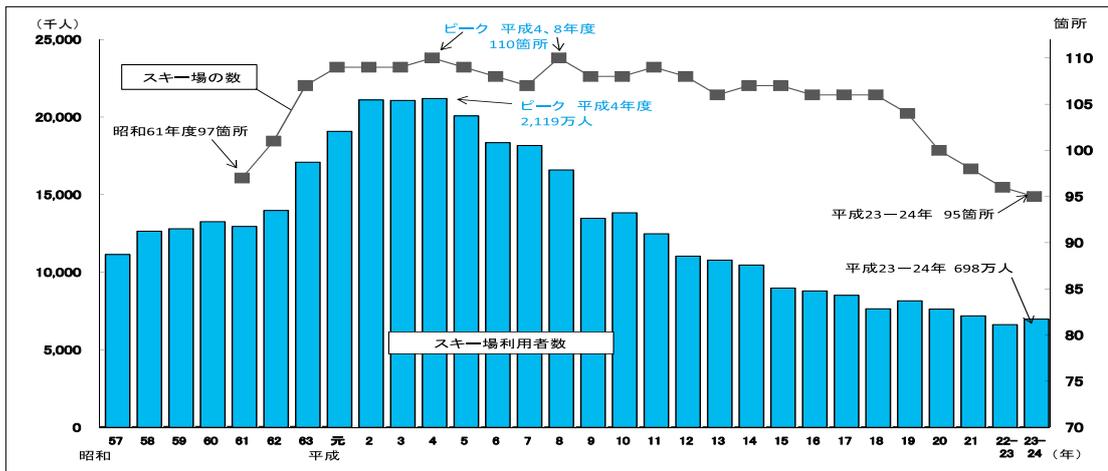
○東日本大震災後の本県への観光地利用者数は一時的に大きく減少したものの、平成23年6月以降はおおむね回復しています。

■観光地利用者数及び観光消費額の推移



資料：長野県観光部「観光地利用者統計調査」

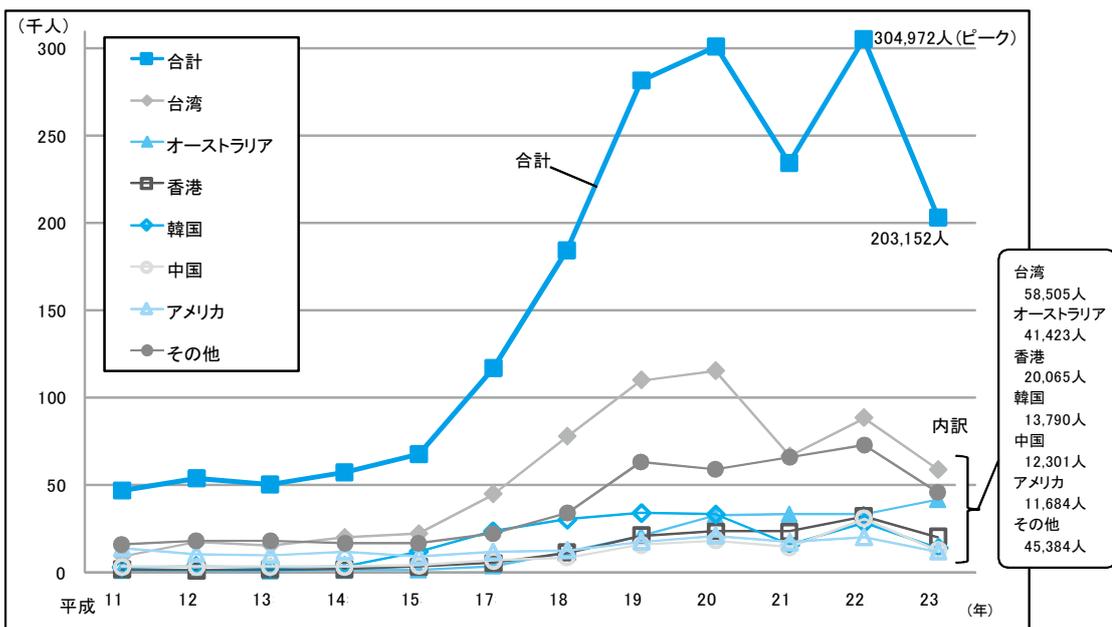
■スキー場利用者数とスキー場数の推移



資料：長野県観光部「スキー・スケート場利用者統計調査」、「スキー場等現況調査」

- スキー、自然体験、農林業体験などを目的に学習旅行で長野県を訪れる児童・生徒数は、平成23年度は延べ710千人となり、3年連続して増加しています。
- 長野県の外国人旅行者は近年増加傾向にあるものの、平成23年の外国人延べ宿泊者数は、東日本大震災の影響などにより、過去最高だった前年から33.4%減少しました。平成24年末時点で市場全体では震災の影響からほぼ回復したとされていますが、国、地域により回復状況に偏りがあり、中国、台湾、タイ等が震災前と比較して増加する一方で、韓国、香港、シンガポール等で回復が遅れています。

■外国人宿泊者数の推移



資料：長野県観光部「外国人宿泊者数調査」

2 長野県観光の魅力と評価

～長野県観光のポテンシャルは高いが、その魅力が十分に浸透していない～

○ビジネス目的等を含む延べ宿泊者数は47都道府県中第5位、観光旅行に限定した宿泊観光入込客数（試算）では第2位となっている長野県は、全国的にみて有数の観光県となっています。

■延べ宿泊者数の全国比較

(万人)		
1位	東京都	4,153
2位	北海道	2,729
3位	大阪府	2,176
4位	静岡県	1,941
5位	長野県	1,938
6位	神奈川県	1,633
7位	千葉県	1,596
8位	京都府	1,441
9位	沖縄県	1,415
10位	福岡県	1,324
11位	愛知県	1,241
12位	兵庫県	1,189
13位	福島県	1,080
14位	新潟県	1,037
15位	宮城県	979

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査（H23）」

■宿泊観光入込客数（試算）

(万人/年)		
1位	北海道	1,396
2位	長野県	1,206
3位	静岡県	1,159
4位	東京都	988
5位	神奈川県	864
6位	千葉県	833
7位	栃木県	592
8位	京都府	579
9位	兵庫県	522
10位	群馬県	518
11位	沖縄県	481
12位	福島県	438
13位	新潟県	429
14位	大阪府	427
15位	三重県	414

資料：(公財)日本交通公社「旅行動向2011」

○平成24年の47都道府県の魅力度ランキングにおいて長野県は第7位となり上位に位置するものの、その点数はベスト3の北海道、京都府及び沖縄県と大きな差があります。

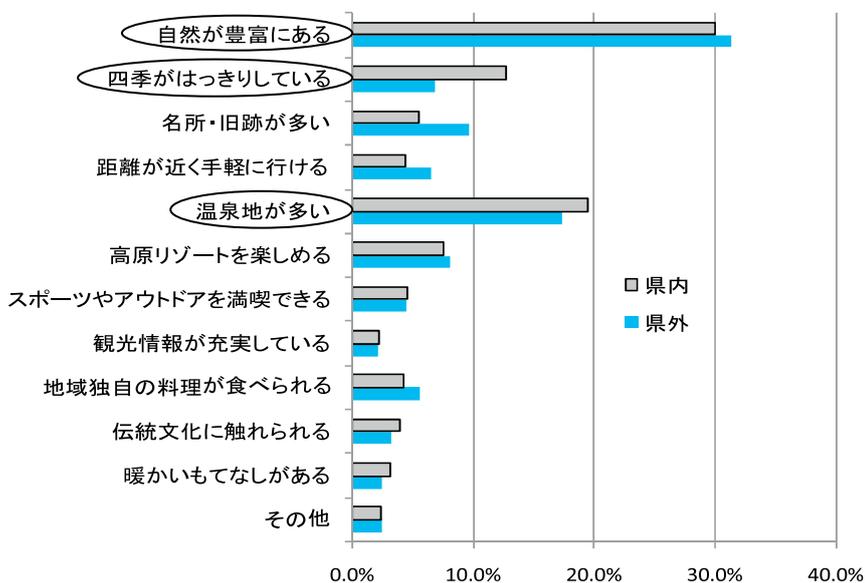
■魅力度ランキング

順位	地域名	点数	2011年順位
1	北海道	63.9	1
2	京都府	54.6	2
3	沖縄県	48.4	3
4	東京都	41.1	4
5	奈良県	35.9	5
6	神奈川県	34.2	6
7	長野県	27.8	8
8	大阪府	27.5	7
9	長崎県	27.4	11
10	福岡県	26.4	10
11	兵庫県	22.1	9
12	静岡県	21.9	12

資料：(株)ブランド総合研究所「地域ブランド調査2012」

○来訪者からみた長野県の魅力は、「自然が豊富」、「温泉地が多い」の項目が高評価であるにもかかわらず、来訪者の総合的な満足度は47都道府県中第19位となっており、特に食や特産品・土産物の満足度の低さが目立っています。

■長野県の魅力



資料：長野県観光部「観光地点パラメータ調査(平成23年4-6月)」

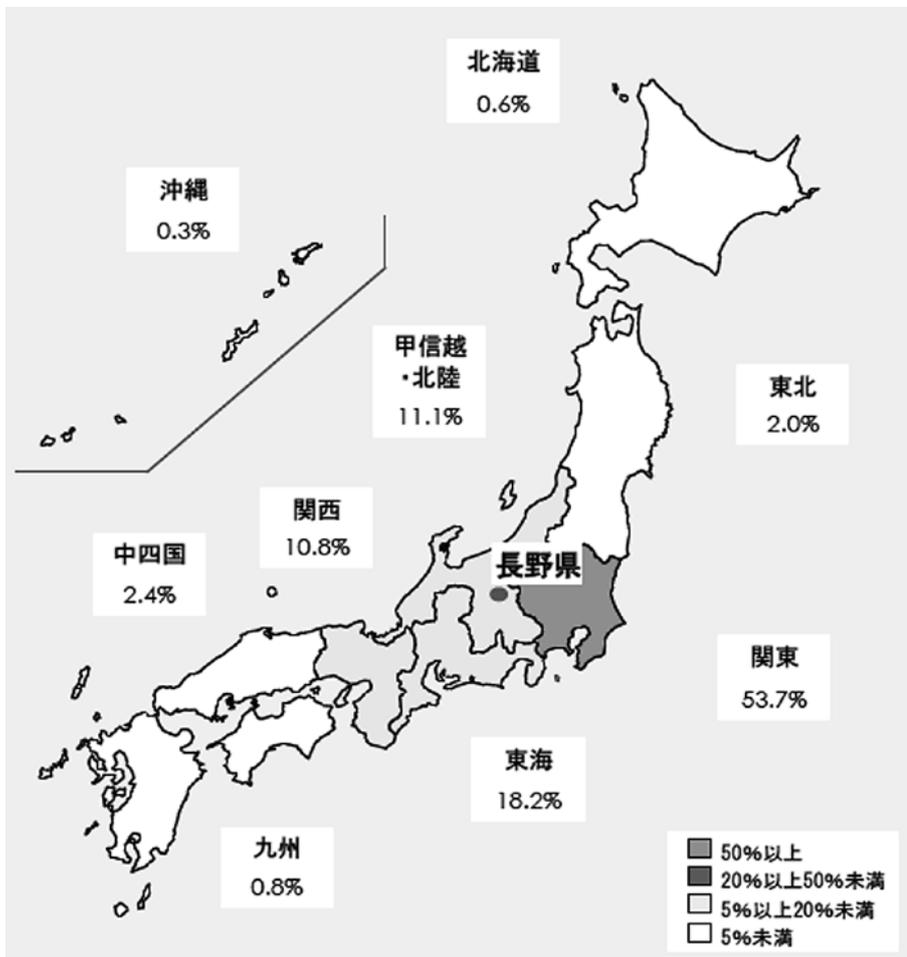
■満足度の全国順位

	長野県	順位	全国平均
総合的な満足度	81%	19位	81%
地元ならではのおいしい食べ物が多かった	49%	38位	54%
魅力のある特産品や土産物が多かった	40%	33位	43%
魅力的な宿泊施設が多かった	39%	18位	38%
子供が楽しめるスポットや施設が多かった	18%	23位	21%
若者が楽しめるスポットや施設が多かった	21%	15位	24%
大人が楽しめるスポットや施設が多かった	37%	23位	39%
地元の人ホスピタリティを感じた	23%	21位	21%
現地で良い観光情報を入手できた	23%	23位	23%

資料：(株)リクルート「じゃらん宿泊旅行調査2012」

○長野県を訪れる宿泊旅行者の居住地は、関東ブロックが過半数を占め、東海ブロック、関西ブロックを合わせた三大都市圏からの入込は全体の8割を超えています。

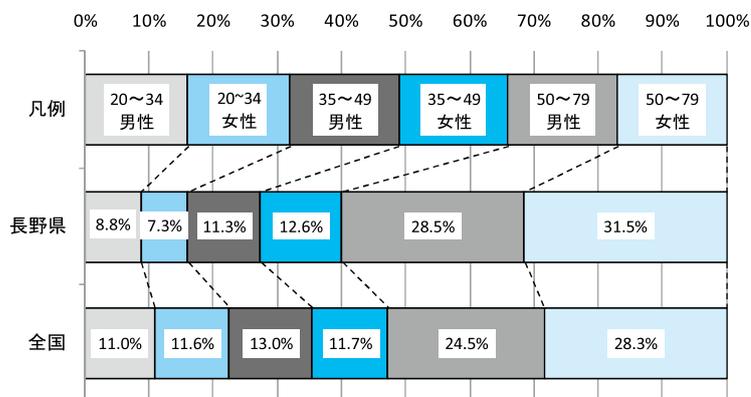
■宿泊旅行者の居住ブロック



資料：(株)リクルート「じゃらん宿泊旅行調査2012」

○長野県を訪れる宿泊旅行者の性別・年代別構成をみると、50歳代以上男女が6割に達する一方で、20～34歳女性の低さが目立っています。

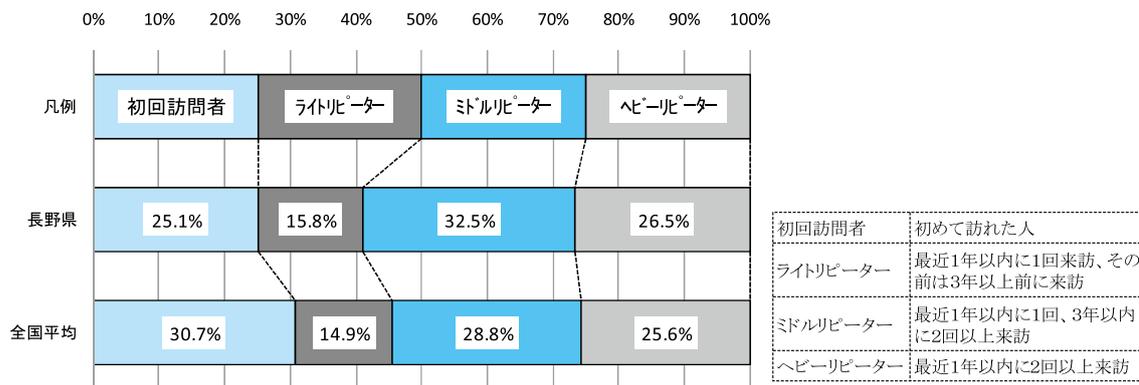
■宿泊旅行者の性別・年代別構成



資料：(株)リクルート「じゃらん宿泊旅行調査 2012」

○来訪経験についてみると、数年内に2回以上来訪している者の比率が全国平均に比べ高く、リピーター率が高水準となっています。

■来訪経験



資料：(株)リクルート「じゃらん宿泊旅行調査 2012」

○宿泊旅行者が長野県への旅行で使う現地小遣いは13,400円であり、全国平均（16,800円）と比較して2割以上低い状況にあります。

■宿泊旅行1回当たり費用



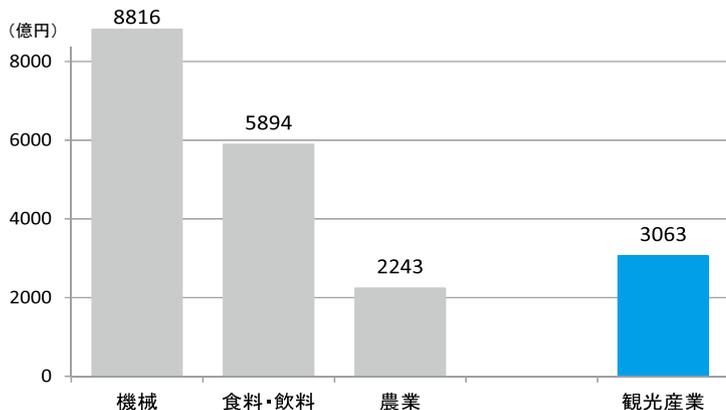
資料：(株)リクルート「じゃらん宿泊旅行調査 2012」

3 観光産業の現状

～観光産業は主要な産業の一つだが、宿泊施設の稼働率は低迷～

○宿泊業、飲食業、運輸・交通業、小売業など幅広い分野を包含したすそ野の広い総合産業である観光産業は、長野県の主要な産業の一つとなっています。

■長野県の観光消費額の規模比較



資料：長野県企画部「工業統計調査」、関東農政局長野農政事務所「長野農林水産統計年報」
いずれも平成22年。観光消費額は長野県観光地利用者統計(平成23年)

○平成23年の長野県の観光消費額（3,063億円）をもとに経済波及効果を試算すると、生産誘発額は4,519億円（1.48倍）、雇用誘発者数は31,311人と推計されます。観光消費は、食事代や宿泊費、土産代、交通費、施設入場料などの直接消費に加えて、それらの消費に伴う原材料費、消耗品代や食材となる農林水産物の仕入れ費用など非常に幅広い範囲に効果が波及することから、地域経済への大きな貢献が期待されます。

■観光消費がもたらす経済波及効果

平成23年観光消費額 3,063億円…①

観光消費がもたらす生産誘発額

	生産誘発額	雇用誘発者数
直接効果	2,517億円	19,814人
1次波及効果	1,221億円	7,153人
2次波及効果	781億円	4,344人
計	4,519億円…②	31,311人

波及倍率 ②／① ≒ 1.48倍

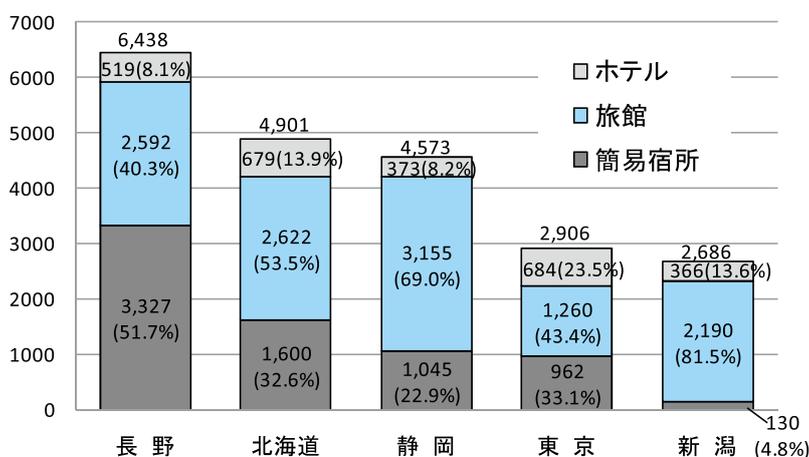
資料：「旅行・観光産業の経済効果に関する調査研究（2010年版）」（観光庁）、
「平成17年長野県産業連関表（34部門）」をもとに長野県観光部が推計

○長野オリンピックが開催された平成9年度には県内に約8,300あった宿泊施設は、旅館を中心に14年間で約1,900減少しました。

○宿泊施設数は現在も全国第1位となっていますが、宿泊施設の客室稼働率は全国で最も低い水準にあります。また、平成24年の県内のホテル・旅館の倒産件数は11件となり、47都道府県の中で最も多い状況にあります。

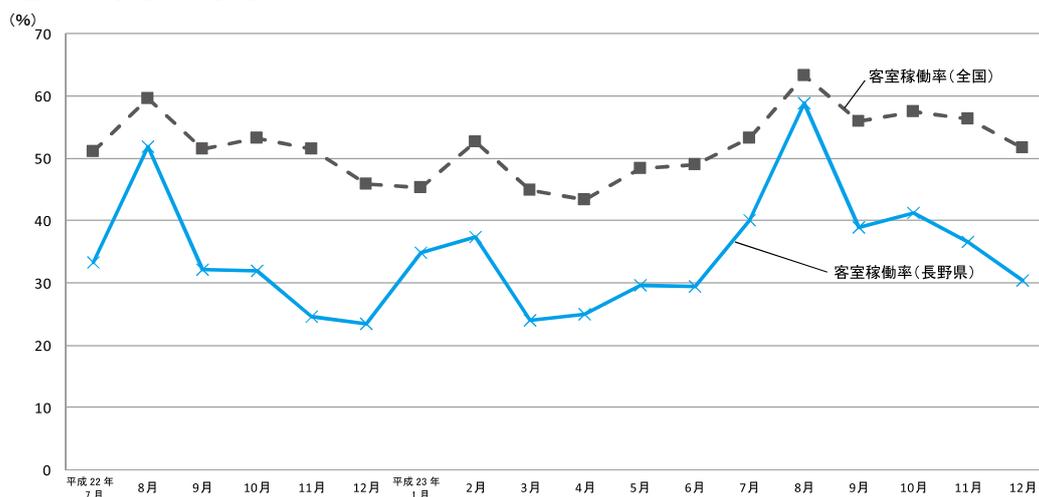
○県内宿泊施設の客室稼働率を月別にみると、8月の稼働率が50%を上回っているのに対し20%台に止まる月があり、その差が目立っています。

■宿泊施設数上位5都道府県の種類別施設数



資料：厚生労働省「衛生行政報告例(平成23年度)」より作成

■客室稼働率の推移



資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」



信州の春：あんずの花（千曲市）



信州の夏：八島ヶ原湿原（諏訪市、下諏訪町）

第3章 長野県観光の課題

1 観光振興施策の点から面への転換

- 人口減少による国内観光需要の減少、高速交通網の整備による日帰り圏化が進む中で、これからの観光振興においては、来訪者に①少しでも長く滞在してもらう、②何度も訪れてもらうという視点が求められています。
- これらの視点の下で、「地域の日常」をありのままに楽しむという来訪者のニーズの変化に対応しながら、地域づくりと一体となった「観光地域づくり^{*}」に中長期的なビジョンをもって取り組んで行くことが重要です。また、来訪者にありのままを楽しんでもらうためには、本物の魅力が必要です。
- この観光地域づくりのためには、行政や観光関連団体、観光産業に直接携わる事業者のみならず、県民や幅広い事業者の参画が期待されています。
- 国内外から訪れてもらえる魅力ある地域づくりを進める上で、景観の保全、観光案内所や標識の機能の向上などの環境整備が重要です。

2 地域経済への貢献

- これからの観光振興においては、来訪者を個々の宿泊・観光施設の顧客である「施設顧客」から、様々な観光資源の物語性や人と人とのふれあいなどを通じてその地域のファンとなる「地域顧客」に転換することにより、リピーターや新規顧客を獲得し地域経済に貢献していく視点が求められています。
- 観光振興の中心的役割を担い長野県観光を支えてきたスキー場や温泉地が、これからも長野県観光の柱となっていけるように、厳しい現状認識を踏まえ、関係者が一体となって、観光産業の振興を図っていくことが重要です。

3 顧客満足度と利便性・快適性の向上

- これからの観光振興においては、観光事業者はもとより、県民一人ひとりが郷土の自然や景観、伝統や文化など地域の魅力と価値を再認識し、県民自らが信州での暮らしを楽しみながら、心を込めたおもてなしで来訪者の満足度を向上させることが期待されています。

【用語解説】

※観光地域づくり 観光による交流人口の拡大や地域経済の活性化を目的として、身近にある自然や景観、伝統や文化などの地域資源を活かしながら、住民参加のもと、地域の幅広い関係者が一体となって進める地域づくり

- 情報収集手段の多様化に対応し、ICTを活用して来訪者の利便性を高める情報提供、観光地のバリアフリー化など来訪者の快適性を高める取組の重要性が増しています。

4 新たな観光スタイルへの対応と高齢者、子ども、女性の視点の重視

- 価値観やライフスタイルの多様化を背景に旅行スタイルが変化する中で、信州の自然や風土、健康長寿などの強みを活かし、農業、工業、スポーツ、文化、環境など他分野と連携しながら、魅力ある観光資源、体験・交流プログラムの開発などにより、新たな観光需要に対応していくことが求められています。
- 車を利用することが少ない高齢者、子ども、女性の視点を重視した「人」優先の地域づくりに取り組むとともに、旅行ニーズの多様化が顕著な若者のニーズにも的確に対応していくことが重要です。
- ものやサービスの商品づくりに当たっては、マーケティングに基づき、市場の視点を的確に把握した上での取組が不可欠です。

5 海外からの誘客の促進

- 増加傾向にあるアジア諸国やオーストラリアなどからの外国人旅行者の誘致に加えて、新たな市場の開拓が求められています。
- 国際定期便が就航している空の玄関口がなく、国際的に人気の高い東京－富士山－京都・大阪を結ぶゴールデンルート上に位置しない長野県がさらなる外国人旅行者の誘致を進めるため、対象となる国や地域の旅行形態の変化や旅行者のニーズを的確にとらえた大胆な施策展開への期待が高まっています。

6 信州のブランド力の向上

- 全国的な地域間競争が激化する中で、信州のブランド力は相対的に低下しており、統一感のあるブランドイメージの発信が不可欠です。
- 強力なブランド力の確立のためには、来訪者の期待を裏切らない、さらには期待以上の価値を提供することが必要ですが、長野県の多くの優れた観光資源にどのように磨きをかけるのか、系統的な取組がない状態です。このため、産学官の協働により、長野県の観光資源の価値を創出し発信する仕組みの構築が必要です。

7 人材育成と仕組みの構築

- 観光地域づくりを進めるためには、地域をけん引する人材の育成、地域全体の情報発信から商品の企画・販売までワンストップでサービスを提供する仕組みの構築が不可欠です。
- 県民が観光の広がりを意識し、一人ひとりが来訪者を温かく迎えようとする気運の醸成が重要です。
- 観光マーケティングに携わる人材、観光関連産業を担う人材の育成が期待されています。

地域ごとに多様性あふれる豊かな食文化



第4章 長野県観光の強み

1 豊かな自然がもたらす観光資源

○周囲を高い山に隔てられ広大な面積を有する長野県は、豊かな自然環境に恵まれ、山岳、高原、湖沼、湿原、渓谷などの景勝地に富んでいます。

○中でも、雄大な山岳景観は国内でも屈指の自然景観であり、上高地、立山・黒部アルペンルートなど国際的に知名度の高い観光地が存在します。



上高地（松本市）

○バラエティに富む泉質、山間地の素朴な温泉地や平地に発達した温泉街など多様な魅力にあふれる温泉、優れた雪質を誇る多くのスキー場は、国内外からの来訪者を魅了しています。

○南北に長く標高差のある地勢は長野県に多様な気候をもたらし、中でも高原の冷涼な気候は軽井沢をはじめとする著名な避暑地の発展に寄与してきました。

○多様な気候を利用して、くだもの、高原野菜など豊富な食材が生産されています。

2 信州の暮らしが育んだ観光資源

○自然との関わりの中で育まれた美しい農村や里山の景観、古の街道の雰囲気や今に伝えるまち並み、日々の暮らしの中で育まれた風習や食文化、各地域のその土地ならではの暮らしは、現代人に心のやすらぎを提供しています。



北アルプスを背景にした集落と菜の花畑（安曇野市）



○信州の風土や歴史の中で、人形浄瑠璃や歌舞伎などの民俗芸能、諏訪大社御柱祭や善光寺御開帳、道祖神祭りなどの伝統行事が各地域で「文化」として生まれ、世代を越えて現代に受け継がれています。

受け継がれる伝統行事（上松町）

- サイトウ・キネン・フェスティバル松本や日本を代表する画家の作品を所蔵する東山魁夷館、安曇野や諏訪湖エリアに集積する美術館などが、県民はもちろん多くの来訪者に本物の芸術文化に触れる機会を提供しています。

3 大都市圏から近い地理的優位性

- 日本のほぼ中央に位置する長野県は、首都圏や中京圏から200km圏内に位置し、観光県としての地理的優位性を備えています。
- 中央自動車道・長野自動車道・上信越自動車道、信州まつもと空港、北陸新幹線など、本県の高速度交通ネットワークの整備は、大都市圏などからの移動時間を短縮しています。

4 観光振興を進める上での高いポテンシャル

- 長野県には、自然がもたらす観光資源や暮らしが育んだ観光資源、地理的優位性という強みに加え、今後観光の振興を図る上で活かしていくべき次のようなポテンシャル（潜在的な力）があります。
 - ・ 県内各地を周遊する移動型の滞在観光を進めるに当たり、多彩な観光資源や個性あふれる地域が多いこと
 - ・ 平均寿命が高く高齢になっても元気に働く人が多い全国トップレベルの健康長寿県であること、また、その要因の一つといわれている豊かな自然環境の中でのゆとりある暮らしや県民の高い健康意識
 - ・ 移住・二地域居住先としての高い人気
 - ・ 民間調査による「都道府県別幸福度ランキング」において、基本指標や文化・教育分野では第2位の東京都に劣るものの、健康・生活・仕事の各分野が高く評価され、総合で第1位となったこと
 - ・ 長野県の美しい自然やまち並み、味わいのある建造物が映画やテレビドラマのロケ地、アニメの舞台として選ばれ情報発信されていること
 - ・ 平成10年に開催された長野オリンピック冬季競技大会・パラリンピック冬季競技大会、平成17年に開催されたスペシャルオリンピックス冬季世界大会・長野により向上した海外での「NAGANO」の知名度



信州の秋：高原の紅葉（池田町）



信州の冬：スノーシューで雪原を散策（野沢温泉村）

第2編 長野県観光のめざす姿

現在の長野県観光は、第1編 現状と課題でみてきたように、観光地利用者の長期的な減少をはじめとする厳しい現状に直面しており、そこから生じる様々な課題はこれまでの発想の延長線上では解決できない状況にあります。これまでの観光振興施策は、キャンペーンを主体としてきましたが、今後は、それに加え、観光地や観光産業の本質的な部分を充実・強化していく必要があります。

このため、長野県観光のめざす姿、計画期間中に到達すべき達成目標を明らかにして、その実現のため、観光関係者だけでなく、県民が一体となって中長期的なビジョンを持って継続的に観光振興に取り組んでいく必要があります。

第1章 長野県観光のめざす姿

私たちは、これまで豊かな自然からの恵みを得ながら、自然と共に生きてきました。雄大な山並みに囲まれ、四季折々の自然の恵みがあったからこそ、先人たちは美しい景観、伝統や文化といった個性的な地域の魅力を育くむことができました。また、長野県の自然は、私たちの拠りどころとなると同時に、国内外から訪れる多くの人々も魅了してきました。私たちは、このような長野県の豊かな自然を未来に向けて守りながら、活かしていく必要があります。

一方で、人口が減少し経済の成熟化が進む中で人々の価値観が変化し、物質的な豊かさに加えて精神的な満足感や暮らしのゆとりが求められています。加えて、東日本大震災の発生は、人と人、人と地域とのつながりを重視するとともに、これまでの生活のあり方を見つめ直す契機となりました。

このような時代にあって、長野県観光は、適切に守られた自然環境や景観、地域が大切にしてきた伝統や文化などに直に触れてもらうことによって、来訪者に癒しや楽しみ、感動を提供するとともに、心の豊かさを実感できる新しい生き方を提案することができます。

これらを踏まえ、長野県観光のめざすべき姿を次のとおり掲げます。

「信州暮らし」が“憧れ”と“感動”を生む観光立県

この姿の実現に向けた県民、地域及び県全体のあり方

○ 県民一人ひとりが「信州暮らし」を楽しみ、発信

県民一人ひとりは、進歩の著しい情報通信技術、充実する高速交通網など現代の技術の利便性を活かしながらも、身近にある豊かな自然や美しい景観、伝統や文化など、信州らしさを大切にしてお作りしてきたライフスタイル「信州暮らし」を楽しみ、誇りと愛着を抱きながら、その魅力をおもてなしの心をもって来訪者に伝えます。

○ 地域全体で魅力を高める「観光地域づくり」

地域は、住民参加のもと、観光に直接携わる事業者と食品産業、小売業、農林水産業など幅広い関連事業者との連携により、現在ある観光資源と地域に根ざした農林業、健康長寿などを結びつけ、新たな価値を創造します。さらに、地域間の連携により各地域の魅力を結びつけながら、その相乗効果で体験や交流を求める新たな観光需要に対応します。

その中で、現在厳しい状況にある観光産業は、市場ニーズの変化に対応し競争力を高め、また、地域と来訪者を結びつける役割を果たしながら、地域経済や雇用を支える産業の柱として発展していきます。

○ 信州のブランド力を高め、国内外から選ばれる長野県へ

長野県全体として、「信州」と聞けば誰もが思い起こす雄大な山岳やさわやかな高原のイメージを活かしながら、足元にある新たな価値の発掘・磨き上げに取り組み、その魅力を一体感をもって発信することにより長野県観光のブランド力を高めます。そして、来訪者の期待を裏切らない、さらには期待以上の価値を提供する魅力ある観光立県、訪れる人に幸せを感じてもらえる信州をめざします。



めざす姿の実現に向けて、県、市町村、観光関連団体、事業者、県民等が一体となって取り組むことにより、交流人口の拡大と来訪者の滞在時間の増加を図り、地域経済、地域の活性化に貢献します。

めざす姿の実現に向けて、観光振興施策の視点が変わります。

◇県民参加の観光振興

〈これまで〉

観光事業者・行政
が主体の観光振興



〈これから〉

観光事業者、幅広い関連事業者、
県民、行政などの協働による
観光振興

◇「観光地づくり」から「観光地域づくり」へ

〈これまで〉

観光単独の
魅力づくり



〈これから〉

観光と他分野※が連携した
魅力づくり

※他分野 農林業、工業、スポーツ、文化、
健康、環境など

観光施設単位の
情報発信



エリア全体での情報発信、
受入体制づくり

◇信州ブランドによる観光の魅力の統一感ある発信

〈これまで〉

地域単位での
魅力の発信



〈これから〉

信州全体のブランド価値の
創造・発信

第2章 達成目標

○第1章の長野県観光のめざす姿の実現に向けて、県、市町村、観光関連団体、事業者、県民などが力を合わせて取り組んでいくための主要な達成目標を、次のとおり掲げます。

指標名	現状	目標 (平成29年度)	備考
観光地利用者数	8,435万人 (平成23年)	9,000万人 (平成29年)	県内観光地の延べ利用者数（観光地利用者統計調査） [平成24年実績見込から5%増加を目標に設定]
観光消費額	3,063億円 (平成23年)	3,300億円 (平成29年)	県内観光地内で観光旅行者が支出した宿泊費、交通費、飲食費等の総計（観光地利用者統計調査） [平成24年実績見込から5%増加を目標に設定]
旅行者満足度	実績値なし	大変満足 20% 必ず再訪したい 20%	県内の観光地で「大変満足」「必ず再訪したい」と回答する観光旅行者の割合（観光旅行者満足度調査） [全国の著名な観光地と比較しても遜色ない数値を目標として設定]
外国人宿泊者数	20万3千人 (平成23年)	50万人 (平成29年)	県内の外国人延べ宿泊者数（外国人宿泊者数調査） [倍増を基本に中国をはじめとする最重点市場からの宿泊者の増加を見込み設定]

○上記の4つの主要な達成目標に加えて、施策分野ごとに個別の達成目標を設定し、個々の施策分野の進捗状況を把握します。

～「信州暮らし」～

この計画のキーワード「信州暮らし」とは、

- ◇地域の豊かな自然や美しい景観
 - ◇地域が受け継ぐ食文化や伝統行事
 - ◇伝統を大切にする風土が守り育てた地域の誇りや絆 など
- 身近にある「信州らしさ」を大切にしながら私たちが作り上げてきたライフスタイルをさします。

精神的な満足感や暮らしのゆとりが求められる中で、「地域の日常」をありのままに楽しもうとするニーズがあります。

信州の豊かな自然、美しい景観、伝統や文化、そして何よりも私たちが作り上げてきた「信州暮らし」とふれあうことで、来訪者は「心の豊かさ」を実感することができます。

例えば、会社勤めをしながら休日は農作業やレジャーで自然とふれあう暮らし、地域のお祭りやまちづくり活動での人と人とのふれあいを大切にするライフスタイルは、「信州暮らし」そのものであり、私たち信州人一人ひとりにこだわりの「信州暮らし」があります。

あなた自身の「信州暮らし」はどんなライフスタイルですか？

私たちの日常の価値を再認識し、来訪者が“憧れ”と“感動”を抱くような「信州暮らし」を実践しましょう。

そして、こだわりの「信州暮らし」を来訪者とともに楽しみましょう。

一人ひとりが「信州暮らし」を楽しみながら、その魅力を発信しましょう。



自然とのふれあいの中で営む農業（売木村）



自然との関わりの中で育まれた伝統芸能を次代に引き継ぐ（大鹿歌舞伎）



新しい雪の楽しみ方で、来訪者に豊かな自然をご案内（スノーシュー）



来訪者と「信州暮らし」を楽しむ

第3編 施策の展開

重点的に取り組むプロジェクト（第1章）

山岳高原などの強みを活かした滞在型観光地の形成

県民参加による共創と協働の観光地域づくり

食や物産、サービスの価値の向上とブランドとしての発信



県の観光振興施策（第2章）

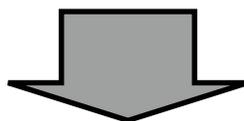
観光地域づくりを担う人材の育成

強みを活かした信州観光の質の向上

来訪者にやさしいハード・ソフト整備

市場のニーズを踏まえた誘客、交流の促進

ゴールデンルートに負けない外国人旅行者誘致戦略



長野県観光のめざす姿の実現

第1章 重点的に取り組むプロジェクト

○第2編第1章に掲げる長野県観光のめざす姿の実現のためには、県民一人ひとりが「信州暮らし」*を楽しんでいることが何よりも重要です。自らが暮らす地域に誇りを持ち、日々の暮らしを楽しんでこそ、その魅力を自信をもって来訪者に発信することができ、人々はその魅力に触れることを楽しみにその地域を訪れます。

○しかし、「信州暮らし」を楽しむだけでは長野県観光のめざす姿は実現できません。その実現に向けて、

長野県を訪れてもらうため、

①山岳高原など信州の強みをさらに伸ばして、県外の観光地との違いを際立たせること

加えて、来訪者を地域で迎え、そのよさに共感してもらうため、

②観光に直接携わる関係者だけでなく、多様な主体が参加する地域づくり

さらに、来訪者の期待に応え、繰り返し訪れてもらうため、

③信州らしい食や物産、サービスの価値の向上とブランドとしての発信

に取り組んでいくことが重要です。

○このため、観光関連団体、観光事業者、県や市町村はもとより、幅広い関連事業者や県民など多様な主体の参画のもと、次の3つのプロジェクトを掲げ、相互に連携させながら取り組みます。

プロジェクト1

山岳高原などの強みを活かした滞在型観光地の形成

プロジェクト2

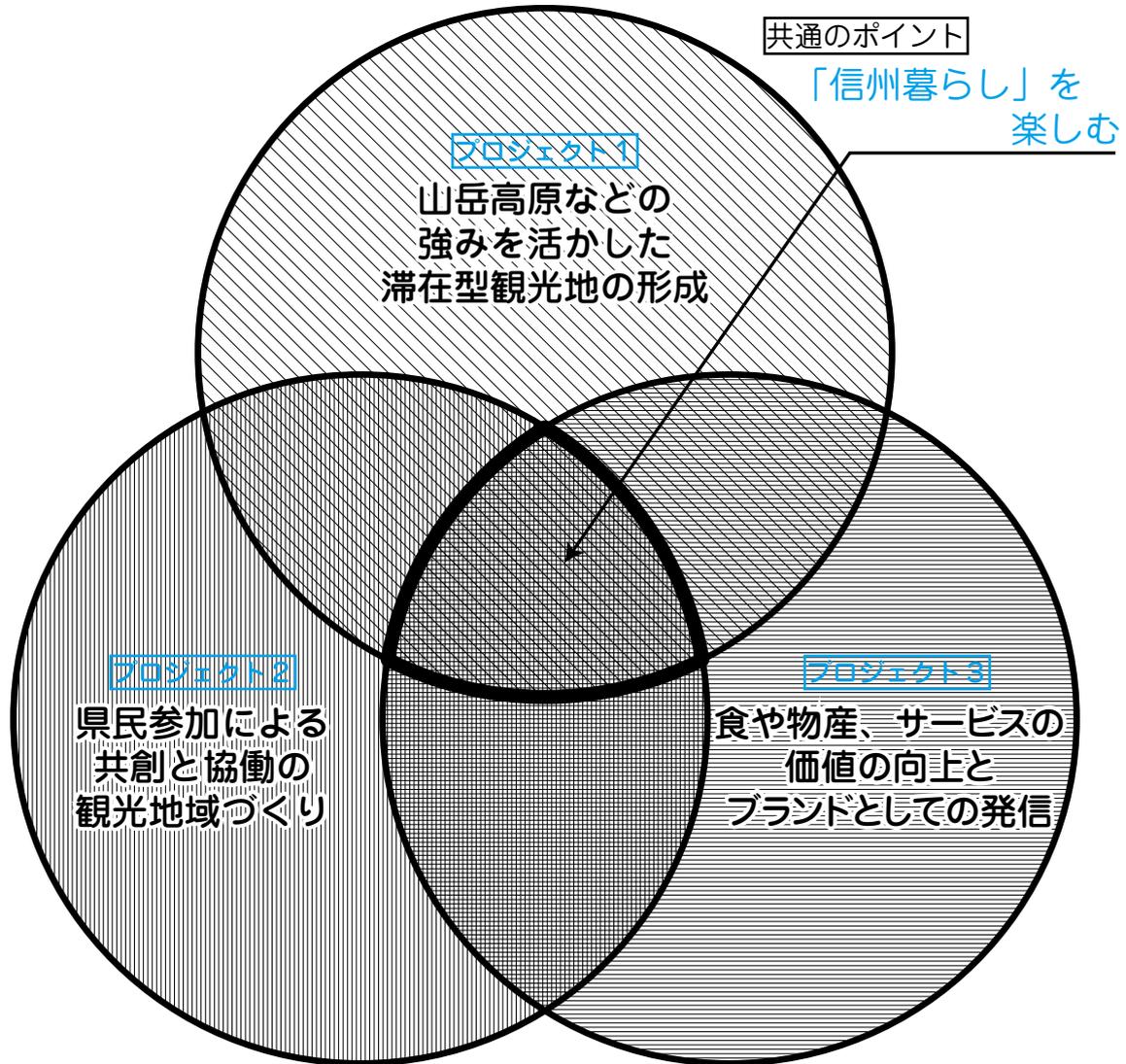
県民参加による共創と協働の観光地域づくり

プロジェクト3

食や物産、サービスの価値の向上とブランドとしての発信

*「信州暮らし」 身近にある豊かな自然や美しい景観、伝統や文化など、信州らしさを大切にしながら作り上げてきたライフスタイル

行政、観光関連団体、事業者、県民等が
一体となって重点的に取り組む施策



◇3つのプロジェクトは、「信州暮らし」を楽しむという視点を共有し、相互に連携させながら推進

山岳高原などの強みを活かした滞在型観光地の形成

1 プロジェクトの概要

《目 標》

○雄大な山岳やさわやかな高原、美しい景観、優れた雪質のスノーリゾート、多様な魅力にあふれる温泉など信州の強みをさらに伸ばし、世界的に評価される山岳高原観光地^{*}を形成します。

《必 要 性》

○今後の長野県観光を振興していく上で何よりも重要なことは、他の都道府県にはない魅力、アジアの中でも長野県だけにしかない魅力によって、他の観光地との違いを際立たせ、長野県を旅行先として選んでもらうことです。

○このため、長野県観光を象徴する強みをさらに伸ばす滞在型の観光地づくりを地域と一体となって進めるプロジェクトに取り組むとともに、その効果を県下に広く波及させる必要があります。

《主な取組》

～観光関係者、幅広い関連事業者、県民等が一体となって取り組む項目～

- (1) 長野県独自の強みを活かしながら、例えばスイスの国際的な観光地のように、美しく、誰もが手軽に楽しむことができる世界水準の山岳高原観光地づくりを進めます。
- (2) 信州ならではの美しい景観や自然環境を保全し活用します。
- (3) 滞在プログラムの造成、そのプログラムを手軽に購入できる仕組みにより、質の高い滞在を提供します。
- (4) 安全で楽しい登山や自然に親しむ機会を提供します。
- (5) 外国人旅行者を戦略的に誘致します。
- (6) M I C E^{*}の誘致を進めます。
- (7) スポーツを核とした観光振興を進めます。

2 県の主な取組

項目	取組内容
(1) 世界水準の滞在型観光地づくり	<ul style="list-style-type: none"> ○世界水準の山岳高原観光地の条件や実現する上での課題について研究し、候補地ごとのめざす姿や取組などを明らかにするとともに、県と市町村と地域が一体となって国内外の来訪者で賑わう観光地づくりに取り組みます。 ○長期滞在により来訪者がゆったりと信州らしくすごせる宿泊モデルへの転換を図り、宿泊施設の業態を研究します。
(2) 景観や自然環境の保全・活用	<ul style="list-style-type: none"> ○信州の美しく豊かな農村景観を次代に引き継ぐため、市町村との連携や県民参加により、広域にわたる農村景観育成の取組を進めます。 ○市町村の景観行政団体[*]への移行の促進や景観育成活動を担うリーダーの育成など、地域が主体となった景観づくりが行われるよう支援します。 ○まち並みや風景などの美しい景観を形成するため、無電柱化を進めます。 ○観光地の良好な景観を阻害する廃屋問題を解決するための方策について検討を進めます。 ○誰もが快適に観光地めぐりをすることができるよう、観光地トイレの美化を進めます。 ○山岳環境の保全のため、民間と協働しながら、自然公園内の登山道の維持管理を図るとともに、山小屋トイレの環境配慮型への改修を進めます。 ○観光地において、わかりやすい道路標識の整備を進めます。
(3) 質の高い滞在の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○幅広い事業者が連携した山岳高原観光地らしい滞在交流型プログラムの創出を支援します。

項 目	取 組 内 容
(4) 登山や自然に親しむ機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○長野県独自の信州登山案内人[*]制度や山岳遭難防止の取組などにより、安全で楽しい登山の機会を提供します。 ○県下4か所の自然保護センターを拠点施設として、高原の自然に親しみ学ぶ機会を提供します。
(5) 戦略的な外国人旅行者誘致	<ul style="list-style-type: none"> ○首都圏と長野県内の観光地を結ぶ周遊バスを運行し、中華圏からの個人旅行者の誘客を促進するとともに、官民一体となって県内での消費拡大を図るためのビジネスモデルを構築します。 ○外国人旅行者が安心して快適に旅行できるようにするため、受入環境の整備を促進します。 ○信州まつもと空港の路線の拡大などにより国内線の利用を促進するとともに、国際チャーター便[*]の誘致などに取り組みます。
(6) MICEの誘致	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな自然環境などのリゾートのイメージを活かしたMICEの誘致に取り組みます。
(7) スポーツを核とした観光振興	<ul style="list-style-type: none"> ○ファミリーを中心に誰もが楽しめる魅力あるスノーリゾートのプロモーション「信州“Family Style”」を推進することにより、新しいスノースポーツ人口を創出します。 ○スポーツや体験を目的とした合宿の誘致に取り組みます。 ○県内プロスポーツチームと連携し、信州まつもと空港の就航先となる県外の試合会場で、県内観光地や農産物・県産品等をPRし、その魅力を発信します。

3 各主体に期待される取組【◎は重点地域（候補地）の取組内容】

主 体	期 待 さ れ る 取 組 内 容
信州・長野県 観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ○山岳高原観光地づくりに向けた各主体への働きかけ ○山岳高原観光地と各地域を連携させる旅行商品の造成・販売 ○山岳高原観光地の情報発信
観光事業者	<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎山岳高原観光地づくり構想への積極的な参加
	<p>《宿泊業者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎着地型旅行商品の代理販売 ◎長期滞在型宿泊モデルの研究と実践
	<p>《スノーリゾート関係者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○レンタルスキーや食事の質の向上などスノーリゾートの魅力づくり ○雪遊び体験、地域文化とのふれあいなど、スノーリゾートの新たな楽しみ方の提案
	<p>《信州登山案内人》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○登山案内人としての資質の向上と、楽しい登山の機会の提供
	<p>《旅行業者ほか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎旅行商品、食事、土産品など山岳高原観光地にふさわしい観光資源の発掘と開発 ◎山岳高原観光地の観光資源を活かした着地型旅行商品の造成・販売
幅広い関連事業者	<ul style="list-style-type: none"> ◎山岳高原観光地づくり構想への参加 ◎観光事業者と連携した、観光×農業、観光×健康、観光×スポーツなど山岳高原観光地にふさわしい魅力の創出
観光関連団体	<ul style="list-style-type: none"> ◎山岳高原観光地づくり構想への参加 ◎ワンストップでサービスを提供する観光案内所の整備・運営 ◎山岳高原観光地の情報発信 ○山岳高原観光地と各地域が連携した旅行商品の手配や情報発信

主 体	期 待 さ れ る 取 組 内 容
地域住民、 NPO、 ボランティア など	◎山岳高原観光地づくり構想への参加 ◎あいさつやおもてなし、観光地美化や景観育成のための活動への参加 ◎山岳高原観光地にふさわしい観光資源の発掘と開発 ◎観光ガイド、交流活動などへの参加
市町村	◎県と連携した、山岳高原観光地づくり構想の策定と推進 ◎社会資本整備や規制など山岳高原観光地づくりのための基盤整備 ◎観光地域づくり組織の設立・運営支援 ◎山岳高原観光地と連携した県内周遊ルートの開発
大学など	◎山岳高原観光地づくりへの専門的見地からのアドバイス ◎世界水準の観光地を担う人材の育成・輩出



北アルプスの雄大な山岳景観（白馬村）



高原でのトレッキング（山ノ内町）

【用語解説】

- ※山岳高原観光地 雄大な山岳やさわやかな高原、美しい景観に加えて、スノーリゾートや温泉など信州を代表する強みを活かした滞在型の観光地
- ※MICE（マイス） 企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のこと。多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称
- ※景観行政団体 地域の景観行政を担う主体として景観法で規定される市町村や都道府県
- ※信州登山案内人 信州登山案内人条例に基づき、長野県知事の登録を受け、信州登山案内人の名称を用いて、県内において登山等を行う者に付き添ってその案内を行うことを業とする者
- ※チャーター便 旅行会社等が航空機を借り切って不定期に運航される便

～ 山岳高原観光地 ～

この計画のキーワード「山岳高原観光地」とは、雄大な山岳やさわやかな高原、美しい景観に加えて、優れた雪質のスキーリゾート、多様な魅力にあふれる温泉など信州を代表する強みをさらに伸ばすことによりめざす滞在型観光地をさします。

国内各地や海外の観光地との競争が激しくなる中で長野県を来訪地として選んでもらうためには、他の観光地との違いを際立たせることが重要であり、3千m級の雄大な山並み、美しく豊かな農村景観など長野県だけにしかない強みを活かした世界水準の滞在型観光地づくりをプロジェクトの一つとして掲げました。

「世界水準の滞在型観光地」の要件は一般的には定められていませんが、この計画では①美しく、②楽しく、③手軽に をキーワードに、地域の皆さんや関係する市町村とともに国内外の来訪者で賑わう観光地づくりをめざします。

めざす山岳高原観光地のイメージ

美しく

- ◆すぐれた山岳高原環境の徹底した保全
 - ・山岳環境の保護を意識した活用
 - ・自然を楽しみ、学ぶ機会の提供 など
- ◆信州の豊かで美しい農村景観の保全と育成
 - ・地域が主体となった景観づくり、無電柱化 など

楽しく

- ◆長期滞在のための多彩な滞在メニューの提供
 - ・ワインやジビエ、県産食材などの信州らしい食
 - ・農業体験、トレッキングやスキーなどのアクティビティ
 - ・温泉や森林浴、アート鑑賞などのゆったりと保養・休養できる過ごし方 など

手軽に

- ◆国内外から訪れやすく、はじめてでも利用しやすい旅行環境
 - ・大都市圏と県内観光地を結ぶバスの運行
 - ・宿泊や交通、滞在メニューなどをワンストップで手配する観光案内所
 - ・手軽で安全な旅を支援する案内機能の整備 など

計画の初年度である平成25年度は、意欲ある市町村や有識者とともに、具体的なめざす姿や課題などを研究し、対象地域を選定します。

将来的には、例えばスイスのツェルマットやカナダのウィスラーと同じ感覚で選択される世界に通用する観光地を形成するとともに、その効果を県内各地に波及させることをめざします。

県民参加による共創と協働の観光地域づくり

1 プロジェクトの概要

《目 標》

- 観光地域づくりをけん引する人材や推進組織の育成・支援、県民総参加のおもてなしの推進などにより、その地域ならではの「信州暮らし」の魅力を活かした共創^{*}と協働の観光地域づくりを進めます。

《必 要 性》

- 県内の各地域が個性あふれる魅力的な地域であることは、長野県全体の観光の魅力を引き上げます。
- 各地域が、豊かな自然がもたらし、信州の暮らしが育んだ観光資源と健康長寿などのポテンシャルを結びつけながら、地域全体で観光地域づくりに取り組むプロジェクトを進めることが重要です。

《主な取組》

～観光関係者、幅広い関連事業者、県民等が一体となって取り組む項目～

- (1) 地域ごとの魅力を活かした県民参加による観光地域づくりを推進します。
- (2) 来訪者に再び訪れたいと思ってもらえるよう、県をあげておもてなしの向上に取り組めます。
- (3) 来訪者に信州ならではの食に触れる機会を提供します。
- (4) 来訪者に心豊かな過ごし方を提供します。
- (5) 国内外から教育旅行を誘致するとともに、ありのままの農村の暮らしや雪の楽しさなどの体験の機会を提供します。
- (6) ロケーション撮影を各地が連携して支援するとともに、信州の魅力を映像を通じて発信します。

2 県の主な取組

項目	取組内容
(1) 観光地域づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ○「信州・観光地域づくりマネジメント塾[*]」などにより「観光地域づくりマネージャー[*]」となりうる人材を育成します。 ○地域資源を活かした滞在プログラムの造成・販売・情報発信などを地域が一体となって行う取組を支援します。
(2) おもてなしの向上	<ul style="list-style-type: none"> ○信州おもてなし推進県民会議（仮称）を組織し、官民一体のおもてなし推進の県民運動を展開します。 ○「観光おもてなし宣言」や「観光おもてなし実践者」の登録を進めることなどにより、県をあげたおもてなし向上に取り組みます。
(3) 地域性豊かな食に触れる機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○宿泊施設や飲食店において、地域の素材を活かしそれを経済活動に結びつける地産地消の取組を進め、県産食材や郷土食など地域性豊かで魅力的な食に触れる機会を提供します。
(4) 心豊かな過ごし方の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○旅館やホテルなどでアーティストの発表の場の創出支援を行うなど、観光地での心豊かな時間を提供します。
(5) 教育旅行の誘致と体験の機会の提供	<ul style="list-style-type: none"> ○官民が一体となり、国内外からの教育旅行の受入や農山村でしかできない体験を取り入れた交流を促進します。
(6) ロケーション撮影の支援	<ul style="list-style-type: none"> ○県内のフィルムコミッション[*]のネットワークを活かして、映画やドラマのロケーション撮影の誘致・支援を推進します。

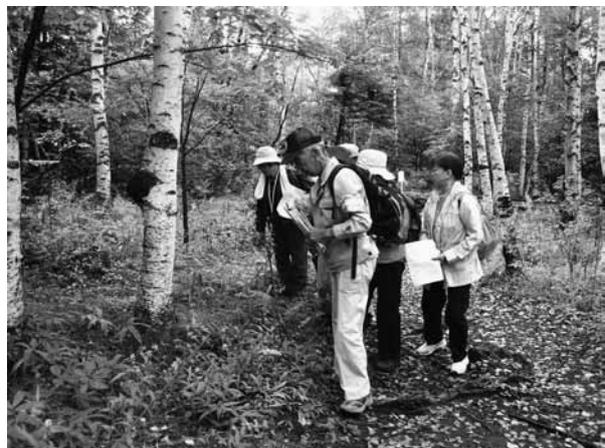
3 各主体に期待される取組

主 体	期 待 さ れ る 取 組 内 容
信州・長野県 観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ○観光地域づくりに向けた各主体への働きかけ ○自然環境や農林業、伝統・文化・芸術・祭りなど地域の観光資源を活かした滞在プログラムづくりの推進 ○地域の特性を活かした、他分野と連携した新たな旅行商品の造成・販売 ○各地域の魅力の情報発信
観光事業者	<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自然環境や農林業、伝統・文化・芸術・祭りなど地域の観光資源を活かした滞在プログラムづくり ○観光地域づくりへの積極的な参加 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>《宿泊業者、飲食業者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○その地域ならではの食材や飲み物を使用した食事やサービスの提供 <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>《旅行業者ほか》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の観光資源を活かした新たな着地型旅行商品の造成・販売
幅広い関連事業者	<ul style="list-style-type: none"> ○観光地域づくりへの各々の立場での参加 ○観光事業者と連携した、観光×農業、観光×工業、観光×文化、観光×健康など新たな観光の魅力の創出
観光関連団体	<ul style="list-style-type: none"> ○観光地域づくりにおける中心的な役割 ○マーケティングの実施と、観光事業者が必要とする情報の提供 ○自然環境や農林業、伝統・文化・芸術・祭りなど地域の観光資源を活かした滞在プログラムづくり ○サービスの質の向上のための研修などによる地域一体となったおもてなし気運の醸成 ○観光ガイドなどのおもてなし意識や技術の向上 ○地域の魅力の情報発信
地域住民、 NPO、 ボランティア など	<ul style="list-style-type: none"> ○観光地域づくりへの参加 ○気持ちのよいあいさつや声かけなど地域ぐるみで来訪者を温かく迎え入れるおもてなしの実践 ○景観の育成、地域文化の伝承の活動への参加 ○観光ガイド、交流活動などへの参加 ○それぞれの「信州暮らし」の実践と発信

主 体	期 待 さ れ る 取 組 内 容
市町村	<ul style="list-style-type: none"> ○自然環境や農林業、伝統・文化・芸術・祭りなど地域の観光資源を活かした観光地域づくりへの支援 ○地域一体となったおもてなし気運の醸成に向けた普及・啓発 ○複数のエリアや他県と連携した観光ルートづくりなど広域観光の推進
大学など	<ul style="list-style-type: none"> ○地域をあげた観光地域づくりへの専門的見地からのアドバイス ○観光を担う人材の育成・輩出、公開講座の開催や社会人の受入などによる観光関連事業者の知識や能力の向上への協力



信州・観光地域づくりマネジメント塾の受講風景



高原ガイドによる自然とのふれあい（佐久穂町）

【用語解説】

- ※共創 多様な主体がそれぞれの持つ特性や創造性を相乗的に発揮し、新しい発想で新たな価値を創り出すこと
- ※信州・観光地域づくりマネジメント塾 観光地域づくりマネージャーとなりうる人材の育成を目的に、平成24年6月に開講
- ※観光地域づくりマネージャー 観光地域づくりに関して地域がめざすべき方向性を企画・立案し、関係者との認識共有及び合意形成を行い、かつ具体的な事業の実務を適正に実施するために必要な知識及び経験を有する者（観光圏整備法に基づく「観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する基本指針」二1（4））
- ※フィルムコミッション 映画、テレビドラマ、CMなどのロケーション撮影の誘致や、実際の撮影をスムーズに進めるための諸手続きを行う非営利公的機関

コラム3

～ 観光地域づくり ～

この計画のキーワード「観光地域づくり」とは、観光による交流人口の拡大や地域経済の活性化を目的として、身近にある自然や景観、伝統や文化などの地域資源を活かしながら、住民参加のもと、地域の幅広い関係者が一体となって進める地域づくりのことをさします。

これからの観光振興では、来訪者に①少しでも長く滞在してもらう、②何度でも訪れてもらうという視点が求められています。このような視点の下で、「地域の日常」をありのままに楽しむという来訪者のニーズに応えながら、地域づくりと一体となった観光地域づくりに取り組むことで、来訪者にその地域のファンになっていただくことが重要です。

行政や観光関連団体、観光事業者のみならず、県民や幅広い事業者の皆さんが参加する観光地域づくり活動により、今ある観光資源と地域に根ざした農林業、健康長寿などを結びつけ、新たな価値を創造しましょう。

長野県ではこの計画を推進する中で、観光地域づくりをけん引する人材を育成するとともに、地域資源を活かした滞在プログラムの造成をはじめとする地域が一体となった観光地域づくり活動を支援します。

「第4編 エリア別の観光地域ビジョン」に掲げられた各地域のキャッチフレーズがバラエティに富んでいることが示すように、各地域にはそれぞれの「信州暮らし」があります。各地域の魅力を磨き上げるとともに、それぞれの魅力をつなぎ合わせることにより、長野県全体の魅力が高まることが期待されます。

観光地域づくりで地域の魅力を高めましょう。
そして、それぞれの地域の魅力をつなぎ合わせ、
長野県全体の魅力を高めましょう。



信州らしい過ごし方：温泉（高山村）



信州らしい過ごし方：スキー

食や物産、サービスの価値の向上とブランドとしての発信

1 プロジェクトの概要

《目 標》

- 信州らしい食や物産、サービスの魅力を向上させるとともに、信州ブランドとして期待以上の価値を提供します。

《必 要 性》

- 食や物産、サービスの価値を高めることが求められており、中でも、食は旅先を決定する上で最も重要な要素の一つとなっています。
- また、国内外から選ばれ続ける観光地となるため、食や物産、サービスの質を、期待を裏切らない、さらには、期待以上の価値を提供するブランドの域にまで高めるとともに、地域のイメージと合わせて統一感をもって強力に発信することが重要です。
- これらを多様な主体が参画して取り組むプロジェクトとして推進する必要があります。

《主な取組》

～観光関係者、幅広い関連事業者、県民等が一体となって取り組む項目～

- (1) 食の魅力向上とその背景にある文化の発信、土産物などの物産の振興
- (2) おもてなしの向上による観光地としてのブランド化
- (3) 食や物産、サービスのブランド価値の開発や磨き上げ
- (4) 信州ブランドの国内外への発信による誘客や流通・販売の拡大

2 県の主な取組

項目	取組内容
(1) 食の魅力向上、物産の振興	<ul style="list-style-type: none"> ○来訪者に魅力ある信州の食材や食文化を提供するための観光事業者向けの啓発講座の開催や県内外への魅力の発信に取り組みます。 ○ワイン用ぶどう栽培やワイナリー経営への新規参入者に対する支援、ワインの販路拡大、ワインツーリズム[*]の普及などに取り組む「信州ワインバレー構想」の推進により、日本の代表的なワイン産地としての地位と、「NAGANO WINE」のブランドの確立をめざします。 ○県内外の大規模店舗等を活用した情報発信を兼ねたテストマーケティングの実施により一般消費者のニーズを把握し、県産品の品質向上を図ります。 ○長野県原産地呼称管理制度[*]や信州プレミアム牛肉認定制度[*]により厳選された品目、全国的にシェアが高い品目や県内で育成されたオリジナル品種、信州伝統野菜認定制度[*]により認定された地域に伝わる野菜などを「おいしい信州ふど(風土)」[*]として積極的に発信し、県内外での県産農畜産物全体の知名度向上を図ります。 ○信州ジビエ研究会と連携し、安全・安心で良質なシカ肉の供給、需要拡大、プロモーション活動など、総合的なジビエ[*]振興を推進します。
(2) 観光地としてのブランド化	<ul style="list-style-type: none"> ○観光事業者のおもてなしの向上や官民一体となった「おもてなしキャンペーン」の展開などにより、来訪者の気持ちが高まり、地域づくりに取り組み、観光地としてのブランド化を図ります。
(3) ブランド価値の開発や磨き上げ	<ul style="list-style-type: none"> ○食や物産、サービスの信頼性を保証・PRすることにより、信州ブランドにふさわしい商品等の提供や質の向上に向けた生産者などの意欲の向上を図ります。 ○試験研究機関、大学、企業等のネットワーク化や身近に支援が受けられる相談体制の整備により、特色ある地域資源を活かした食や物産、サービスの開発やブランド力の強化に取り組めます。 ○大都市圏等での魅力の発信、長野県原産地呼称管理制度の認知度向上などにより、ワイン・日本酒・お米などのブランド化を推進します。

項目	取組内容
(4) 信州ブランド としての発信	<p>○県内外に信州ブランドを普及・定着させるため、「信州らしさ」を表現する際の根幹をなし、県民総参加による信州ブランドの確立に向けた取組の合言葉となる信州ブランドコンセプトなどを継続的に発信します。</p> <p>○企業、関係団体、県民、行政機関が一体となって県民会議を組織し、「信州ブランド戦略」を効果的に推進します。</p> <p>○県をあげたブランドづくり・ブランド磨きの県民運動の定着・拡大のため、キックオフイベント、信州ブランドフェア、信州ブランドフォーラム・アワードの開催などに取り組みます。</p> <p>○市町村や産業界と協働して大都市圏へのブランド発信拠点の設置を検討するなど信州ブランドの県内外への発信に取り組み、誘客や流通・販売の拡大、長野県を支援する潜在的応援団の獲得や連携強化を進めます。</p> <p>○「おいしい信州ふーど（風土）大使」との連携、海外でのNAGANOフェアなどにより、「おいしい信州ふーど（風土）」の認知度向上を図ります。</p>



信州ブランドフォーラム&シンポジウム

3 各主体に期待される取組

主 体	期 待 さ れ る 取 組 内 容
信州・長野県 観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ○食や物産、サービスの価値の向上による観光魅力づくりに向けた各主体への働きかけ ○商談会やPRイベントなどを活用した、各地域の食や物産の魅力づくりの推進 ○各地域の食や物産、サービスの情報発信 ○信州ブランドのイメージアップに向けた情報発信
観光事業者	<p>《共通》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○従業員の接客・マナー・サービス研修などによる、おもてなし意識と技術の向上 ○信州に寄せられる期待に応えられるような質の高いサービスの提供と、サービスのブランドとしての磨き上げ <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>《宿泊業者、飲食業者》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域食材を活用した食事の提供、演出の工夫や物語性の付与などによる食と観光の新たな魅力づくりと発信
幅広い関連事業者	<ul style="list-style-type: none"> ○信州らしい食や物産の開発・生産による地域の魅力づくり ○信州に寄せられる期待に応えられるような質の高い食や物産の開発・生産 ○食や物産の信州ブランドとしての磨き上げと発信
観光関連団体	<ul style="list-style-type: none"> ○地域固有の食材や伝統料理などの普及 ○市町村と連携した、地域の魅力ある食や物産の発信 ○商談会やPRイベントなどを活用した、地域の魅力ある食や物産の宣伝
地域住民、 NPO、 ボランティア など	<ul style="list-style-type: none"> ○伝統料理など地域固有の食文化の伝承 ○地域ならではの食や物産を活かした地域の魅力づくりへの参加 ○それぞれの地域の「信州らしさ」の発掘と自信をもった発信

主 体	期 待 さ れ る 取 組 内 容
市町村	<ul style="list-style-type: none"> ○その地域ならではの伝統的な食文化や食材、物産などの発掘 ○地域食材を利用した特色あるメニューづくりと、それを活かした観光の魅力づくりへの支援 ○食や物産による地域の魅力づくりの推進 ○インターネットや道の駅を活用した発信 ○県と市町村が連携した信州ブランドのイメージアップに向けた発信
大学など	<ul style="list-style-type: none"> ○地域性豊かな食や物産が育まれた風土や歴史の研究、地域の食材を活用したメニューづくりのアドバイス ○信州のブランド力向上に向けた専門的見地からのアドバイス



信州らしい食の魅力を高める食材（ワイン用ぶどう、ジビエ）

【用語解説】

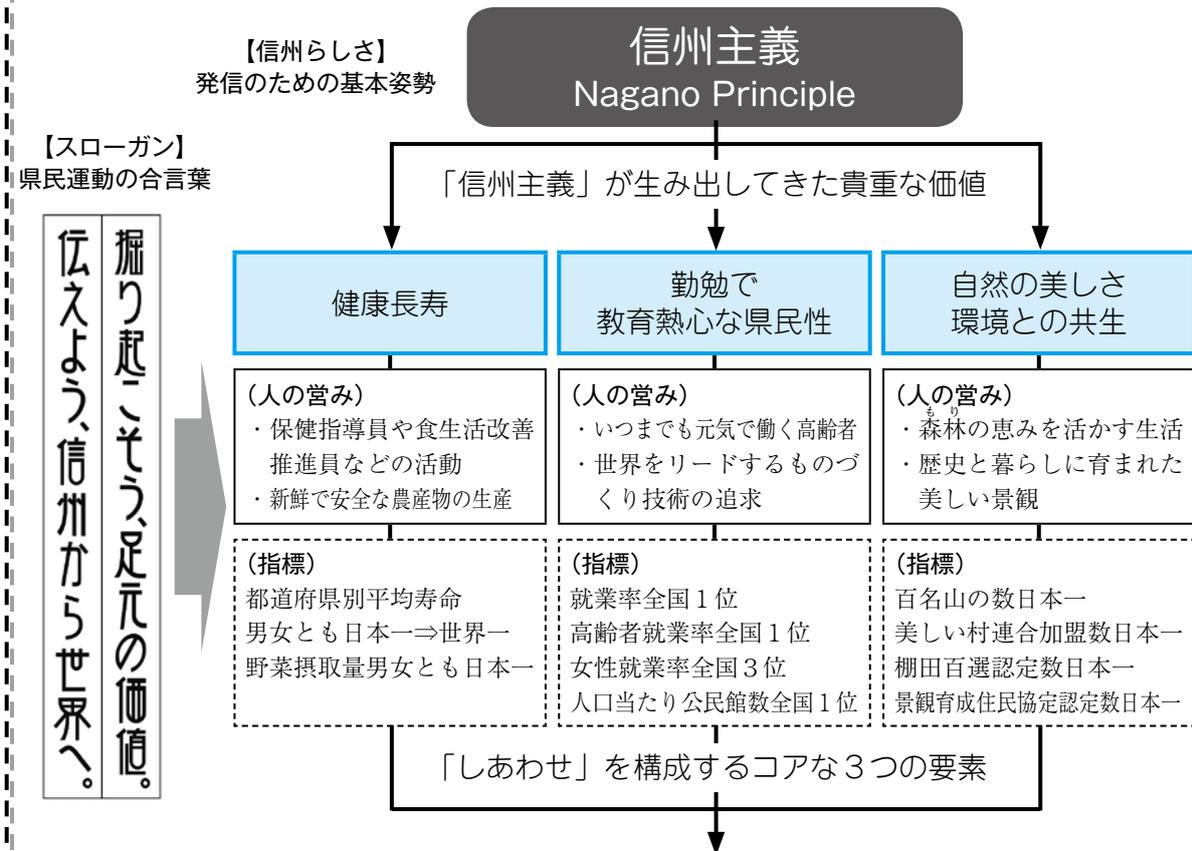
- ※ワインツーリズム ブドウ畑を訪れ、ワイン造りの過程に触れ、ワインに関わる人々と交流することで、その土地の風土や文化を感じることを目的とした旅
- ※長野県原産地呼称管理制度 県産農産物のブランド化を目的として、県内で生産・製造された農産物や農産物加工品を原料・栽培方法・味覚を基準に評価し、味と品質が特に優れたものを認定する制度
- ※信州プレミアム牛肉認定制度 安全・安心について県の認定を受けた農場で育てられた黒毛和種のうち、県独自のおいしさ基準（香りと口溶けを左右するオレイン酸含有率）を満たす牛肉を認定する制度
- ※信州伝統野菜認定制度 伝統野菜の保存と継承を目的として、信州の食文化を支える行事食・郷土食の素材として伝承されている野菜を認定する制度
- ※「おいしい信州ふード（風土）」 信州の豊かな風土から生まれた食べ物のうち、「プレミアム」（厳選素材と厳密基準）、「オリジナル」（オリジナル品種と全国シェア上位品目）、「ヘリテイジ」（伝統野菜と郷土食）の3つの基準で選ばれた信州産食品の統一ブランド名
- ※ジビエ 捕獲した野生鳥獣の肉をジビエ（jibier:仏語）という。ジビエ料理は、フランス料理の中でも最も古典的で高級な料理に位置付けられている。

コラム4

～ 信州ブランド戦略 ～

「信州らしさ」とキャッチフレーズ、スローガン

「信州」のブランドイメージを確立するため、県民みんなで「信州らしさ」や「信州の魅力」を県内外に統一感をもって発信するとともに、信州の価値に磨きをかけていきましょう。



【ロゴマークの愛称】
「信州ハート」



【キャッチフレーズ】
県内外への発信

しあわせ信州

キャッチフレーズ

「しあわせ信州」に込められた思い

信州で感動したもの・・・高原を吹き抜けるさわやかな風、満天の星、凜としてそびえる山岳、農村の豊かな暮らし、いつまでも元気で働ける喜び、スキーの後の温泉、何百年も受け継がれている祭り、製造業や工芸品に光る「技」、みずみずしい野菜や果物・・・数多くの声をいただきます。

私たちは、信州を愛する多くの人と、この「しあわせ」を分かち合いたいと願っています。「しあわせ信州」にはそのような願いが込められています。

第2章 県の観光振興施策

- 長野県観光のめざす姿を実現するためには、重点的に取り組むプロジェクトに加えて、長野県観光の強みをさらに伸ばし、弱みには対策を講じ、長野県の魅力をさらに磨くことが重要です。
- このため、5年間の計画期間に県が行う観光振興施策を5つの分野に体系化し、着実に取り組みます。

施策分野	中分類
1 観光地域づくりを担う人材の育成	(1) 観光を担う人材の育成
	(2) 観光に対する意識の醸成
	(3) おもてなしの向上
	(4) 地域の連携・協働の促進
2 強みを活かした信州観光の質の向上	(1) 新しい観光の魅力づくり
	(2) 食の魅力向上と物産の振興
	(3) 観光地域づくり組織の育成と他分野との連携の促進
	(4) 信州ブランドとしての磨き上げと発信
3 来訪者にやさしいハード・ソフト整備	(1) 自然や景観など観光資源の保全・継承
	(2) 来訪者の利便性や快適性の向上
	(3) 来訪者にやさしい地域づくり
	(4) 観光産業の振興と観光事業者の競争力向上
4 市場のニーズを踏まえた誘客、交流の促進	(1) 観光情報の発信と宣伝
	(2) 効果的な誘客の促進
	(3) 交流の促進
	(4) 北陸新幹線延伸を活かした誘客の促進
	(5) 広域観光の推進
5 ゴールデンルートに負けない外国人旅行者誘致戦略	(1) 誘客体制の整備
	(2) 戦略的な外国人旅行者誘致の促進
	(3) 訪日教育旅行の誘致

1 観光地域づくりを担う人材の育成

- ◇地域全体で観光地域づくりに取り組む上では、観光関係者のみならず県民や幅広い事業者が参画することが不可欠です。
- ◇行政や観光関係団体、観光産業に直接携わる事業者には、観光地域づくりをけん引する能力や、多様化する観光ニーズを踏まえマーケティングに基づいて事業を展開する能力などが求められます。
- ◇来訪者に再び訪れてもらうため、観光サービスや訪れた地域の満足度を高めることが重要です。
- ◇観光の視点ばかりでない幅広い地域づくりの活動により、来訪者が訪れたいと思う魅力ある地域となることも大切です。
- ◇これらを踏まえ、観光を担う人材の育成、観光に対する県民意識の醸成やおもてなしの向上に取り組むとともに、地域の連携・協働を促進します。

(1) 観光を担う人材の育成

観光地域づくりを進めるため、地域をけん引する人材をはじめとして、観光を担う人材の育成に取り組みます。

- 「信州・観光地域づくりマネジメント塾^{*}」を運営し、「観光地域づくりマネージャー^{*}」となりうる人材を育成するとともに、その活動を支援します。
- 観光事業を展開する上で、観光マーケティングを実施できる人材を育成します。
- 観光旅行者の満足度に関する情報やおもてなし向上のための教材の提供を通じ、おもてなし向上に向けた観光事業者の自主的な取組を促進します。
- 魅力ある農村資源を活かした体験農園や農家レストラン、農家民宿など観光農業に取り組む人材を育成します。
- 登山者に安全で楽しい登山の機会を提供する信州登山案内人^{*}について、新規登録の増加をめざすとともに、有資格者の技術やホスピタリティの向上を図る取組を進めます。

(2) 観光に対する意識の醸成

観光地域づくりへの県民や幅広い事業者の参画を促進するため、観光振興に対する意識醸成や子どもの頃からの地域学習などに取り組みます。

- 誰もが自らの地域に誇りを抱きながら来訪者と「信州暮らし」を楽しむことができるように、出前講座や観光関連のフォーラムなどの機会を活用し、県民の観光振興に対する意識の醸成に取り組みます。
- 豊かな自然や地域の文化に関する体験的な学習を通じたふるさと教育を推進します。
- 森林体験や森林学習の場の提供などにより、美しい景観を構成し、来訪者の心を癒す森林や森林づくりへの県民の理解を深めます。

(3) おもてなしの向上

顧客満足度を向上させるため、観光事業者はもとより、県民一人ひとりが来訪者を温かく迎える気運の醸成を図ります。

- 県民一人ひとりが来訪者を温かく迎える気運を醸成するため、官民一体となった「おもてなしキャンペーン」を推進します。
- 「観光おもてなし宣言」、「観光おもてなし実践者」の登録を進めるなど、県をあげたおもてなしの向上に取り組みます。
- おもてなしの実践や観光地トイレの美化のノウハウについての研修を実施し、県民が主体となった観光地の美化活動を促進します。

(4) 地域の連携・協働の促進

来訪者を惹き付ける地域の魅力づくりのため、地域の連携・協働による取組を促進します。

- 市町村や住民などが協働して、自らの知恵と工夫により自主的・主体的に行う、地域の元気を生み出す活動を支援します。
- アダプトシステム*など地域と連携した取組を推進し、道路沿線などの環境美化や景観育成を進めます。
- 県民との協働により、外来植物の駆除や河川環境の美化などの環境保全活動を推進します。
- 市町村の景観行政団体*への移行の促進や景観育成活動を担うリーダーの育成など、地域が主体となった景観づくりが行われるよう支援します。

【施策分野の達成目標】

指標名	現状	目標 (平成29年度)	備考
旅行者満足度 [再掲]	実績値なし	大変満足 20% 必ず再訪したい 20%	県内の観光地で「大変満足」「必ず再訪したい」と回答する観光旅行者の割合（観光旅行者満足度調査） [全国の著名な観光地と比較しても遜色ない数値を目標として設定]
信州・観光地域づくりマネジメント塾の修了者数	実績値なし	40人	観光地域づくりマネージャーとなりうる人材の育成を目的に開講する塾の修了者数
観光事業者、地域住民等のおもてなしに対する満足度	実績値なし	大変良かった 20%	宿泊施設、観光・文化施設、飲食施設、物販施設の従業員または店員などのおもてなしを「大変良かった」と回答する観光旅行者の割合（観光旅行者満足度調査）

【用語解説】

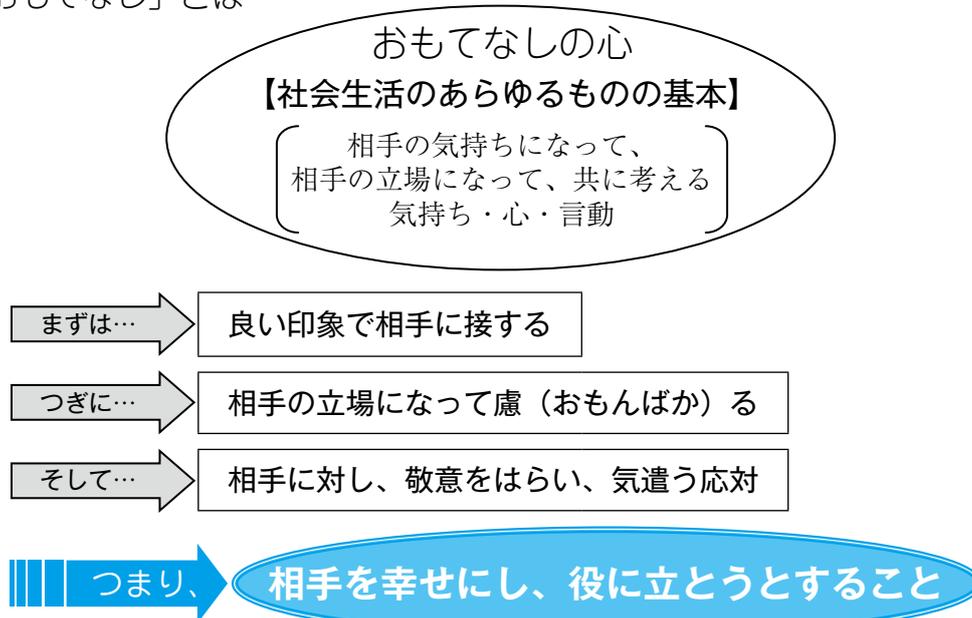
- ※信州・観光地域づくりマネジメント塾 観光地域づくりマネージャーとなりうる人材の育成を目的に、平成24年6月に開講
- ※観光地域づくりマネージャー 観光地域づくりに関して地域がめざすべき方向性を企画・立案し、関係者との認識共有及び合意形成を行い、かつ具体的な事業の実務を適正に実施するために必要な知識及び経験を有する者（観光圏整備法に基づく「観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する基本指針」二1（4））
- ※信州登山案内人 信州登山案内人条例に基づき、長野県知事の登録を受け、信州登山案内人の名称を用いて、県内において登山等を行う者に付き添ってその案内を行うことを業とする者
- ※アダプトシステム 自治体と住民がお互いの役割分担について協定を結び、継続的に美化活動を進める制度。アダプトとは「養子縁組をする」という意味で、住民が道路などの公共スペースを、養子のように愛情をもって面倒を見る（清掃・美化）ことから命名された。
- ※景観行政団体 地域の景観行政を担う主体として景観法で規定される市町村や都道府県

コラム5

～ おもてなし ～

「おもてなし」は、旅館やタクシーの従業員がお客様を迎える場合ばかりでなく、来訪者の立場に立った優しい気持ちがあれば、誰にでも実践できます。また、地域全体がおもてなしに取り組むことにより、来訪者の満足度が高まるばかりでなく、地域の活性化につながります。

「おもてなし」とは…



【誰にでも実践できるおもてなしの例】

- ・ 来訪者への明るいあいさつ
- ・ 自分が暮らす地域の美化や景観づくり
- ・ 地域のお祭りやイベントに参加して来訪者とともに楽しむこと

長野県ではこの計画を推進する中で、「信州おもてなし推進県民会議（仮称）」を組織し官民一体の県民運動に取り組むとともに、「観光おもてなし宣言」や「観光おもてなし実践者」の登録を進め、県をあげたおもてなし向上に取り組めます。

また、おもてなし向上のための教材の提供や観光旅行者の満足度に関する調査などを通じて、観光事業者のおもてなし向上のための自主的な取組を促進します。

2 強みを活かした信州観光の質の向上

- ◇人々が何度でも訪れたいと思う地域となるためには、豊かな自然がもたらし、信州の暮らしが育んだ観光資源と健康長寿などのポテンシャルを結びつけ、新たな価値を創造することにより、信州観光の質をこれまで以上に向上させることが不可欠です。
- ◇地域間競争が激化する中では、質を高めるばかりでなく、その魅力を信州ブランドとして対外的に発信し、リピーターや新たな顧客の獲得につなげることが重要です。
- ◇これらを踏まえ、他分野と連携した新しい観光の魅力づくり、食の魅力向上や物産の振興、その魅力をワンストップで提供する観光地域づくり組織の育成に取り組むとともに、その魅力のブランド化を進めます。

(1) 新しい観光の魅力づくり

信州らしい農山村の暮らし、地域に根ざした多様な伝統文化、国際的なレベルの芸術などの強みを活かし、新しい観光の魅力づくりに取り組みます。

- 地域資源を活用した6次産業化[※]や農家民宿、観光農園など農山村における新たなビジネスの創出を促進します。
- 都市との交流にもつながる森林（もり）の里親制度[※]や森林セラピー[※]といった森林空間の活用など、森林資源の多様な利活用を促進します。
- 豊かな自然と気軽にふれあえる県営公園（烏川溪谷緑地、南信州広域公園）の環境整備を行います。
- 地域に受け継がれる祭りや歌舞伎、人形芝居など、国、県が指定した文化財を継承する取組を支援します。
- 文化芸術の発信拠点としての機能を高めるための信濃美術館の整備や、歴史文化の魅力を発信する拠点としての県立歴史館の機能向上について検討するとともに、県内の美術館や博物館のネットワーク化を進めます。
- サイトウ・キネン・フェスティバル松本、県民文化会館とウィーン楽友会館との姉妹提携などの国際的な交流を行います。

- 県内プロスポーツチーム等との連携によりスポーツを核とした青少年の健全育成、健康増進、観光振興などの取組を推進します。
- 長野県独自の信州登山案内人制度や山岳遭難防止の取組などにより、登山者に安全で楽しい登山の機会を提供します。

(2) 食の魅力向上と物産の振興

伝統的な食文化、ワイン、ジビエなど長野県ならではの食の魅力向上、土産物などの物産の振興に取り組みます。

- 来訪者に魅力ある信州の食材や食文化を提供するための観光事業者向けの啓発講座の開催、県内外への魅力の発信に取り組みます。
- ワイン用ぶどうの栽培、ワインの醸造、販売促進などワインに関連する様々な産業を有機的に結びつけて活性化させるとともに、ワイナリーの起業をめざす新規参入者の育成により、県産ワインの振興に取り組みます。
- 県内外の大規模店舗等を活用した情報発信を兼ねたテストマーケティングの実施により一般消費者のニーズを把握し、県産品の品質向上を図ります。
- 自然環境を大切にするという意識のもと化学肥料や化学合成農薬の使用を減らした生産方式の導入などに取り組む農業者を育成し、環境にやさしい農業への取組を推進するとともに、環境農業で生産された農畜産物の価値を高めます。
- 長野県原産地呼称管理制度^{*}や信州プレミアム牛肉認定制度^{*}により厳選された品目、全国的にシェアが高い品目や県内で育成されたオリジナル品種、信州伝統野菜認定制度^{*}により認定された地域に伝わる野菜などを「おいしい信州ふード（風土）」^{*}として積極的に発信し、県内外での県産農畜産物全体の知名度向上を図ります。
- 信州ジビエ研究会と連携し、安全・安心で良質なシカ肉の供給、需要拡大、プロモーション活動など、総合的なジビエ^{*}振興を推進します。

- 食品衛生法やJ A S法など食品表示関係法令の普及・啓発と土産品や農産加工品の適正な食品表示を徹底し、食に対する安全性と信頼の確保を図ります。
- 地域産業活性化基金などを活用し、地域資源を活用した新たな観光の魅力づくりを支援します。

(3) 観光地域づくり組織の育成と他分野との連携の促進

来訪者に質の高い過ごし方を提案するため、地域全体の情報発信から商品の企画・販売までを一元的に行う仕組みづくり、他分野との連携による旅行商品の造成・販売の促進により、新たな観光需要に対応します。

- 観光の視点から地域全体をマネジメントしつつ、観光旅行者に対して宿泊や交通の予約手配や滞在交流型プログラムの販売などのサービスをワンストップで提供する組織基盤の構築を支援します。
- 観光×農業、観光×林業、観光×工業、観光×スポーツ、観光×文化、観光×健康、観光×環境など他分野と連携した旅行商品づくり支援などに取り組みます。
- 幅広い事業者が連携した山岳高原観光地らしい滞在交流型プログラムの創出を支援します。

(4) 信州ブランドとしての磨き上げと発信

長野県の食や物産、サービスの信州ブランドとしての磨き上げと国内外への統一感ある発信に取り組みます。

- 県民と信州ブランドのコンセプトを共有し、県内外に「信州らしさ」の統一感のある発信を行います。
- 特色ある地域資源を活用した商品・サービスの開発への支援、その品質を担保する仕組みづくりやイメージアップに取り組むことなどにより、各地域のブランドの創出を促進します。
- 市町村や産業界と協働して大都市圏へのブランド発信拠点の設置を検討するなど、信州ブランドの普及・拡大を推進します。

【施策分野の達成目標】

指標名	現状	目標 (平成29年度)	備考
観光消費額 [再掲]	3,063 億円 (平成23年)	3,300 億円 (平成29年)	県内観光地内で観光旅行者が支出した宿泊費、交通費、飲食費等の総計（観光地利用者統計調査） [平成24年実績見込から5%増加を目標に設定]
滞在交流型プログラム群創出地域数	実績値なし	4 地域 (平成25～29年度累計)	県の支援により、体験メニューやイベントなど地域の観光資源をつなぎ合わせた滞在の仕組みと住民との交流空間を創出するためのプログラムづくりに取り組む地域の数
信州ブランドの県民認知度	実績値なし	80 %	信州ブランドの確立に向けた取組を知っている県民の割合（県政モニター調査） [大多数の県民に認知されていることを目標として設定]
都道府県別地域ブランドランキング	17 位 (平成22年度)	10 位以内	都道府県に対する「購入意向」「訪問意向」「居住意向」「独自性」「愛着度」の5項目についてのアンケート調査などを総合評価した民間調査結果 [過去最高位（10位）を目標として設定]

【用語解説】

- ※6次産業化 第1次産業（農林水産業）が第2次産業・第3次産業と連携、異業種交流し、経営の複合化・多角化を進めること
- ※森林（もり）の里親制度 荒廃した里山の再生のため、県が仲人となり、企業等の社会貢献活動を誘導し、森林整備や交流等を通じた森林づくりを推進する制度
- ※森林セラピー 森林浴で得られる森林の癒し効果を、医療やリハビリテーション、カウンセリングに利用する療法のこと
- ※長野県原産地呼称管理制度 県産農産物のブランド化を目的として、県内で生産・製造された農産物や農産物加工品を原料・栽培方法・味覚を基準に評価し、味と品質が特に優れたものを認定する制度
- ※信州プレミアム牛肉認定制度 安全・安心について県の認定を受けた農場で育てられた黒毛和種のうち、県独自のおいしさ基準（香りと口溶けを左右するオレイン酸含有率）を満たす牛肉を認定する制度
- ※信州伝統野菜認定制度 伝統野菜の保存と継承を目的として、信州の食文化を支える行事食・郷土食の素材として伝承されている野菜を認定する制度
- ※「おいしい信州ふード（風土）」 信州の豊かな風土から生まれた食べ物のうち、「プレミアム」（厳選素材と厳密基準）、「オリジナル」（オリジナル品種と全国シェア上位品目）、「ヘリテイジ」（伝統野菜と郷土食）の3つの基準で選ばれた信州産食品の統一ブランド名
- ※ジビエ 捕獲した野生鳥獣の肉をジビエ（jibier：仏語）という。ジビエ料理は、フランス料理の中でも最も古典的で高級な料理に位置付けられている。

3 来訪者にやさしいハード・ソフト整備

- ◇来訪者に癒しや楽しみ、感動を提供する信州らしい自然環境や景観、伝統や文化などを未来に向けて守り続けることが不可欠です。
- ◇車を利用することが少ない高齢者、女性や子どもの視点を重視した来訪者にやさしい地域づくりや来訪者の利便性・快適性の向上に取り組むことが重要です。
- ◇厳しい状況にある観光産業が、地域と来訪者を結びつける役割を果たしながら、地域経済や雇用を支える産業の柱として発展していくことが大切です。
- ◇これらを踏まえ、観光資源の保全・継承や来訪者の利便性・快適性の向上などに取り組むとともに、観光産業の振興や観光事業者の競争力向上を図ります。

(1) 自然や景観など観光資源の保全・継承

豊かな自然や美しい景観、文化財などの観光資源を保全・継承することにより、来訪者を迎える環境整備に取り組みます。

- 環境意識の高い観光旅行者獲得のため、宿泊事業者と協働して、アメニティの節減を通じて森林づくりに貢献する信州森林ecoコインの取組を進めます。
- 地域の美しい景観を形成し観光資源としても活用される森林の多面的機能を持続的に発揮できるよう、計画的な間伐等により針広混交林化など多様な森林の整備を進めます。
- 自然公園、中部北陸自然歩道において、標識、遊歩道などの施設の補修、整備を行います。
- 信州の美しく豊かな農村景観を次代に引き継ぐため、市町村との連携や県民参加により、広域にわたる農村景観育成の取組を進めます。
- まち並みや風景などの美しい景観を形成するため、無電柱化を進めます。
- 観光地の良好な景観を阻害する廃屋問題を解決するための方策について検討を進めます。
- 伝統的建造物群や史跡、名勝、文化的景観など、国、県が指定した文化財を維持・継承し、観光資源として活用する取組を支援します。

(2) 来訪者の利便性や快適性の向上

I C Tを活用した情報提供、観光地までのアクセスの向上や観光地の美化など来訪者の利便性や快適性の向上に取り組みます。

- 長野県公式観光サイトにおける観光情報データベースの充実、A R（拡張現実）機能を有するモバイルサイトによる情報提供により、来訪者の利便性の向上を図ります。
- 北陸新幹線の金沢延伸に向け円滑な整備を促進します。
- リニア中央新幹線の早期開業に向け、沿線都府県と協力して整備を促進します。
- 上信越自動車道の4車線化とともに、中部横断自動車道や中部縦貫自動車道、三遠南信自動車道の整備を促進します。
- 信州まつもと空港の路線の拡大などにより国内線の利用を促進するとともに、国際チャーター便の誘致などに取り組みます。
- 主要な鉄道駅と観光地を結ぶバス路線の確保や案内機能の強化、乗り継ぎの円滑化の促進などにより観光客が移動する際の利便性の向上を図ります。
- イライラ・ハラハラ箇所をはじめとする交通渋滞や危険箇所の解消等により、観光地へのアクセス・周遊機能の向上にも資する幹線道路網などの整備を推進します。
- 誰もが快適に観光地めぐりをすることができるよう、観光地トイレの美化を進めます。

(3) 来訪者にやさしい地域づくり

高齢者、子ども、女性の視点を重視した来訪者にやさしい地域づくりに取り組みます。

- 観光地でおいしい空気を満喫できるよう関係者の理解の促進を図るなど、受動喫煙防止・禁煙対策に取り組みます。
- 高齢者や障害者など誰もが利用しやすい低床バスや環境負荷の少ないバスなど、人や環境にやさしいバスの導入を促進します。

- 地域鉄道の安全性の確保やサービスの向上、バリアフリー化のための設備整備を促進します。
- 観光地において、わかりやすい道路標識の整備を進めます。
- 高齢者や障害者などに配慮した街路や都市公園等の整備を進めることで、誰もが暮らしやすいまちづくりを推進します。
- 来訪者が県内を安心して旅行できるよう、日頃からの訓練など災害に備えた体制整備や各地域の観光地パトロールへの支援などにより、関係者が連携した安全対策を進めます。

(4) 観光産業の振興と観光事業者の競争力向上

観光事業者と関係者が一体となった観光産業の振興に向けた方向性の検討や、観光事業者の競争力向上に取り組めます。

- 国内外の来訪者で賑わう観光地づくりに向けて、県と市町村と地域が一体となって、世界水準の山岳高原観光地^{*}づくりの研究を進めます。
- 長期滞在により来訪者がゆったりと信州らしくすごせる宿泊モデルへの転換を図り、宿泊施設の業態を研究します。
- 「信州暮らし」を来訪者にも楽しんでいただくため、地域の観光案内所が「来訪者と地域住民とのふれあいの場」となるよう、機能向上に取り組めます。
- 中小企業者が事業に必要な資金を円滑に調達できるようにするため、金融機関や信用保証協会と協調し、低利の融資あっせんを行います。
- 中小企業金融円滑化法の終了を踏まえ、中小企業の経営改善を支援するため、相談体制を整備します。
- 専門家の派遣などにより、観光事業者の経営革新に向けた取組を支援します。
- 旅館や飲食店など生活衛生に係る営業者への監視指導の実施や営業者による自主管理体制の強化の推進などにより、衛生水準の維持・向上に取り組めます。

【施策分野の達成目標】

指 標 名	現 状	目 標 (平成29年度)	備 考
信州森林ecoコイン参加宿泊施設数	実績値なし	500 施設	信州森林ecoコインの活動に参加する宿泊施設数
景観行政団体*市町村数	12 市町村 (H23年度)	20 市町村	景観法による景観行政団体へ移行した市町村の数 [市町村の意向調査結果をもとに設定]
県内高規格幹線道路*の供用延長	331 km (H23年度)	338 km	県内の高規格幹線道路の供用延長 [国の事業計画に基づき設定]
信州まつもと空港利用者数	76 千人 (H23年度)	120 千人	信州まつもと空港を発着する便の年間利用者数の合計 [1日1往復以上の増便を目標に設定]



誰でも森林づくりに貢献することができる信州森林ecoコイン



札幌と福岡を空路で結ぶ
信州まつもと空港

【用語解説】

- ※山岳高原観光地 雄大な山岳やさわやかな高原、美しい景観に加えて、スノーリゾートや温泉など信州を代表する強みを活かした滞在型の観光地
- ※景観行政団体 地域の景観行政を担う主体として景観法で規定される市町村や都道府県
- ※高規格幹線道路 高速交通サービスの提供を目的に、全国的な自動車交通網を構成する自動車専用道路。国の道路計画審議会の答申（昭和62年（1987年））を受け、第4次全国総合開発計画において定められている。県内の高規格幹線道路は中央自動車道、長野自動車道、上信越自動車道、中部横断自動車道、三遠南信自動車道、中部縦貫自動車道

4 市場のニーズを踏まえた誘客、交流の促進

- ◇旅行スタイルが変化し情報収集手段も多様化する中では、市場のニーズを踏まえた観光情報の発信や宣伝が欠かせません。
- ◇価値観の変化を背景とする観光需要の多様化を踏まえ、豊かな自然や農村の文化を活かした都市との交流の重要性が高まっています。
- ◇外国人旅行者の増加や高速交通網の充実を背景に進む周遊の広域化への対応が必要になっています。
- ◇これらを踏まえ、観光情報の発信と宣伝、効果的な誘客、交流の促進、広域観光の推進に取り組みます。

(1) 観光情報の発信と宣伝

市場の視点を的確に把握しながら、ターゲットを絞った観光情報を発信するとともに、その魅力の宣伝に取り組みます。

- 観光案内所機能を有する三大都市圏の長野県観光情報センターにおいて消費者や旅行者などに対し県内各地の観光情報を直接発信するとともに、東京観光情報センターの発信機能の充実・強化について検討します。
- 旅行者やメディアに向けて、観光と他分野（農業、健康、スポーツ等）が連携した旅行商品や観光資源の魅力を発信します。
- 長野県観光PRキャラクター「アルクマ」を効果的に活用したプロモーションを展開します。
- 観光情報誌により四季を通じて長野県の旬の観光情報を発信するとともに、サービスエリアや道の駅などを活用した効果的な情報発信に取り組みます。
- 長野県公式観光サイトや観光マップにより、県内各地の個性あふれる観光資源やイベント情報などを国内外に向けて発信します。
- 長野県での旅や暮らしを満喫するための会員制ファンクラブである「楽園信州ファンクラブ」や、訴求力の高い観光大使による魅力の発信に取り組みます。

- ブログシステムを活用した「長野県魅力発信ブログ」や県内の旬の情報を紹介する「メールマガジン「楽園信州」」などにより、暮らしや食、癒しなど信州の魅力を発信します。

(2) 効果的な誘客の促進

長野県の観光資源の魅力を有機的に結びつけながら、県外からの効果的な誘客を促進するとともに、県内の観光需要の拡大に向けた取組を進めます。

- 県外からの来訪を促進するため、県、市町村、観光関連団体、観光事業者等が一体となり、ターゲットを明確にしたキャンペーンを実施します。
- ファミリーを中心に誰もが楽しめる魅力あるスノーリゾートのプロモーション「信州“Family Style”」を推進することにより、新しいスノースポーツ人口を創出します。
- プロスポーツと連携し、信州まつもと空港の就航先である北海道及び九州からの誘客を促進します。
- 県内での周遊や滞在を促進するため、県民を対象とした宿泊キャンペーン、道の駅や農産物直売所などを活用したスタンプラリーを展開します。
- 交通事業者とタイアップした官民協働の大規模なキャンペーンの検討を進めます。

(3) 交流の促進

長野県の豊かな自然や農村の文化などを活かし、交流人口の拡大に取り組みます。

- スポーツ施設や宿泊施設など充実した受入環境を活かしたスポーツ合宿の誘致、豊かな自然環境などリゾートのイメージを活かしたMICEの誘致を促進します。

- 「国際青少年交流農村宣言^{*}」の普及を図り、市町村や地域と一体となって、農村交流の拡大や県内への学習旅行の誘致を促進します。
- 県内のフィルムコミッション^{*}のネットワークを活かし、長野県を舞台とする映画やテレビドラマなどのロケーション撮影の誘致と支援の環境整備などに取り組みます。

(4) 北陸新幹線延伸を活かした誘客の促進

平成26年度末に予定される北陸新幹線の金沢延伸をチャンスととらえ、北陸地域や大都市圏からの効果的な誘客に取り組むとともに、飯山新駅の認知度向上に取り組めます。

- 北陸新幹線の金沢延伸に向けて、北陸圏などでの長野県観光の認知度を向上させるとともに、新幹線の県内停車駅を核とした広域観光を推進します。
- 首都圏や関西圏からの誘客の促進と飯山新駅の認知度向上を図ります。
- 北陸新幹線の金沢延伸に対応し、隣県との共同PRに取り組めます。

(5) 広域観光の推進

北陸新幹線や高規格幹線道路の整備による高速交通網の充実、外国人旅行者の増加に対応し、広域観光の推進に取り組めます。

- 外国人など都道府県の区域を越えて周遊する観光旅行者に対応するため、中部広域観光推進協議会^{*}、中央内陸県連合広域観光推進協議会^{*}などへの参画を通じ、近隣県と連携して広域観光ルートの策定・商品化に取り組めます。
- テーマ別の広域観光ルートづくりや地域が連携した共同プロモーションの実施など、各地域の魅力をつなぎ合わせる取組を進めることにより、市町村や広域圏の枠を越えた県内周遊を促進します。

【施策分野の達成目標】

指標名	現状	目標 (平成29年度)	備考
観光地利用者数 [再掲]	8,435 万人 (平成23年)	9,000 万人 (平成29年)	県内観光地の延べ利用者数（観光地利用者統計調査） [平成24年実績見込から5%増加を目標に設定]
スキー場利用者数	697 万人 (平成23-24年)	増加	県内スキー場における延べ利用者数
都市農村交流人口	546,544 人 (平成22年度)	60 万人	農業体験などで県内を訪れる都市住民の数
学習旅行来訪学校数	3,141 校 (平成23年度)	3,600 校	来訪学校数（小学校、中学校、高等学校の計）
県観光ホームページ アクセス件数	138 万件 (平成23年度)	150 万件	公式観光ホームページ「さわやか信州旅.net」へのアクセス件数
楽園信州ファンクラブ 会員数	実績値なし	1 万人以上	長野県での旅や暮らしを満喫していただくための会員制ファンクラブの会員登録数



長野県観光PRキャラクター
「アルクマ」



楽園信州ファンクラブ

【用語解説】

- ※国際青少年交流農村宣言 平成23年（2011年）10月8日、世界中から「農村体験」として若者を受け入れ、国内外の若者の交流の場となる「世界一の青少年交流農村づくり」をめざして長野県が発表した宣言
- ※フィルムコミッション 映画、テレビドラマ、CMなどのロケーション撮影の誘致や、実際の撮影をスムーズに進めるための諸手続きを行う非営利公的機関
- ※中部広域観光推進協議会 愛知・静岡・岐阜・三重・富山・石川・福井・滋賀・長野の9県と名古屋・静岡・浜松の3市などが、官民一体となって中部地域の広域観光や産業観光の推進に取り組むため設立した協議会
- ※中央内陸県連合広域観光推進協議会 山梨・長野・岐阜の3県が連携し、「中央内陸県」の広域観光の推進に取り組むため設立した協議会

5 ゴールデンルートに負けない外国人旅行者誘致戦略

- ◇長野県を訪れる外国人旅行者は増加傾向にあるものの、本県には国際定期便が就航している空の玄関口がなく、依然としてゴールデンルートに人気が集中していることから、増加している個人旅行者を中心に県内への一層の誘客を図るためには、思い切った施策展開が必要となっています。
- ◇全国でもトップレベルといわれる訪日教育旅行についても、さらに一層の誘致を進め受入体制を充実させることが重要です。
- ◇これらを踏まえ、海外からの誘客体制を整備し、外国人旅行者を戦略的に誘致するとともに、訪日教育旅行の誘致に取り組みます。

(1) 誘客体制の整備

外国人旅行者誘致の実効性と経済効果を高めるとともに、外国人旅行者が安心して快適に旅行ができるようにするため、官民一体となった誘客体制の整備に取り組みます。

- 中国を中心とする中華圏からの個人旅行者を対象とした首都圏と長野県内の観光地を結ぶ周遊バスを運行し、官民一体となって県内での消費拡大を図るためのビジネスモデルの構築をめざします。
- 外国人旅行者が安心して快適に旅行ができるようにするため、受入環境の整備を促進します。
- 信州まつもと空港の路線の拡大などにより国内線の利用を促進するとともに、国際チャーター便^{*}の誘致などに取り組みます。



県内への誘客に向けたメディアの招へい

(2) 戦略的な外国人旅行者誘致の促進

新たな市場を開拓するため、海外への情報発信を行うとともに、対象国ごとの現状を踏まえた効果的な誘客に取り組みます。

- 英語、中国語、韓国語など多言語に対応したホームページや観光宣伝用パンフレットの充実を図ります。
- 東南アジアへの展開を見据えプロモーションを展開するとともに、旅行目的に応じてターゲットを選定し、長野県の強みを活かしたテーマ旅行を提供します。
- 上海、シンガポールに配置された海外駐在員が、観光プロモーション活動の支援等を行うことにより、海外からの誘客を図ります。
- 観光・農政・商工等の分野を横断した複合的なトップセールスを実施します。

(3) 訪日教育旅行の誘致

行政・観光事業者・地域が一体となって、訪日教育旅行の誘致や海外の学校との交流を推進します。

- 行政、観光事業者、地域が一体となった訪日教育旅行の受入体制を整備・強化します。
- 教育旅行関係者の招へい、現地旅行会社・学校の訪問、商談会の開催など、訪日教育旅行誘致に向けたプロモーションを実施します。
- 国際理解の推進や児童生徒のコミュニケーション能力の育成のため、県内の学校の訪日教育旅行受入や交流活動などを促進します。



外国人旅行者で賑わう観光地（山ノ内町）

【施策分野の達成目標】

指 標 名	現 状	目 標 (平成29年度)	備 考
外国人宿泊者数 [再掲]	20万3千人 (平成23年)	50万人 (平成29年)	県内の外国人延べ宿泊者数（外国人宿泊者数調査） [倍増を基本に中国をはじめとする最重点市場からの宿泊者の増加を見込み設定]
訪日教育旅行受 入団体数	41団体 (平成23年度)	120団体	海外からの年間来訪団体数（県観光部調べ）
県観光ホーム ページ外国語 ページアクセス 件数	31万件 (平成23年度)	35万件	公式観光ホームページ「さわやか信州旅.net」の外国語ページへのアクセス件数



訪日教育旅行における県内学校との交流活動

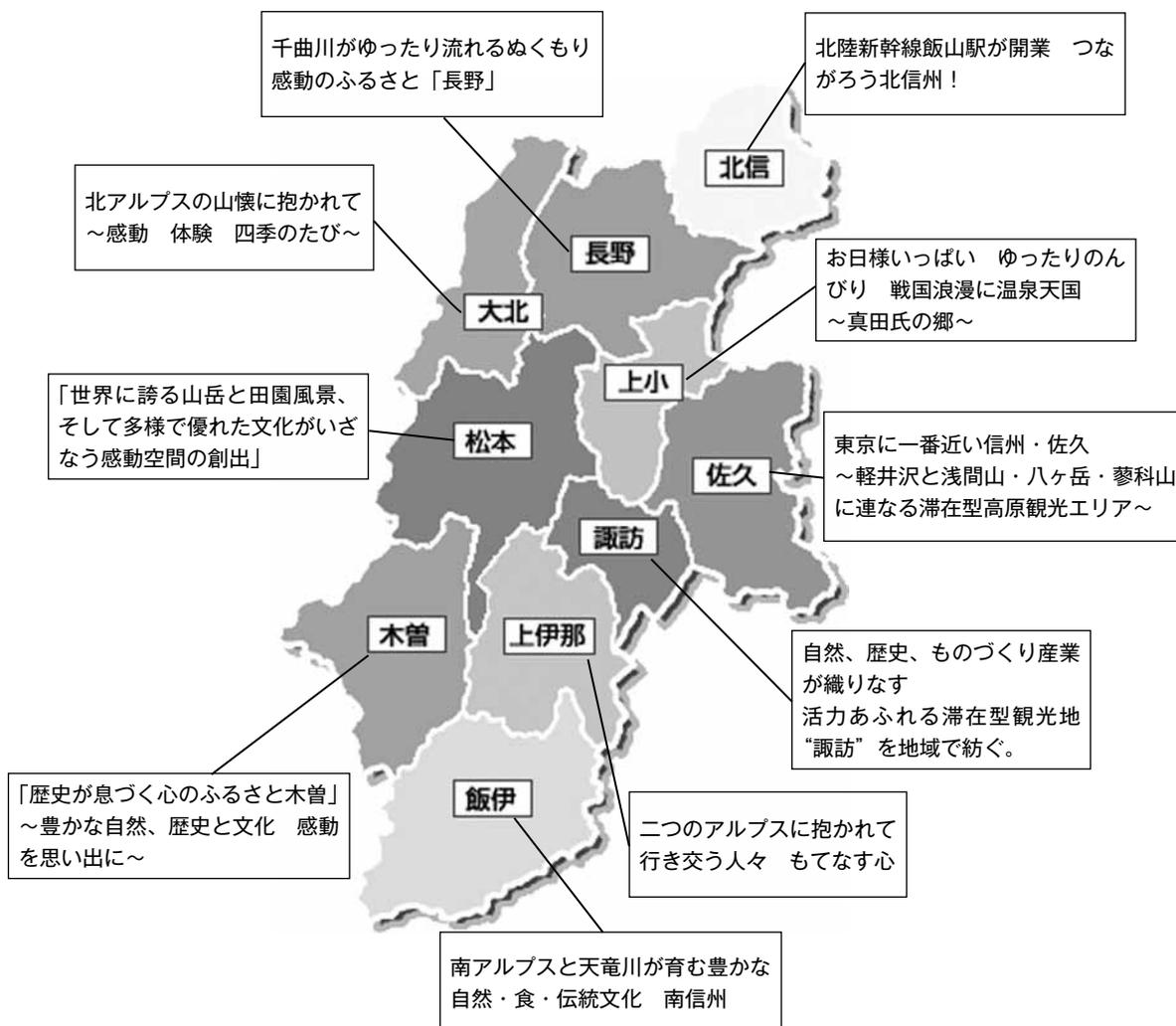
【用語解説】

※チャーター便 旅行会社等が航空機を借り切って不定期に運航される便

第4編 エリア別の観光地域ビジョン

- 長野県は全国で4番目に広大な県土を有し、地域ごとに特色・特性があるため、長野県観光のめざす姿の実現に向けて、それぞれの地域特性に応じ戦略的に観光振興を図ることが重要です。
- このため、10の広域圏（県の広域行政区分）ごとに、地域特性を踏まえためざす将来像・施策の展開を取りまとめました。
- エリア別の観光地域ビジョンを推進するため、県や市町村、観光関連団体、観光事業者など地域の観光振興を担う関係者で構成される地域観光戦略会議等により、エリア内の連携を強化します。
- 10の広域圏を越えた広域連携についても、その現状と課題を踏まえ、今後取り組む具体的な取組を明らかにします。

【各エリアのキャッチフレーズ】



1 佐久地域

(小諸市、佐久市、小海町、佐久穂町、川上村、南牧村、南相木村、北相木村、軽井沢町、御代田町、立科町)

東京に一番近い信州・佐久

～軽井沢と浅間山・八ヶ岳・蓼科山に連なる滞在型高原観光エリア～

地域特性

佐久地域の北部エリア（浅間山、軽井沢高原、白樺高原、高峰高原、小諸城址懐古園など）は、北陸新幹線、上信越自動車道の高速交通網の整備により、長野県の東の玄関口「東京に一番近い信州」として、首都圏との交流が盛んです。また、南部エリア（千曲川の源流、八ヶ岳山麓など）は、冷涼な気候を活かした高原野菜の産地とスローライフに適した地域で、太平洋側をつなぐ交通の大動脈となる中部横断自動車道^{*}の整備により、さらなる発展の可能性が高まっています。



浅間山（黒斑山）登山

佐久地域の年間観光旅行者数は、夏季（7～9月）の割合が約5割と高く、高原型観光地（軽井沢高原、東白樺湖、高峰高原等）が約8割を占めています。中でも軽井沢高原は、県下第1位の観光地で、佐久地域における観光旅行者数・消費額の5割以上を占めています。

また、近年外国人宿泊者数は増加傾向にあり、平成11年から平成22年までの伸び率は約8倍となっています。国籍別では、台湾、香港、中国、韓国の順に多く、アジアが約8割を占めています。



千曲川源流ウォーク

地域の課題

年間の観光旅行者数は、平成20年から23年までは横ばいに推移していますが、平成10年以降、また観光消費額は平成9年以降減少し、低迷が続いており、高速交通網の整備に伴う日帰り圏化などの理由により、宿泊旅行者数が減少しています。

また、観光旅行者の約半数が軽井沢高原に集中していることから、軽井沢高原への観光旅行者の地域内での周遊性の向上や高速交通網・鉄道の長所を活かした交流人口の増加が求められています。

このため、軽井沢高原の周辺の高原、史跡、温泉などの観光資源や、農業、スポーツなど他の分野も含めて広域的に連携し、地域全体で、年間を通じた誘客の拡大、首都圏に近いことを活かした滞在型観光地や移住・交流地域の形成をめざしていく必要があります。

めざす将来像

地域内の観光資源の魅力を一層磨き上げ、ターゲットに応じた積極的な情報発信を行うことにより、地域外、県外との「つながり」と「交流促進」を進め、交流人口が拡大し、首都圏はもちろん、北陸新幹線延伸後の北陸圏や中京圏からも大勢の来訪者

がある地域となっています。

また、地域内での周遊性を向上させるための滞在型旅行商品の造成により、来訪者の滞在時間が増加しています。

地域内では、佐久地域の暮らしの良さを住民が実感することで、自信と誇りに裏付けられたおもてなしの意識を共有し、来訪者も気持ちよく滞在できる環境が整っています。

施策の展開

1 個の観光資源の磨き上げ（玄関から奥座敷まで）

地域の観光資源を掘り起こし、その個々の魅力を磨き上げ、住民が自信と誇りを持つ来訪者のニーズに応じた商品を開発します。

（1）観光地にある資源の磨き上げと価値の創造

自然、歴史・文化、温泉など、観光地に優れた資源がありながら、見過ごされてきた“隠れた価値”を掘り起こし、地域のもつ豊かな自然環境を活かした価値ある商品として磨き上げます。

例えば、エコツーリズム（夏季の冷涼な高原での滞在、小海線ハイブリッド列車^{*}の旅、街道巡り、トレッキング、サイクリング等）、高まる健康志向をとらえたメニュー（森林セラピー、ポールウォーキング、スキー等）など、来訪者のニーズにきめ細かく対応した商品開発を住民との協働で進めます。



高原鉄道小海線と八ヶ岳



中山道ウォーキング

（2）地域の人々の顔が見える「食」の商品開発

重点項目

佐久地域の自然、歴史・文化、生活に裏付けられた食材を使って、飲食店、ホテル・旅館等とその魅力を共有するとともに、住民自らが地域を「再発見」する機会となる新たな「食」の商品を開発し、住民と来訪者がともに佐久地域の魅力を分かち合います。

（3）商品価値のある新たな観光資源の活用

映画・テレビドラマのロケ地やアニメの舞台として選ばれることが誘客に有効な手段のひとつであることから、地域のフィルムコミッション、観光事業者等と連携し、歴史・文化的価値のある建物や高原鉄道小海線など、地域の観光資源の魅力を高め、有効に活用します。



佐久バルーンフェスティバル

（4）体験型観光、学習旅行、スポーツ合宿の受け入れの促進

グリーン・ツーリズム、高原野菜やりんごの収穫体験、熱気球搭乗体験など体験型観光を取り入れた旅行商品の造成を行うとともに、学習旅行、スポーツ合宿の積極的な受け入れを促進します。

2 個の観光資源の多様な組合せ（広域観光の推進）

軽井沢をはじめとする高原リゾート地と、近隣にある豊富な農林水産物や伝統・文

化など多様な観光資源を有機的に結合させ、広域的に周遊し滞在してもらえる観光地づくりをめざします。

(1) 地域内広域観光周遊ルートの開発

重点項目

中部横断自動車道や高原鉄道小海線・しなの鉄道を活かし、自然、健康長寿、食、温泉、歴史・文化、イベント等と自動車、鉄道、自転車、ウォーキング等を多様に組み合わせながら、熱意ある人材と連携した広域観光周遊ルートを開発し提案します。

(主な取組)

- ・ 小海線沿線市町村のおもてなし企画を中心とした高原鉄道小海線を活用した地域内連携旅行商品の開発を促進
- ・ 佐久地域らしい「食」に関する情報をインターネットで配信するなど、来訪者に対する地域の「食」に関する情報提供体制を整備
- ・ 開発した新たな広域観光周遊ルートについて、首都圏等において開催する旅行商品商談会等で旅行者に積極的にPR



小諸城址懐古園の桜



春日の森 (森林セラピー)

(2) 地域外、県外との広域観光の連携

北陸新幹線や上信越自動車道、中部横断自動車道などによる首都圏からのアクセスのしやすさから“信州の東の玄関口”として、上小、諏訪、松本、長野地域なども含めて周遊できる広域観光ルートを開発します。

また、地域と太平洋をつなぐ交通の大動脈となる中部横断自動車道の延伸を見据えた南部エリアにおける新たな広域観光ルートを開発します。

(主な取組)

- ・ 県、市町村、市町村観光協会、観光事業者、交通事業者の連携により、新幹線軽井沢駅・佐久平駅を中心とした広域観光ルートと中部横断自動車道の延伸を見据えた広域観光ルートの開発

3 ターゲットに応じた情報発信とおもてなし向上

地域別、性別、年代別等のターゲットごと、季節ごと、日帰り・宿泊旅行形態別に、地域の魅力を積極的に発信するとともに、観光事業者を含めた地域全体のおもてなしの向上を図ります。



白駒の池 (紅葉)

(1) ターゲットを絞った情報発信

重点項目

来訪者の居住地別（首都圏、北陸圏、中京圏）、性別、年代別にターゲットを絞り、それぞれに応じた情報発信を行うほか、季節ごとの魅力や日帰り、短期滞在、長期滞在といった旅行形態別にテーマ性をもたせた誘客宣伝活動を展開します。

(主な取組)

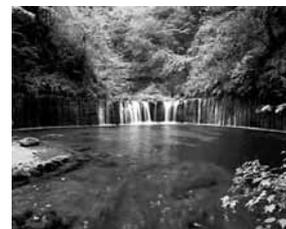
- ・ 有力な誘客対象である首都圏、平成26年度末の北陸新幹線延伸により新たな誘客の対象となる北陸圏及び整備が進んでいる中部横断自動車道の供用により中央自動車道方面からの来訪者の増加が予想される中京圏において、県、市町村、市町村観光協会が共同で、観光PRイベントを開催又は他者主催のイベ

ントに参加

- ・ 花・山・星空など自然の美しさ、スイーツ・ご当地メニューなどのおいしい食、歴史散策・街道歩き・森林セラピー・スキーなど文化・健康、四季折々のイベント等をテーマとして開発した商品を旅行商品商談会等でPR

(2) 軽井沢と連携した佐久地域の知名度向上

国内有数の高原リゾート地である軽井沢の知名度を活かし、地域内の市町村、市町村観光協会、観光関連団体が連携した誘客促進に取り組み、地域の知名度の向上を図ります。



白糸の滝

(主な取組)

- ・ 軽井沢への来訪者に地域内の他の観光地に関する情報を提供し、来訪者の地域内周遊を促進
- ・ 軽井沢を基点とした広域観光マップの作成

(3) 海外からの誘客促進のための情報発信

学生の交流体験旅行や一般の外国人旅行者を誘致するため、海外プロモーション用の外国語チラシの作成などを進めます。

(主な取組)

- ・ 外国人旅行者が注目するイベントの外国語チラシの作成
- ・ 海外プロモーション参加団体と連携した誘客促進

(4) おもてなしの質の向上

市町村観光協会等が開催する研修会等を利用して、地域住民を含めた地域全体のおもてなし意識の向上を図るほか、商工会等と連携し、健康長寿食など地域ならではの料理の研究開発や旬の地元野菜、ジビエの提供などを進め、住民と連携した総合的な魅力向上に取り組みます。

(主な取組)

- ・ おもてなしの実践をテーマにした講演会・研修会の開催
- ・ 観光地域づくりのリーダー的人材の育成と掘り起こし
- ・ 地域の文化財、季節の花、郷土食などを解説できるガイドの養成
- ・ 来訪者の満足度向上のため、来訪者を温かく迎える意識の向上の呼びかけ

○ 観光振興に資する道路の主要整備か所

佐久地域内の観光地へのアクセス・周遊機能の向上など、観光振興に資する道路の整備を進めます。

・ 道路整備主要か所一覧表

名称	整備か所	整備目標
(街路) 軽井沢草津線	軽井沢町 中軽井沢町駅前	事業着手
高規格幹線道路	中部横断自動車道	整備促進
一般国道141号	佐久市～小諸市 跡部～平原	事業着手
一般国道142号	佐久市 佐久南拡幅	完成供用
一般国道254号	立科町 宇山バイパス	整備推進

名 称	整備か所	整備目標
主要地方道佐久小諸線	佐久市 岸野～高瀬	整備推進
主要地方道川上佐久線	佐久穂町 海瀬	完成供用
一般県道上小田切臼田(停)線	佐久市 下小田切	事業着手

※主要な整備か所として、全体事業費がおおむね5億円以上と見込まれるものを掲載しました。

【用語解説】

※中部横断自動車道 静岡市（新清水JCT）を起点とし、山梨県を經由して小諸市（佐久小諸JCT）まで総距離約132kmの高速自動車国道として整備中であり、上信越自動車道と接続し太平洋側（静岡県静岡市）と日本海側（新潟県上越市）を結ぶ路線に位置付けられている。平成25年3月現在、長野県内では佐久南IC～佐久小諸JCTまでが暫定2車線で供用されているほか、佐久南IC～八千穂IC（仮称）間の整備が進められている。

※小海線ハイブリッド列車 ハイブリッド列車とは、「ディーゼルを発電に利用し、ブレーキ時に発生するエネルギーを蓄積することで燃料消費と環境負荷を抑える。」ことにより、従来のディーゼル車両に比べ窒素酸化物（NO_x）などの排出量を60%減らせる次世代の環境を考えた車両。世界で初めて営業列車として小海線に登場した。

2 上小地域

(上田市、東御市、長和町、青木村)

お日様いっぱい ゆっくりのんびり 戦国浪漫に温泉天国 ～真田氏の郷～



湯の丸高原



上田真田まつり



露天風呂（田沢温泉／沓掛温泉）

地域特性

上小地域は、多彩な観光資源がコンパクトに集積しています。菅平や湯の丸、美ヶ原など高原の四季折々の豊かな自然、別所や鹿教湯などの閑静な温泉保養地、二つの国宝（安楽寺八角三重塔、大法寺三重塔）に代表される「信州の鎌倉」塩田平や真田氏ゆかりの上田城跡、海野宿・和田宿、黒耀石縄文鉦山などの歴史的文化遺産、棚田やため池、里山が創り出す農村風景、夏・冬を通したスポーツエリアや音楽村などのほか、豊かな食材や気候にも恵まれ、ワインなど新たな観光資源化の可能性も秘めています。また、北陸新幹線や上信越自動車道による首都圏・日本海方面からのアクセス性に優れ佐久、諏訪、松本、長野地域に隣接する交通の要衝に位置しています。

地域の課題

当地域の観光旅行者数・観光消費額は、景気低迷やスキー客の減少等を背景に全県と同様に低迷しています。また、全県と比べ、県外からの旅行者や宿泊旅行者の割合、日帰り旅行者の1人当たり消費額、外国人旅行者が少ない傾向にあります。一方、戦国武将ブーム^{*}により上田城跡の観光旅行者数は増加傾向にあり、スポーツ合宿等の学習旅行や農村体験、スノーシュー等の体験型観光も増加傾向にあります。さらに、北陸新幹線の金沢延伸により、北陸圏からの誘客が期待できる反面、観光地の競合も予想されます。

こうした状況を踏まえ、他地域との広域的連携も含め多彩な観光資源を活かした旅行商品を再構築し、地域の魅力を高めながら、来訪者の様々なニーズに対応していく必要があります。加えて、県外・国外への効果的な情報発信により、新たな客層の開拓や誘客の拡大とともに、地域全体のホスピタリティの向上を図り、上小地域ファンを増やしていく必要があります。

めざす将来像

来訪者の多様なニーズに応じて、多彩で魅力ある観光資源を組み合わせた旅行商品を再構築し、ターゲットを明確にした情報発信を行うことにより、首都圏はもちろん、北陸新幹線延伸後の北陸圏や関西圏からも大勢の来訪者があります。

広域・滞在型観光の定着が進んだことで、首都圏からの日帰り旅行圏であるにもか

かわらず、長期滞在の観光旅行者が増加しています。上小地域の「食」と「農村体験」を求めてリピーターが増加しています。観光事業者はもちろん、住民にもおもてなしの意識が定着し、来訪者が気持ちよく滞在できる環境が整っています。

施策の展開

1 地域の強みを磨き上げた魅力満載の観光商品づくり

多彩な観光資源をより一層楽しんでいただくため、地域を上げて観光資源等の磨き上げを図るとともに、特産品等の販路拡大や新たな観光資源開発に努め、来訪者の多様なニーズに応える旅行商品の開発を進めます。



大法寺三重塔(国宝)

(1) 観光資源等の磨き上げと来訪者のニーズに応じた商品開発

多彩な観光資源や地域の特産品など強みを持つ素材をさらなる活用のために磨き上げ、観光地としての魅力向上を図るとともに、歴史・文化の探訪、スポーツ合宿やトレッキング、温泉保養など来訪者のニーズに的確に応える旅行商品開発を進めます。

(主な取組)

- ・ 行政や地域住民が一体となった、自然環境、里山・森林、史跡・文化財、まち並み、農村風景などの保全・整備と歴史・文化の伝承、紹介や魅力ある地域づくり
- ・ 観光事業者を中心に、テーマ性やストーリー性を持たせた旅行商品づくり
- ・ 企業や観光事業者による地場産業等と連携した体験型旅行商品づくり
- ・ 来訪者の動向・意向の的確な把握

(2) 「食」と「農」をちりばめた魅力満載の商品開発

重点項目

寡雨多照の気候と標高差を巧みに活かしたこの地域ならではの農林畜産物と、それを素材とした、特色ある「食」の提案及びそれを生み出す「農」を目玉とする農村体験などの旅行商品を開発し、地域の魅力向上を図ります。

(主な取組)

- ・ 行政や農業者が一体となった地域性に富んだ農産物の生産や品質向上
- ・ 行政と地域住民の連携による地域食材を使った特色ある「食」の開発・普及など地産地消の推進とブランド化
- ・ 農商工連携による魅力ある商品開発と販路開拓キャラバンなどによる地域内外の需要及び消費の拡大
- ・ 地域内のワイン産地の連携強化などによる新たな旅行商品の造成
- ・ 農村体験、農村オーナー園や農村風景など農村の魅力の発信



韃靼そば



上小地域の松茸



ワイン用ブドウの収穫体験



スポーツ合宿

(3) スポーツ合宿や体験型観光の受け入れの促進

ラグビー合宿のメッカである菅平地域や、地域内のスノーリゾートを中心にスポーツ合宿の受け入れを積極的に行うなど、体験型観光を戦略的に進めます。

(主な取組)

- ・ 市町村と地域住民の連携による施設整備を始めとする条件整備
- ・ 県、市町村、観光協会の連携による教育・学習旅行の誘致と青少年の交流の促進
- ・ 観光事業者による体験型観光メニューの開発・提案

2 地域資源を紡ぐ広域・滞在型観光の推進

地域に点在する多彩な観光資源を有機的に紡ぎ、身近な「日本のふるさと」として周遊・滞在していただける観光地をめざします。

(1) 広域観光ルートの開発

重点項目

新幹線・高速道路の高速交通網や佐久、諏訪、松本、長野地域に隣接する交通の要衝に位置する優位性を活かし、多彩な観光資源を有機的に結合させ、広域観光ルートを開発し提案します。

(主な取組)

- ・ 県、市町村、観光協会、事業者の連携による自然、温泉、史跡・文化財、特色あるまち並みなどの組合せによる市町村の枠を越えたテーマ別周遊型観光ルートの開発
- ・ 「食」や体験型メニューの効果的な組合せによる広域・滞在型商品の開発
- ・ 隣接地域、特に首都圏に近い立地条件が同じ佐久地域と連携した広域観光ルートの開発
- ・ 広域観光パンフレットの作成など広域連携によるPR活動の実施



丸窓電車 (別所線)



北国街道 海野宿



中山道 和田宿本陣

(2) 交通手段を考慮した誘客の促進

広域・滞在型観光を推進するため、交通手段ごと地域内外を周遊できる条件を整備します。

(主な取組)

- ・ 県、市町村、観光事業者、交通事業者の連携による、新幹線上田駅をハブとして交通手段や距離・時間に応じて周遊できるテーマ別の観光ルートの開発
- ・ 上田駅の案内機能の強化と、交通事業者等の連携による上田駅からの周遊コース別の二次交通の確保

- ・ 県、市町村、観光事業者、交通事業者の連携による、北陸新幹線の金沢延伸を見据えた北陸圏からの誘客活動の促進
- ・ 自動車での来訪者を対象にした、高速道路サービスエリア、道の駅等の案内機能の強化と四季折々の魅力を紹介する誘客促進キャンペーン等の実施
- ・ 観光地駐車場等の案内表示板の整備

3 上小地域ファンを紡ぐ情報発信とおもてなしの向上

上小地域の観光イメージ（寡雨多照の風土、古（いにしえ）ロマンの街、名湯・秘湯、さわやかな高原、日本の原風景を残す農村、豊かな食など）やターゲットを明確にした戦略的、効果的な誘客宣伝活動を行います。また、滞在中の来訪者に気持ちよく過ごしていただき、上小地域ファンとしてリピーターとなっていただくために、観光事業者のみならず、地域全体のおもてなしの向上を図ります。

(1) ターゲットを明確にした情報発信

来訪者の形態別にターゲットを明確にし、そのニーズに即した情報発信を行うことにより、誘客宣伝活動の効果を高めます。

(主な取組)

- ・ 地域の個性と強みを活かした観光イメージ戦略の展開と、ターゲットを明確にし季節やテーマ性などを加味した誘客宣伝活動の展開
- ・ 映画・ドラマのロケーション撮影や各種大会の誘致、物産展・各種イベントの開催など、地域の魅力を発信する取組の推進
- ・ メディアトリップの活用などマスメディアへの露出拡大と、WEBやブログ、SNSの戦略的活用
- ・ 観光地間で連携した誘客宣伝活動の展開

(2) 外国からの誘客の推進

重点項目

自然環境や温泉、スポーツなど、特色ある観光資源を活かし、海外からの誘客を促進します。

(主な取組)

- ・ 温泉、スノーリゾート、食、農村体験など外国人にも魅力あるプログラムの開発
- ・ 善光寺や上高地など誘客力の高い観光地との連携や国際的スポーツ合宿等を活かした誘客促進
- ・ 外国人旅行者向け観光パンフレット、観光WEBサイトなどの改善・充実
- ・ 外国語通訳、ガイドの資質向上と外国語案内表示の設置促進
- ・ 県と市町村、観光協会が連携した中国、台湾等のアジア地域を重点地域とした誘客活動の促進



Zazen Meditation

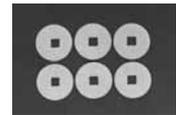
Ueda Tsumugi

(3) 真田氏を最大限に活用

戦国武将として人気のある真田幸村^{*}は県内外に広く足跡を残しており、真田氏ゆかりの地域との連携を強化した誘客宣伝活動を行い上小地域の知名度向上を図ります。

(主な取組)

- ・ 真田氏ゆかりの史跡等の整備、新たな掘り起こし
- ・ 真田街道^{*}など、周辺市町村との連携を強化した誘客宣伝活動の実施
- ・ 群馬県、大阪府、和歌山県及び関係市町村と連携した真田氏ストーリーの発信



「六文銭」

(4) 地域を挙げたおもてなしの向上

滞在中の来訪者に、上小地域ファンとしてリピーターとなっていただくために、観光事業者のみならず、地域全体のおもてなしの向上を図ります。

(主な取組)

- ・ 「観光地域づくりマネージャー」の育成
- ・ おもてなしの実践をテーマにした講演会・研修会の開催
- ・ おもてなしの一翼を担う高齢者の活躍の場づくり
- ・ 地域が潤う仕掛けづくりの工夫と情報共有の仕組みづくり

○ 観光振興に資する道路の主要整備か所

上小地域内の観光地へのアクセス・周遊機能の向上など、観光振興に資する道路の整備を進めます。

・ 道路整備主要か所一覧表

名 称	整備か所	整備目標
(街路) 中常田新町線	上田市 常田	完成供用
(街路) 北天神町古吉町線	上田市 三好町	完成供用
	上田市 三好町 (2工区)	事業着手
一般国道144号	上田市 上野バイパス	整備推進
	上田市 湯ノ平橋	事業着手
一般国道254号	上田市 東内～西内	整備推進

※主要な整備か所として、全体事業費がおおむね5億円以上と見込まれるものを掲載しました。

【用語解説】

※戦国武将ブーム 平成21年ころから、戦国時代を扱ったゲームソフトやアニメ、また大河ドラマなどの影響により戦国武将が人気を集め、「歴女」と呼ばれる若い女性を中心に武将ゆかりの地や博物館などを来訪する旅行者等が増加した。

※真田幸村 (1567～1615) 安土桃山時代の武将。昌幸の次男。名は信繁 (のぶしげ)。関ヶ原の戦いでは父とともに豊臣方で戦い、のち高野山麓九度山に蟄居 (ちつきょ)。大坂冬の陣では大坂城にはいり、出城 (真田丸) を築いて東軍を悩まし、夏の陣で戦死した。

※真田街道 真田三代 (真田幸隆、昌幸、信之、幸村) が統治した長野県から群馬県の地域を結ぶ街道を真田街道と称し、真田氏ゆかりの地域の連携を深めている。

3 諏訪地域

(岡谷市、諏訪市、茅野市、下諏訪町、富士見町、原村)

自然、歴史、ものづくり産業が織りなす
活力あふれる滞在型観光地“諏訪”を地域で紡ぐ。

地域特性

諏訪地域は、雄大な八ヶ岳連峰に抱かれた標高700メートルを超える盆地に、満々と水を湛える諏訪湖を擁する潤いに溢れた緑輝く地域です。中央自動車道、J R中央本線等の大動脈が結節する交通の要衝にあり、首都圏、中京圏、関西圏、日本海方面と結ばれた広域交流拠点として大きな役割を果たしています。

また、多くの伝統文化が培われ、諏訪大社や尖石遺跡など貴重な歴史的資源を数多く有するとともに、スマートデバイス（超精密部品）の世界的産地形成を進める工業をはじめ、自然、温泉、文化など、豊富な資源を活かした観光、八ヶ岳山麓の高原野菜や花きを中心とした農業など、全国に誇る産業が集積しています。



諏訪湖と八ヶ岳を望む



諏訪大社御柱祭

地域の課題

このように恵まれた環境にありますが、観光面では、これらを活かしきれていないため、通過型観光地からの脱却が遅れています。交通アクセスに恵まれていることも、逆に日帰り旅行者の割合を高くする要因となっています。

来訪者の地域での滞在時間を増やすため、住民一人ひとりが地域のことを学び、来訪者に対するおもてなしの気運の醸成を進めるとともに、地域の強みである工業、農業など他産業との連携を進める必要があります。また、二次交通の整備やリニア中央新幹線開通などの将来の高速交通網の変化への対応も課題となっています。

これらを地域全体の課題として認識し、行政と民間との連携により、滞在型観光地への転換を図る必要があります。

めざす将来像

諏訪湖や八ヶ岳に代表される雄大な自然環境、諏訪大社・縄文文化など歴史的な史跡を活かした従来型の観光資源に加え、着地型・体験型観光プログラムの充実や「全国産業観光フォーラム^{*}」を契機とした産業観光の推進、農商工連携により各地で開催される朝市などの新しい魅力の創造により、来訪者に楽しんでいただくことが可能となっています。

また、「スワクル・プロジェクト^{*}」などの取組による、自転車を活用した周遊促進は、二次交通対策はもとより、健康



上諏訪温泉朝市

増進や環境対策としても注目を浴びています。

これらの豊富な資源を十分に活かして開発された、多彩なバリエーションを持つ観光ルートの情報発信を地域一体となって行うことにより、滞在型観光地へ転換していきます。

施策の展開

1 人材の育成や事業者の体制整備

住民一人ひとりが地域の魅力を自ら学び、体験することにより、来訪者の視点を大切にしたい、おもてなしの気運の醸成を進めます。また、地域の観光におけるリーダーとなる人材育成や事業者の体制整備により、魅力ある観光地域づくりを進めます。

(1) おもてなしの気運の醸成

地元の住民が観光地である地元のことを知らない、来訪者の視点を大切にしたい対応が十分にされていないことを踏まえ、おもてなしの気運の醸成を進め、来訪者の満足度の向上を図ります。

(主な取組)

- ・ 県、市町村、観光関連団体による講習会を開催し、諏訪湖エリアまちなか観光案内人をはじめとする市民ガイドを育成、連携を強化
- ・ 県、市町村、観光事業者、学校との連携により、地域の中学生を対象とした「観光教育」をモデル的に実施
- ・ 県、市町村の呼びかけにより、住民自らが地元の宿泊施設に泊まって魅力を発見・情報発信する仕組みを構築



まちなか観光案内人

(2) リーダーとなる人材の育成

行政と民間との連携を強化し、一体となって観光地域づくりを進めるため、地域の観光におけるリーダーとなるカリスマ的な人材を育成します。

(主な取組)

- ・ 民間事業者に対して、県が主催する「信州・観光地域づくりマネジメント塾」などの人材育成事業の情報提供を進め、参加を促進
- ・ 様々な分野で既に地域づくりに取り組んでいる優秀な人材を発掘

(3) 観光事業者等の体制整備

ホテル・旅館、飲食店などがお客様に対して質の高いサービスを提供するための取組を行うことにより、リピーターの増加を図ります。

(主な取組)

- ・ 県、観光関連団体、事業者が連携し泊食分離や食べ歩き・呑み歩きできるイベントを通じて来訪者をホテル・旅館から外に誘導することにより、地元飲食店等のおもてなしの気運の醸成を図るとともに、サービスの向上を促進
- ・ 中小企業支援機関による専門家派遣事業の活用により、ホテル・旅館におけるサービス向上を促進
- ・ 観光関連団体の組織・事業への民間事業者の積極的関与



上諏訪街道呑みあるき

2 新しい魅力の創造

自然、歴史などの従来型の観光資源に加え、着地型・体験型観光プログラムの充実や産業観光などの他産業と連携した取組により新しい魅力を創造します。

また、従来から課題となっている二次交通対策への対応を進めます。

(1) 着地型・体験型観光プログラムの充実

重点項目

信州諏訪温泉泊覧会「ズーラ」*を始めとした、着地型・体験型観光プログラムの充実・強化を図るとともに、団塊の世代、女性など、これらのプログラムに関心のある層にターゲットを絞った誘客宣伝を進めます。

(主な取組)

- ・ 県、市町村、観光関連団体の呼びかけによる、新たなプログラムの構築と既存プログラムの充実
- ・ 県、市町村、観光関連団体の呼びかけによる、高地トレーニング合宿、ダイエットプラン、マリンスポーツ、温泉の活用など、健康をキーワードとした取組の推進
- ・ 県、市町村、観光関連団体合同による、首都圏における商談会の開催や団塊の世代、女性など、体験型プログラムに関心のある層を対象とした誘客宣伝活動の展開



信州諏訪温泉泊覧会「ズーラ」
(車山高原エコツアー)

(2) 産業観光の定着、他産業との連携促進

「全国産業観光フォーラム」を契機とし、地域における新たな観光資源として期待が高まっている産業観光の定着を図るとともに、農業、商業、工業などの他産業との連携を促進します。

(主な取組)

- ・ 県、市町村、観光関連団体の呼びかけによる、産業観光に係る資源の掘り起こしと企業との連携強化
- ・ 県、市町村、観光関連団体による、シルク、寒天等の伝統工芸、農業体験などの情報発信
- ・ 観光関連団体、事業者による朝市など、地元農産物等の販売による誘客促進



産業観光

(3) 二次交通の充実

地域内の交通アクセスを充実することにより、公共交通利用者の利便性を向上させ、地域における周遊の促進、滞在時間の増加を図ります。

(主な取組)

- ・ 市町村、観光関連団体、事業者による、来訪者も利用しやすい乗り合いタクシー、デマンド交通*等のあり方検討
- ・ 「スワクル・プロジェクト」の取組など、自転車を活用した周遊促進

3 地域一体となった情報発信・ブランド構築

豊富な資源を十分に活かして開発された、多彩なバリエーションを持つ観光ルート

を地域一体となって情報発信することにより、ブランド力の強化、滞在・周遊の促進を図ります。

(1) 地域一体となった情報発信

重点項目

諏訪地域の認知度向上、滞在・周遊の促進を図るため、観光情報を面として外部に発信していく取組を進めます。

(主な取組)

- ・ 県、市町村、観光関連団体、観光事業者による、多彩なバリエーションを持つ観光ルートの開発・提案、広域観光パンフレットの作成、国内向け観光誘客イベントの展開、外国人旅行者の誘客促進
- ・ 観光案内所における、諏訪地域の観光情報を一体的に提供できる体制整備
- ・ 県、市町村、観光関連団体による、スマートフォン^{*}・タブレット端末^{*}を活用した情報発信の充実

(2) ジャンル別の発信

地域の魅力を活かしたブランド構築を図るため、「食」や歴史、文化、芸術などの魅力をジャンル別に発信する取組を進めます。

(主な取組)

- ・ 市町村、観光関連団体、観光事業者による、うなぎ、寒晒しそば^{*}などの地域の「食」をテーマにしたマップ等の作成
- ・ 諏訪大社御柱祭^{*}や縄文時代の遺跡を活かした地域の歴史や文化の情報発信
- ・ 観光関連団体、事業者による、美術館・博物館の一体となった情報発信
- ・ 市町村、観光関連団体による、映画祭の開催やロケーション撮影誘致支援の取組の推進
- ・ 県、市町村、観光関連団体、観光事業者による、ウィンターシーズンにおける新たな楽しみ方の提案や外国人旅行者向け観光案内の充実



尖石縄文まつり

(3) 諏訪地域の名物の創造

地域に根ざし、来訪者にとって魅力ある名物料理、加工品等の掘り起こしや開発、情報発信を進め、新たなブランドを創造します。

(主な取組)

- ・ 県、市町村、観光関連団体、事業者による、信州みそ天井^{*}、馬肉料理、ジビエなど、地域の食材や文化をテーマとした諏訪地域独自の料理の掘り起こし、開発、情報発信
- ・ 県、市町村、観光関連団体、事業者による、あっちゃん漬^{*}、地酒を活用したお菓子など、新たな魅力を持つ土産品の掘り起こし、開発、情報発信



あっちゃん漬

○ 観光振興に資する道路の主要整備か所

諏訪地域内の観光地へのアクセス・周遊機能の向上など、観光振興に資する道路の整備を進めます。

・道路整備主要か所一覧表

名称	整備か所	整備目標
(街路) 田中線	岡谷市 若宮	完成供用
(街路) 岡谷川岸線	岡谷市 成田町	事業着手
(街路) 上川橋線	茅野市 宮川茅野	整備推進
一般国道152号	茅野市 湯川バイパス	事業着手
一般国道299号	茅野市 糸萱拡幅	完成供用
主要地方道岡谷茅野線	諏訪市 大熊	整備推進
主要地方道諏訪辰野線	諏訪市 高島	整備推進
一般県道弘沢茅野線	茅野市 宮川茅野	完成供用

※主要な整備か所として、全体事業費がおおむね5億円以上と見込まれるものを掲載しました。

【用語解説】

- ※全国産業観光フォーラム 平成24年10月11日～12日、岡谷市において、産業観光のさらなる活性化と地域振興を図る目的により開催。産業観光を推進している地域や関連企業等1,250名の来場者があった。～信州発「未来につなぐ“ものづくり”のDNA!」～をテーマに、産業観光の魅力と可能性を全国に情報発信した。
- ※スワクル・プロジェクト 諏訪圏における地域活性化を図るため、観光、商業、工業などの産業連携により、自転車を活かしたまちづくりを推進する取組
- ※信州諏訪温泉泊覧会「ズーラ」 諏訪圏を中心としたエリアにおいて、地域資源の掘りおこしをしながら人々に感動を与えられるような体験型プログラムを開発する取組。大分県別府市の「別府八湯温泉泊覧会（ハットウ・オンパク）」が起源。地元の方言「ほうずら、いいずら」を参考に「ズーラ」という名称とした。
- ※デマンド交通 事前予約して乗合で運行するバスやタクシー
- ※スマートフォン インターネットの接続や様々なソフトウェアの追加が容易な多機能携帯電話
- ※タブレット端末 平板形でキーボードがついておらず、液晶の画面に指先をあてながら操作する「タッチパネル」を備えている携帯可能なパーソナルコンピュータ
- ※寒晒しそば 秋に採れた蕎麦の実を厳寒期に冷たい清流に浸した後、天日と寒風に約1か月さらして乾燥させたもの。江戸時代、将軍への献上品とされていた。
- ※諏訪大社御柱祭 諏訪大社で七年に一度の寅と申の年に宝殿を新築し、社殿の四隅にあるモミの大木を建て替える祭り。諏訪地方における最大の行事であり、日本三大奇祭の一つとされている。
- ※信州みそ天井 平成17年3月、諏訪市のまちづくり事業に取り組む団体「諏訪TMO」がご当地井として開発したメニュー。全国有数の産地となっている諏訪地域の味噌を使用した「みそダレ」が特徴
- ※あっちゃん漬け 下諏訪町の主婦がレシピを考案した漬物。平成24年1月に開催された漬物日本一を競うイベント「T-1グランプリ」においてグランプリを受賞。新たな地域資源として注目されている。

4 上伊那地域

(伊那市、駒ヶ根市、辰野町、箕輪町、飯島町、南箕輪村、中川村、宮田村)

二つのアルプスに抱かれて 行き交う人々 もてなす心

地域特性

上伊那地域は、日本を代表する南アルプス・中央アルプスの二つのアルプスと天竜川からなる伊那谷の北部に位置し、全国的に有名な河岸段丘や、海拔約400mから約3,000mまでと高低差が大きく複雑な地形等を有する自然環境と美しく雄大な景観に恵まれています。また、首都圏と中京圏の中間に位置しており、高速道路や伊那木曾連絡道路の整備により、県南部の交通の交流点となっています。



中央アルプス (千畳敷カール)



南アルプスとタカトオコヒガンザクラ

さらに、歴史的にも江戸文化と上方文化が交錯するポイントとして、有形・無形の文化財が随所に見られます。また、清らかな水を利用した食品産業や、米を中心としたバラエティに富んだ農業が営まれ、ローメン、ソースかつ丼といった数多くの名物料理を生み出す等、多様な観光資源を有しています。

地域の課題

当地域の平成23年の観光旅行者数は約421万人で、平成17年以降、減少傾向にあり、さらに、一人1日あたりの観光消費額、県外からの旅行者の割合、宿泊旅行者の割合については、県下最下位と低迷しています。

このため、地域の歴史・文化を活かした地域資源を磨き上げ、従来型の観光にとらわれない新たな観光戦略を展開するほか、広域連携による他地域（飯伊・木曾等）の魅力的な観光資源との組合せにより、滞在型観光の拡大を図る必要があります。

めざす将来像

多様な観光資源を有する上伊那地域の魅力が再発見され、豊かな自然の中で地域の歴史・文化や住民の暮らしに触れる来訪者が増加しています。

また、飯伊地域や木曾地域から周遊して上伊那地域を訪れる者が増加し、宿泊旅行者が徐々に増加しています。

さらに、穏やかな人間性を有する上伊那地域の住民一人ひとりにおもてなしの心が醸成されることにより、来訪者の満足度が高まり、リピーターが増加しています。

施策の展開

1 観光資源の掘り起こし、磨き上げと新たな観光戦略の展開

地域の歴史・文化を活かした地域資源に物語性を持たせ、上伊那地域の魅力として発信し、さらなる知名度向上を図ります。

(1) 観光資源の掘り起こしと磨き上げ

地域の歴史・文化を活かした地域資源を掘り起こして、さらに磨き上げ、上伊那地域の魅力として再発信します。

(主な取組)

- ・ 「井上井月 (いのうえせいげつ) *」に係る遺産をはじめとする文化財等を掘り起こして磨き上げ、新たな観光資源として発信
- ・ 「どんぶり街道*」や「山麓一の麺街道*」等地域が連携して行う食の取組の推進
- ・ 羽広菜*、赤そば*、ジビエ、アマランサス*をはじめとした雑穀等を使ったメニューを提供し、新たな食文化として発信



井上井月のモニュメント (伊那橋)



ソースかつ丼



ほたる丼



さくら丼



紫輝彩丼



ローメン



高遠そば



行者そばまつり



信州伊那新そばまつり



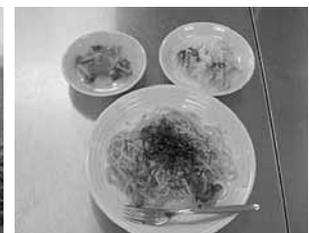
羽広菜



赤そば



アマランサス



アマランサスのパスタ

(2) 新たな観光戦略の展開

従来型の観光にとらわれず、市町村が取り組む新たな観光戦略を支援します。

(主な取組)

- ・ 上伊那地域の特産物を活用した土産品の商品開発

- ・ ロケーション撮影の誘致に関する取組
- ・ B級グルメを活用した観光振興
- ・ 掘り起こし、磨き上げた観光資源を活かした街歩きやウォーキングイベント等の実施



高速での映画撮影風景

2 地域の「おもてなし」の心の醸成

地域を訪れるお客様に満足していただくために、住民一人ひとりが参加するおもてなしの取組等を支援し、さらに魅力ある上伊那地域をめざします。

(主な取組)

- ・ 地域のボランティアガイドの養成
- ・ 広域ガイドの養成とそのネットワーク化によるワンストップサービスの実施
- ・ 観光地等、地域における環境美化活動の推進
- ・ 楽園信州ファンクラブ「地域百選おもてなしスポット」と連携し、顧客サービスを向上



観光地の環境美化活動

3 広域観光の推進

重点項目

平成18年の国道361号伊那木曾連絡道路の権兵衛トンネルの開通により、日常生活のみならず観光面でも上伊那地域に様々な効果が期待されています。将来のリニア中央新幹線の開通を見据え、他地域（木曾、飯伊等）の魅力的な観光資源との組合せによる地域間の周遊を推進し、滞在型観光の拡大を図ります。

(主な取組)

- ・ 伊那路・木曾路広域観光連携会議による各地域の事業者間の連携を図る懇談会の開催
- ・ 「花マップ」等、広域観光をテーマとした広報資料の作成
- ・ JR各社やNEXCO中日本と連携したキャンペーンの実施
- ・ 各地域を周遊する観光ルートの開発
- ・ 広域ガイドの養成とそのネットワーク化によるワンストップサービスの実施(再掲)
- ・ 観光地の有機的な連携による新たな観光拠点づくり



飯田線イベント列車



サービスエリア誘客イベント

4 他産業と連携した体験型観光の推進と交流人口の増加

スローライフや健康志向等の多彩なニーズを踏まえ、他産業と連携した体験型観光を推進し、交流人口の増加を図ります。

(1) 他産業と連携した体験型観光の推進

ものづくりや多彩な食文化といった地域の特長を活かし、他産業と連携した取組（食と健康等）や地域資源を活かした体験プログラム（イーラ^{*}等）による体験型観光の展開



イーラのキャラクター



今日からあなたも漬物名人



竹やぶ整備と竹筒料理



森林セラピー

(2) 交流人口の増加

ターゲットを明確に定め、海外観光事業者の招へい、商談会への参加等を通じた海外からの誘客促進や、スポーツ大会の開催や学習旅行等による交流人口の増加

5 魅力ある観光情報の発信

各市町村間で情報の共有化を図り、統一的で効果的な情報発信を行うほか、新たな情報媒体の活用を幅広く検討します。

(主な取組)

- ・ 首都圏、中京圏における誘客イベントの実施
- ・ エージェントへのモデルコースの情報提供やメディアトリップ等の取組の推進
- ・ ブログ、ツイッター、フェイスブック等の新たな情報媒体を活用した情報発信について幅広く検討



新宿駅誘客イベント

○ 観光振興に資する道路の主要整備か所

上伊那地域内の観光地へのアクセス・周遊機能の向上など、観光振興に資する道路の整備を進めます。

・ 道路整備主要か所一覧表

名称	整備か所	整備目標
(街路) 竜東線	伊那市 境	完成供用
	伊那市 中央北	事業着手
(街路) 辰野宮木線	辰野町 辰野駅前	事業着手
一般国道153号	伊那市～南箕輪村～箕輪町 伊那バイパス	整備推進

名称	整備か所	整備目標
主要地方道伊那生田飯田線	飯島町 田切	完成供用

※主要な整備か所として、全体事業費がおおむね5億円以上と見込まれるものを掲載しました。

【用語解説】

- ※井上井月 19世紀中期から末期の俳人。放浪と漂泊を主題とした俳句を詠み、伊那谷を中心に活動した。その作品は、後世の芥川龍之介や種田山頭火などに影響を与えたとされる。
- ※どんぶり街道、山麓一の麵街道 地域独自に育まれた個性豊かな食文化をシリーズ化し、より広い地域で力を合わせて観光の活性化や地域おこしを図ろうとする取組。どんぶり街道は、諏訪、上伊那、飯伊地域のご当地丼を、山麓一（さんろくいち）の麵街道は、岐阜高山から木曾を抜けて伊那に至る国道361号沿いのご当地麵を提供している。
- ※羽広菜 伊那市西箕輪羽広が原産で、かぶはやわらかく甘みがあるため、漬物や煮物に利用されている。
- ※赤そば 信州大学農学部氏原輝男教授（当時）らが、ヒマラヤの標高3,800メートル付近から花の赤いそばを持ち帰り、日本で品種改良して「高嶺ルビー」と名付けたもので、赤い花の鑑賞のほか、そば料理も楽しめる。
- ※アマランサス 南米原産のヒユ科の栽培植物の総称で、実はたんぱく質やミネラルなどの栄養成分が豊富で、米と混ぜて炊いたり、和え物などに調理すると、独特の食感が楽しめる。
- ※イーラ 地域の人が、体験プログラムを通じて地域を案内し、地域の活気とつながりを再生するためのまちづくりイベント。平成24年は、みなこい（宮田村、中川村、駒ヶ根市、飯島町の頭文字）地域で64の体験プログラムを開催した。なお、イーラとは、この土地の言葉で「いいですね」「いいと思うよ」「いいね」という意味がある。

5 飯伊地域

(飯田市、松川町、高森町、阿南町、阿智村、平谷村、根羽村、下條村、売木村、天龍村、泰阜村、喬木村、豊丘村、大鹿村)

南アルプスと天竜川が育む豊かな自然・食・伝統文化 南信州

地域特性

飯伊地域は長野県の最南端に位置し、静岡、愛知、岐阜の3県と接した県内で最も温暖な地域です。中央アルプスと南アルプスに挟まれた大きな谷の中央を天竜川が流れ、河岸段丘が織り成す美しい自然環境と豊富な農産物に恵まれています。また、数百年受け継がれてきた霜月祭りや大鹿歌舞伎などの祭りや民俗芸能が多数残る文化的な地域でもあります。

観光では、恵まれた自然環境、豊かな食文化、温泉をはじめとした多様な観光資源が地域内に点在する小規模分散型であり、旅行者は中京圏・東海地域を中心に県外からが7割、日帰りが8割と通過型の観光地となっています。

今後は、リニア中央新幹線や三遠南信自動車道^{*}の整備が進むことにより、観光分野での新たな可能性や発展が期待されます。



下栗の里



大鹿歌舞伎

地域の課題

当地域の平成23年の観光旅行者数は約384万人で、平成16年以降減少傾向で推移しています。また、観光消費額が減少傾向で推移し、特に一人1日あたりの観光消費額が低迷しています。このため、地域に点在する観光資源を有機的に結びつけ、地域内または隣接する地域も含めた広域で周遊できる観光地の形成を図る必要があります。

また、自然・文化の体験など多様化する観光ニーズや高速交通網の整備に対応し、地域特有の観光資源を掘り起こし魅力を高め滞在型の誘客を進めるとともに、南信州の知名度向上のため、地域が連携して効果的な情報発信を行う必要があります。

さらに、「再び訪れたい観光地」となるため、自然環境を活かしながら地域が一体となって来訪者を受け入れ、「心に残るおもてなし」を一層進める必要があります。

めざす将来像

南信州ならではの観光資源や地域の魅力を様々な手段で情報発信をすることにより、「南信州」の知名度が上がり、中京圏・東海地域はもとより、県外各地域からの来訪者が増加しています。

自然の素晴らしさ、人の温かさや地域の暮らしの豊かさを実感した来訪者が「南信州ファン」となり、繰り返し訪れ滞在し、南信州を満喫しています。

また、旅行ニーズに合わせた観光ルートの提案により、南信州の地域内の周遊のほか、隣接地域と合わせて周遊する来訪者も増えており、特に食や健康などをテーマとした体験旅行が盛んになっています。

施策の展開

1 地域内連携及び広域連携による誘客促進

地域内連携の強化と隣接地域との広域連携を進め、自然環境、農林業、食文化、伝統芸能、昼神温泉をはじめとする良質な温泉など地域に点在する観光資源を結びつけ、来訪者のニーズに合わせた観光ルートの提案などにより誘客を促進します。

(1) 南信州地域内での周遊強化

重点項目

南アルプス、天竜川、温泉、伝統芸能、秘境駅^{*}、農業体験、果物狩りなど地域特有の多様な観光資源を結びつけ、地域内で周遊できる観光ルートを提案します。

(主な取組)

- ・ 県、市町村、観光事業者等による懇談会の開催など、地域内ネットワークの強化
- ・ 県、市町村、観光協会、観光事業者が連携し、来訪者のニーズ、動向について調査、研究を行い、観光ルートを開発
- ・ 市町村、観光協会等による周遊につながる食、温泉等を巡るキャンペーンの実施



天竜川下り



天龍村坂部の冬祭り

(2) 地域を越えた広域連携による誘客促進

将来のリニア中央新幹線の開業などを見据え、隣接する上伊那・木曾地域や県外の三遠南信地域（愛知県、静岡県）と連携し、観光PRイベントの実施や広域観光ルートの開発など、国内外から訪れてもらえる取組を推進します。

(主な取組)

- ・ 伊那路・木曾路広域観光連携会議を通じて、誘客のための広域連携事業を実施
- ・ 長野・愛知県境域開発協議会による誘客宣伝活動の実施
- ・ 市町村等が街道をキーワードに県外の市町村等と連携して誘客活動を実施
- ・ 海外への情報発信、エージェントの招へいなど海外からの誘客を促進



昼神温泉郷

2 地域資源を活かした体験型観光の推進

多様化する観光ニーズや消費動向に合わせ、自然、伝統文化、農林業、食など地域特有の観光資源を掘り起こし、既存の資源についても魅力を高めることにより、体験型観光を推進し、滞在型の誘客を図ります。

(1) 農林業体験等を核とした体験型観光の推進

農林作業、農家民泊、アウトドア等の体験学習旅行や伝統芸能、グルメ探訪等の体験型観光をさらに充実させるとともに、質の向上に取り組みます。

(主な取組)

- ・ 県、南信州観光公社、市町村、観光協会等が連携し、農家の受入れ体制強化や体験メニューを充実
- ・ 県、市町村、観光協会等が連携し、観光農園の情報発信を強化



農業体験（田植え）

(2) 環境、健康分野のリフレッシュ滞在型観光の推進

重点項目

多様化する観光ニーズに応じて星空鑑賞、名水探訪などの環境分野、登山・トレッキング、サイクリング、森林セラピー、食などの健康分野で、新たな観光資源の掘り起こしに取り組みます。

(主な取組)

- ・ 南アルプス、天竜川など地域の資源を活用した体験メニューの開発
- ・ 観光事業者等による農産物、加工食品などの特産品の開発、生産、販路開拓



富士見台トレッキング

3 南信州の知名度向上のための情報発信

長野県の南の玄関口として、南信州の知名度の向上により県外からの誘客・交流を促進するため、地域が連携して積極的な情報発信を行います。

(1) 南信州地域の統一的なイメージ戦略の実施

重点項目

「南信州」という地域の知名度を上げるため、南信州のイメージや観光資源の魅力について、統一的な情報発信を行います。

(主な取組)

- ・ 県、南信州広域連合が連携し、南信州のイメージ定着のためのロゴマークやキャッチフレーズなどを作成、PRツールに活用
- ・ 市町村、観光協会等が、ロゴマーク等を使用し、南信州の統一的イメージによる自然、食、伝統芸能などの観光ポスター等を作成
- ・ 各市町村の観光スポット等を取りまとめた観光情報を県内外に発信

(2) 中京圏、東海地域における情報発信の強化

中央自動車道のほか三遠南信自動車道や国道151号・153号により訪れる中京圏、東海地域からの来訪者に対して、市町村、観光関連団体と連携した誘客イベント等により、積極的に情報発信します。

(主な取組)

- ・ 県、市町村、観光協会が連携し、中京圏における商談会、観光PRイベントを実施
- ・ 県、市町村、観光協会等が連携し、静岡県におい



ゆるキャラによる観光PR

て誘客イベント等を実施

- ・ 道の駅・農産物直売所における観光、農産物のPRの実施

4 観光を支える人づくり、地域一体によるホスピタリティの向上

来訪者が快適に滞在できる受入環境の整備やおもてなし推進の県民運動など地域が一体となったサービスの実践等により、「心に残るおもてなし」を進め南信州ファンを増やします。

(1) 観光を支える人づくりの推進

春の桜ツアーでの桜守^{*}、名勝天龍峡散策における天龍峡御案内人、城下町飯田の街歩きでの街なかガイドなど本物の観光サービスの提供を拡大していくとともに、南信州地域全体の案内ができる人材の育成を進めます。

(主な取組)

- ・ 地域のボランティアガイド組織による研修会等の実施
- ・ 地域の解説・案内のできる人材、観光地域づくりを担う人材の育成
- ・ 地域住民が地域の観光資源、歴史文化等を知るための活動を実施



春の桜ツアー「南信州桜守の旅」

(2) 地域をあげてのおもてなしの推進

観光事業者はもとより地域住民を含めたおもてなしやサービスの質の向上を図るとともに、ソフト、ハード両面での環境整備を進めます。

(主な取組)

- ・ 市町村、観光協会等による観光案内看板、観光地のトイレ、ベンチ、遊歩道等の整備
- ・ おもてなし推進の県民運動によるおもてなしの実践
- ・ 市町村、観光協会等による観光地の環境美化活動の実施
- ・ 観光事業者等による食のメニューの開発



ごへいもち



ジビエ料理（鹿肉）



市田柿



りんご

○ 観光振興に資する道路の主要整備か所

飯伊地域内の観光地へのアクセス・周遊機能の向上など、観光振興に資する道路の整備を進めます。

・ 道路整備主要か所一覧表

名称	整備か所	整備目標
(街路) 下山妙琴原線	飯田市 上山	完成供用
(街路) 羽場大瀬木線	飯田市 羽場～切石	完成供用

名称	整備か所	整備目標
高規格幹線道路	三遠南信自動車道	整備促進
リニア中央新幹線関連	リニア中央新幹線中間駅のアクセス道路	計画・整備
一般国道151号	下條村 粒良脇トンネル	事業着手
	阿南町 新野峠拡幅	事業着手
	阿南町 新野峠バイパス	完成供用
一般国道152号	飯田市 小嵐バイパス	整備推進
	飯田市 和田バイパス	完成供用
	飯田市 小道木バイパス	完成供用
一般国道256号	飯田市 上久堅拡幅	完成供用
	飯田市 下久堅バイパス	事業着手
一般国道418号	天龍村～飯田市 十方峡バイパス	完成供用
	飯田市 飯島	完成供用
	天龍村 天竜川橋	整備推進
主要地方道飯島飯田線	飯田市 切石～北方	整備推進
主要地方道天竜公園阿智線	阿智村 伍和	完成供用

※主要な整備か所として、全体事業費がおおむね5億円以上と見込まれるものを掲載しました。

【用語解説】

※三遠南信自動車道 長野県飯田市の中央自動車道・飯田山本 I C から愛知県を經由して静岡県浜松市の新東名高速道路・浜松いなさ J C T に至る、総延長約100kmの高規格幹線道路

※秘境駅 山奥や原野など人里から離れた場所にあり、列車の停車が極めて少ない駅

※桜守 南信州の銘桜・古桜の歴史や暮らしとの結びつき、保全の取組などの解説・案内を行う人

6 木曽地域

(上松町、南木曽町、木曽町、木祖村、王滝村、大桑村)

「歴史が息づく心のふるさと木曽」～豊かな自然、歴史と文化 感動を思い出に～

地域特性

木曽地域は、御嶽山・木曽駒ヶ岳などに囲まれた美しく緑豊かな地であり、木曽川の源流をなす水のふるさとです。

古くから江戸と京を結ぶ中山道を中心に発展し、人と物の交流が行われてきました。

歴史的な文化資源も多く、中山道のまち並みは県内外はもとより国外からも注目されています。

すんき漬け*やほお葉巻き*などの特色ある郷土食やお六櫛*、ろくろ細工*などの伝統工芸が受け継がれています。



福島関所まつり

自然や歴史・文化等を背景とした観光関連産業は地域の主要な産業となっています。

将来、リニア中央新幹線の開通が予定されており、都市圏との交流の拡大が期待されています。



御嶽山と木曽馬



自然湖

地域の課題

当地域の観光地利用者数は、平成6年をピークに減少傾向にあり、平成23年は約285万人となっています。また、観光消費額も減少が続いており、宿泊旅行者数も少ない状況にあります。

これは、当地域に大規模な温泉地がなく、また、中京圏など隣接地域からの自動車による日帰り旅行者の増加等により通過型観光地へと変化していることが原因と考えられます。

また、首都圏・関西圏における知名度も低く、体験型観光施設の利用も少ない等の

課題が挙げられます。

今後は、首都圏・関西圏での知名度アップを図るとともに、外国人旅行者の誘客及びスポーツ合宿等誘致の必要があります。

また、地域の特性を活かした体験型プログラムの充実による滞在型観光地へのシフトが求められています。

さらに、岐阜県や隣接地域と連携した広域観光の推進が重要になっています。

めざす将来像

観光事業者、住民及び行政が一体となり、効率的・効果的な誘客活動を行うことにより、来訪者が増加しています。

魅力ある観光地の情報発信と体験型メニューの充実により、体験型観光を楽しみ長期滞在する来訪者が国内外から木曾を訪れています。

岐阜県や隣接地域と連携した広域観光の推進により、隣接地域の観光地との周遊観光が増え、滞在型観光が拡大しています。

外国人旅行者の受入体制を充実することにより、多くの外国人旅行者が木曾を訪れ、木曾の豊かな自然や景観を楽しみ、歴史文化あふれるまち並みを散策しています。

木曾に住む全ての人が、地域の観光資源を木曾全体の共有財産としてとらえ、地域の魅力に誇りを持ち、日常の暮らしを楽しみながら、それぞれが観光の担い手として来訪者を温かくもてなしています。



中山道妻籠宿

施策の展開

1 効果的な観光情報の発信

重点項目

情報発信の環境を整備し、木曾の魅力や楽しさを、県内外はもとより国外にも発信します。

(主な取組)

- ・ 木曾路観光ポータルサイトの充実と情報発信力の強化
- ・ 木曾の魅力を発信するために、中京圏のほか首都圏・関西圏において誘客イベントを展開
- ・ 外国人旅行者の誘客に向けたWEBサイトの掲載情報の充実と多言語化
- ・ 観光資源、素材のメディアへの情報提供とフィルムコミッションへの支援

2 多彩な体験型メニューの充実による滞在型観光の推進

重点項目

木曾の自然や文化、地域産業などを活かして、グリーン・ツーリズム、スポーツ合宿及び学習旅行など体験・滞在型観光を推進します。

(主な取組)

- ・ 体験型観光メニューの充実と農家民泊など来訪者を地域全体で受け入れる体制づくり
- ・ 温泉や郷土食、アウトドア体験を活用した旅行商品の造成
- ・ 豊かな森林を活用した森林セラピーの推進やウォーキングルートの整備
- ・ 周遊観光推進のための二次交通の充実
- ・ グリーンシーズンにおける体験型メニューの充実による、年間を通じたスキー場の活用



赤沢自然休養林森林鉄道

3 広域連携の推進

重点項目

将来のリニア中央新幹線の開業や広域的な道路網の整備を見据え、岐阜県や隣接地域と連携した広域観光を推進します。

(主な取組)

- ・ 広域観光パンフレット等の作成と情報の発信
- ・ 岐阜県や隣接地域と共同での広域観光ルートの開発
- ・ 木曾川を介した中京圏との上下流交流や姉妹都市交流等の推進による交流人口の増加

4 外国人旅行者の受入体制の整備推進

外国人旅行者に広く木曾の観光を楽しんでもらうため、受入体制の整備を推進します。

(主な取組)

- ・ 外国人旅行者向けの観光パンフレットや観光案内板の充実
- ・ 宿泊施設等を対象とした外国人旅行者受入れのための研修会の開催
- ・ 外国人旅行者向けの体験観光プログラムの開発
- ・ 外国人旅行者に対応できる観光ガイドの育成・活用



一石橋立場茶屋

5 おもてなしによる満足度の向上

来訪者に木曾を満足していただくため“お客様視点・来訪者視点”のおもてなしの質の向上を図ります。

(主な取組)

- ・ 観光関係者や住民を対象としたおもてなし向上のための講習会等の開催

- ・ 観光ガイド組織のネットワーク化の推進と木曾全体をガイドできる人材の育成・活用



中山道妻籠宿

6 自然、歴史及び伝統文化の保存・継承

国内外から注目されている景観や伝統文化の保存と継承を図ります。

(主な取組)

- ・ 来訪者に安らぎを与えてくれる農山村景観の育成
- ・ 情緒あふれる中山道のまち並みなど、歴史的文化資源の保存
- ・ すんき漬け、ほお葉巻きやそばといった特色ある郷土食のブランド化に向けた取組
- ・ 木曾の誇る地域資源であるお六櫛、ろくろ細工などの伝統工芸技術の保存・継承



水無神社例大祭みこしまくり

○ 観光振興に資する道路の主要整備か所

木曾地域内の観光地へのアクセス・周遊機能の向上など、観光振興に資する道路の整備を進めます。

・ 道路整備主要か所一覧表

名称	整備か所	整備目標
一般国道256号	南木曾町 漆畑拡幅	整備推進
主要地方道開田三岳福島線	木曾町 川合	完成供用
主要地方道奈川木祖線	木祖村 白樺平下	完成供用
	木祖村 白樺平上	整備推進
一般県道上松南木曾線	上松町～大桑村 登玉～和村	整備推進
	大桑村～南木曾町 読書ダム～戸場	事業着手

※主要な整備か所として、全体事業費がおおむね5億円以上と見込まれるものを掲載しました。

【用語解説】

- ※すんき漬け 木曾の赤かぶ菜を植物性乳酸菌で発酵させた食塩無添加の漬物。長野県味の文化財に指定
- ※ほお葉巻き 小豆等のあんが入った餅を朴の葉で包んで蒸した和菓子。朴の葉が採れる5月末～7月下旬の季節限定の郷土菓子。長野県味の文化財に指定
- ※お六櫛 木祖村藪原を中心に、みねばりという木を材料として作られた櫛。長野県伝統的工芸品に指定
- ※ろくろ細工 厚い板や丸太をろくろで回転させながらカンナで挽いて形を削り出す伝統技術。国の伝統工芸品に指定

7 松本地域

(松本市、塩尻市、安曇野市、麻績村、生坂村、山形村、朝日村、筑北村)

「世界に誇る山岳と田園風景、そして多様で優れた文化がいざなう感動空間の創出」

地域特性

松本地域は、長野県の中央、さらに日本の中央に位置し、高速道路、信州まつもと空港等の高速交通網の整備により大都市圏や北海道・九州からアクセスしやすい位置にあります。

北アルプスや、上高地、乗鞍高原、美ヶ原高原などの世界に誇る山岳観光地や、特徴ある温泉地、名水百選「安曇野わさび田湧水群」、「まつもと城下町湧水群」等清らかで豊富な湧水、豊かな田園風景などがあり、日本を代表する観光地と豊かな景観に恵まれています。

また、国宝松本城、中山道奈良井宿などの歴史遺産が多くあり、サイトウ・キネン・フェスティバル松本、松本山雅フットボールクラブなどの芸術、文化、スポーツ活動も盛んです。

さらに、ワイン、わさび、山賊焼^{*}、スイカなどの特産品が豊富にあります。



安曇野の田園風景

地域の課題

当地域は、県外からの観光旅行者の比率は約7割と高いものの宿泊旅行者の比率は2割台と低く、観光消費額は伸び悩んでおり、観光旅行者の滞在時間を増やす魅力ある観光地づくりが求められています。

そこで、市町村を越えた広域連携の強化と観光情報共有化の推進や、観光資源の掘り起こしによる体験型観光メニューの創出や産業観光等の促進、二次交通の整備などにより、広域、滞在型観光の形成をめざす必要があります。

また、人と人との出会いやつながりが一層大切になり、来訪者の視点に立ったおもてなしのさらなる向上を図る必要があります。



上高地河童橋



中山道奈良井宿のまち並み

めざす将来像

松本地域の新たな観光資源の掘り起こしにより、体験型観光・産業観光等の創出が進み、これらが日本有数の山岳観光地や美しい田園風景と結びつき多様で魅力ある観光地となっています。

また、これらの観光情報の共有化や、効果的な情報発信を行うことにより、地域内の周遊が定着し、滞在時間の増加が図られ宿泊を伴う来訪者が増加しています。

さらに、来訪者と日常の暮らしを楽しむ地域の人々との出会いやつながりが一層増えることで、来訪者の視点に立った地域全体のおもてなしが向上し、心に残る多くの思い出と感動が生まれる地域となっています。

施策の展開

1 観光資源の再発見と効果的な観光情報の発信

新たな観光資源やこれまでに知られていない観光資源の洗い出しと創出を図り、観光情報の共有化と効果的な情報発信による魅力ある観光地づくりを推進します。

(1) 観光資源再発見の推進

重点項目

農業体験やものづくり体験などの農業、商工業等と連携した体験観光などの観光資源の再発見により、多様で魅力ある観光資源の創出を図ります。

(主な取組)

- ・ 体験型観光・産業観光等の新たな観光資源やこれまでに知られていない観光資源の洗い出しと創出
- ・ 冬季の観光資源や各種文化資源の洗い出しと活用
- ・ 観光資源、観光情報のデータベース化、共有化



旧国鉄篠ノ井線廃線敷

(2) 県産オリジナル食材や郷土料理の情報収集と発信

信州黄金シャモ^{*}や信州サーモン^{*}、松本一本ねぎ^{*}など県産オリジナル食材やとうじそば^{*}、山賊焼など郷土料理の提供施設の情報収集と発信を図ります。

(主な取組)

- ・ 県産オリジナル食材や特色ある郷土料理の提供施設の情報収集と発信



とうじそば

(3) 観光資源の効果的な情報の発信

重点項目

行政、観光協会、観光事業者等と連携した観光情報の共有化を図り、相互理解と活用により効果的な情報発信を図ります。

(主な取組)

- ・ 大都市圏や北陸圏、信州まつもと空港の就航先である北海道、九州等を対象とした効果的な観光情報の発信
- ・ 従来の情報発信に加え、松本山雅フットボールクラブの試合を活用したスポーツファン等への観光情報の発信



信州まつもと空港

- ・ 地域内の観光関係者に知られていない、新たな観光地情報のデータベース化及び視察研修等による観光情報共有化の推進

2 地域内で過ごせる周遊観光の推進

上高地、乗鞍高原などの世界的に評価される山岳観光地を活かした誘客の推進や多様で優れた観光地を巡る周遊観光ルート、交通アクセス（二次交通）等の検討を行い、充実をめざします。

(1) 世界的に評価される山岳観光の推進

上高地、乗鞍高原などの山岳観光地の情報発信の強化（誘客）を図るとともに、歴史遺産、田園地域、温泉地などをつなぐ周遊観光の推進を図ります。



北アルプス槍ヶ岳

(主な取組)

- ・ 山岳観光地への誘客に向けた国内外への情報発信の強化
- ・ 山岳観光地、歴史遺産、田園地域、温泉地等をつなぐ周遊観光ルートの開発
- ・ 環境負荷に対する考え方、マナーの向上の推進及び利用者負担の検討

(2) 来訪者の利便性向上のための周遊観光の推進

観光地への来訪者の利便性向上のため、交通拠点と観光地の間や観光地と観光地の間を結ぶ周遊観光の推進を図ります。

(主な取組)

- ・ 外国人旅行者の利便性にも配慮した、主要JR駅、信州まつもと空港と観光地の間や観光地と観光地の間の周遊観光ルートの開発及び交通アクセスの検討、推進
- ・ 環境に優しい歩き、自転車、電気自動車等による観光地巡りの推進

(3) 北陸新幹線の金沢延伸に合わせた誘客の推進

平成26年度末に予定される北陸新幹線の金沢延伸を意識した観光誘客を図ります。

(主な取組)

- ・ 北陸新幹線の金沢延伸を意識した周遊観光ルートの開発及び交通アクセスの検討、推進
- ・ 大都市圏、北陸圏等の旅行会社、メディアに対して商談会等を通じた観光情報、広域観光ルートの効果的な売り込み

3 来訪者の視点に立ったおもてなしのさらなる向上

人と人との出会いやつながりが一層大切となり地域住民を含めたおもてなしへの取組が求められるため、来訪者の視点に立った地域全体によるおもてなしのさらなる向上を図ります。

(主な取組)

- ・ 山岳観光客の安全安心を確保する登山道等の環境整備や山岳遭難防止対策協会等の救助体制の取組強化を支援
- ・ 外国人旅行者を含めた来訪者の立場に立ったおもてなし向上への一層の取組

- ・ 観光ガイドの育成とおもてなしのレベル向上



松本市まちなか観光
ボランティア

○ 観光振興に資する道路の主要整備か所

松本地域内の観光地へのアクセス・周遊機能の向上など、観光振興に資する道路の整備を進めます。

・ 道路整備主要か所一覧表

名 称	整備か所	整備目標
(街路) 宮渕新橋上金井線	松本市 清水～惣社	事業着手
(街路) 大門中山道線	塩尻市 大門	事業着手
(街路) 内環状南線	松本市 中条	完成供用
(街路) 出川双葉線	松本市 出川～双葉	整備推進
高規格幹線道路	中部縦貫自動車道	整備促進
地域高規格道路	松本糸魚川連絡道路	計画・整備
一般国道143号	松本市 会吉	整備推進
一般国道158号	松本市 狸平	事業着手
一般国道403号	筑北村～安曇野市 矢越防災	整備推進
主要地方道大町麻績インター 千曲線	生坂村 山清路	整備推進
主要地方道上高地公園線	松本市 上高地	整備推進
主要地方道塩尻鍋割穂高線	安曇野市 塚原	事業着手
主要地方道穂高明科線	安曇野市 常盤橋	完成供用
一般県道波田北大妻豊科線	松本市 烏々～三溝新田	整備推進

※主要な整備か所として、全体事業費がおおむね5億円以上と見込まれるものを掲載しました。

【用語解説】

※山賊焼 鶏の一枚肉をニンニクなどが効いたタレに漬け込み、片栗粉をまぶして揚げた、松本平の郷土料理

※信州黄金シャモ 県畜産試験場でシャモと名古屋種を交配することにより作り出した肉用地鶏。歯応えと食味成分の高いことが特徴

※信州サーモン 県水産試験場でニジマスの雌とブラウントラウトの雄を交配して作り出した養殖魚。サーモンを思わせる銀色の身体と紅色の身が特徴

※松本一本ねぎ 信州の伝統野菜に認定されている一本ねぎ。全長90センチ、軟白部40センチで、肉質が柔らかく、甘み、風味の豊かさが特徴

※とうじそば 竹で編んだ「投汁（とうじ）かご」に小盛したそばを取り、季節の野菜やキノコたっぷりのつゆ（鍋）に浸しさっと湯がいて食する郷土料理

8 大北地域

(大町市、池田町、松川村、白馬村、小谷村)

北アルプスの山懐に抱かれて ～感動 体験 四季のたび～



地域特性

大北地域は雄大な北アルプスの麓に広がり、大町市・白馬村・小谷村は国内有数のスキー場や立山黒部アルペンルートを代表とする山岳観光地、数多くの温泉などを、また、池田町・松川村は豊かな田園風景や国営アルプスあづみの公園、安曇野アートライン*に連なる美術館などを有しています。さらに、古くは「塩の道」と呼ばれた千国街道が地域を南北に走り、往時をしのばせる史跡も数多く残されており、自然、文化、歴史など多様な観光資源を持つ地域として多くの観光旅行者が訪れています。



シャワークライミング

近年では外国人旅行者が増加しており、平成26年度末に予定される北陸新幹線の金沢延伸による首都圏や北陸圏からのアクセスの向上とあわせ、観光旅行者の増加が期待されます。

地域の課題

当地域は、近年、国際的に知名度の高いスノーリゾートや立山黒部アルペンルートを中心に外国人旅行者が増加傾向にあり、また、北アルプスや安曇野の素朴な田園風景を眺めながらのウォーキングや農家民泊など、体験型観光の人気が高まっています。



豊かな田園風景

一方、当地域の平成23年の観光旅行者数は714万人で、冬季観光の主力であるスキー客の減少などにより、ピーク時（平成6年）の3分の2程度まで減少しています。

このような状況を踏まえ、南北に異なる特徴を持った地域の自然環境や様々な資源を活かした体験型観光の強化を図るなど、グリーンシーズンの誘客を広域的に促進する必要があります。また、スキーや山岳観光においても外国人旅行者の誘客をはじめ

とした新たな観光旅行者の開拓を進め、年間を通じて楽しめる国際的な観光地としての地位を獲得していく必要があります。

めざす将来像

北アルプスの雄大な景観や自然の豊かさを活かしたスキーや登山、トレッキングやグリーンシーズンの体験型観光、さらには温泉などの楽しみが、大北地域でしか味わえない魅力として広く浸透し、年間を通じた観光地としての知名度が高まり、観光旅行者数が増加に転じています。



湯量豊富な癒しの温泉

特に、農林業体験や農家民泊、ウォーキングなど地域の暮らしや自然に触れた体験型観光の人气が高まっています。

また、農林業やサービス業など産業間の連携により新たな食や特産品などが生まれてきています。

外国人旅行者の誘客活動や新たな旅行商品の開発により、外国人旅行者も順調に増加しています。

施策の展開

1 グリーンシーズンの誘客強化による通年型観光の推進

大北地域の強みである冬季の観光に加え、体験型観光の推進や農林業等との連携によりグリーンシーズンにおける誘客を強化し、年間を通じたリゾートエリアをめざします。

(1) 体験型観光の商品化の促進

南北に異なる特徴を持った地域の自然環境や様々な資源を活かした体験型旅行商品を開発し誘客を促進します。

(主な取組)

- ・ 北アルプス山麓の自然の豊かさや風土、伝統文化、食などを取り入れた大北地域ならではの体験型メニューの商品化
- ・ 北アルプスや安曇野の田園風景を眺めながら楽しむウォーキング、スケッチや美術館めぐりなど、来訪者の多様なニーズに応える旅行商品の開発
- ・ 南部の自然体験の拠点である国営アルプスあづみの公園（大町・松川地区）と連携した体験型メニューの開発
- ・ スポーツ合宿、マラソン、サイクルロードレースなどスポーツに着目した誘客の強化

(2) 農林業等との幅広い連携による観光の魅力創出

重点項目

幅広い産業間の連携を促進し、地域の特性を活かした農林業体験の商品化や特産物の開発を推進することにより、観光の魅力の創出と地域産業全体の活性化を図ります。

(主な取組)

- ・ 農林業体験、農家民泊、地域の芸能・音楽・陶芸等の伝統文化、商工業の産

業観光などを素材とした旅行商品の開発など、幅広い産業と観光の連携の強化

- ・ 北アルプス山麓地域の澄んだ空気と清冽な水に育まれた農畜産物やその加工品等の中から認定された「北アルプス山麓ブランド^{*}」等の活用
- ・ 地域ならではの食、味覚の提供やワイン、わさび、山菜など地域の特色を活かした新たな特産品の開発と活用



中学生の農家民泊

2 外国人旅行者の誘客の推進

スキーや立山黒部アルペンルートなどを中心に、県内で先進的な地位を築いてきた外国人旅行者の誘客の拡大に向けた商品開発と積極的なプロモーションを展開し、さらなる誘客を推進します。

(1) プロモーション活動の強化

良質な雪を活かしたウィンタースポーツや雄大で美しい北アルプスの山岳観光を積極的にプロモーションすることにより、外国人旅行者の誘客を推進します。

(主な取組)

- ・ 国際的に知名度のある北アルプスや立山黒部アルペンルートの誘客力を高めるための県内、隣県等と連携した広域観光周遊ルートの開発と情報発信
- ・ トップセールスや旅行商談会への参加等による海外エージェント向けのプロモーション活動の実施
- ・ 海外からのアクセスを向上させるため、信州まつもと空港や富山空港を活用した旅行商品の開発



黒部ダム

(2) 訪日教育旅行の受入促進

重点項目

これまで未開拓分野であった訪日教育旅行の受入を促進し、若い世代からの国際交流を推進するとともに、地域へ経済効果が波及するための取組を進めます。

(主な取組)

- ・ 県、市町村、市町村教育委員会、学校、観光団体、事業者等による受入体制の整備
- ・ 海外の青少年が地域に親しみを持ち、将来リピーターとして再び訪れてもらえるよう、農業等の産業、自然、伝統文化などを地域住民と共に体験できるメニューの開発

3 北アルプスの山岳資源の活用

日本を代表し地域最大の観光資源である北アルプス山麓に広がるスキー場や山岳などにおける、来訪者の新たなニーズに応えるスキー・山岳観光の魅力を発信し、大北地域ならではの山岳リゾートをめざします。

(主な取組)

- ・ 低迷するスキー場の利用者拡大に向けた検討会等の開催
- ・ 県内小中学生がスキーに親しむための環境づくり及び国内外からのスキー学習旅行の誘致
- ・ 大町温泉郷地区及び小谷村内の3か所のスキー場地区における観光地再生のための取組の成果であるシャトルバスの運行や特産品の開発などを発展させた新たなサービスの提供
- ・ 立山黒部アルペンルートと上高地を結ぶ広域観光周遊ルートの開発及び両地域を結ぶ観光資源の発掘
- ・ 山岳観光（登山・トレッキング）と平地観光（温泉・食など）を組み合わせ、長期滞在をしてもらうための旅行商品の開発



スノーシュー

4 北陸新幹線の金沢延伸を視野に入れた誘客の推進

北陸新幹線の金沢延伸に向けて、北陸圏からの近さと大北地域の観光の認知度をアップさせるため、行政、観光団体、JR等で組織する「大糸線ゆう浪漫委員会^{*}」などによる誘客宣伝活動を積極的に推進します。

(主な取組)

- ・ 北陸圏、首都圏及び中京圏での観光PR活動の実施
- ・ 糸魚川及び長野方面からのアクセス向上に向けた取組
- ・ 立山黒部アルペンルートなど県境を越えた周遊型・滞在型旅行商品の開発
- ・ 大糸線リゾートトレイン内での「おもてなし」活動の実施及び大糸線を核とした旅行商品のPR

5 地域の観光をリードする人材の育成と環境整備の推進

地域住民が一体となった上質な「おもてなしの心」による、満足度の高い観光地域づくりのため、地域の観光をリードする人材の育成や環境整備を推進します。

(主な取組)

- ・ 地域住民が一体となって進める観光地域づくりのための地域をけん引する人材の育成
- ・ 自然、文化、歴史など地域の魅力を伝えられる観光ガイドの育成のための研修会の開催
- ・ おもてなしの向上のための観光事業者の研修会を開催するとともに来訪者を温かく迎える地域住民の気運の醸成
- ・ 外国人旅行者の受け入れのため、パンフレット、案内表示等の外国語表示・多言語化などの環境整備や外国語対応のできる人材の育成

○ 観光振興に資する道路の主要整備か所

大北地域内の観光地へのアクセス・周遊機能の向上など、観光振興に資する道路の整備を進めます。

・道路整備主要か所一覧表

名 称	整備か所	整備目標
(街路) 三日町犬ノ窪線	大町市 俵町	完成供用
(街路) 中央通り線	大町市 北大町	事業着手
地域高規格道路	松本糸魚川連絡道路	計画・整備
一般国道148号	小谷村 雨中	整備推進
主要地方道白馬美麻線	白馬村 大左右	事業着手
一般県道千国北城線	小谷村～白馬村 樽池	完成供用

※主要な整備か所として、全体事業費がおおむね5億円以上と見込まれるものを掲載しました。

【用語解説】

※安曇野アートライン 大北地域5市町村と安曇野市に点在する約20館の美術館・博物館等を結んだライン（道）

※北アルプス山麓ブランド 豊かな自然と清冽な水・空気がもたらす恵みから生み出される、北アルプス山麓地域の農畜産物やその加工品などの中から、北アルプス山麓農畜産物ブランド運営委員会ブランド品として認め、情報発信する特に優れた商品。平成25年2月現在59品目

※大糸線ゆう浪漫委員会 大糸線を核とした観光振興を推進し、地域の活性化を図ることを目的に、平成20年4月に発足した、北アルプス観光協会（大北地域5市町村の行政、観光関係団体等）、安曇野市の行政・観光協会、JR東日本等により構成する広域連携組織

9 長野地域

(長野市、須坂市、千曲市、坂城町、小布施町、高山村、信濃町、飯綱町、小川村)

千曲川がゆったり流れるぬくもり 感動のふるさと 「長野」

地域特性

長野地域は、北に飯縄山、戸隠山、黒姫山、妙高山、斑尾山の北信五岳を望み、南からは千曲川、西からは犀川の豊かな流れに恵まれた、四季折々の自然の魅力に溢れた地域です。上信越高原国立公園、風情ある温泉地やスキー場、森の中の遊歩道などは、この地を訪れる多くの人々に安らぎをあたえています。



姨捨の棚田

気象面では降水量は比較的少ないものの、北部丘陵地帯は豪雪地帯となっているなど、地域内でも多様性を有し、それが優れた品質の様々な食の恵みをもたらしています。

また、当地域は早くから歴史の舞台としても重要な場所となってきました。国宝善光寺をはじめとした多くの歴史的・文化的な遺産は、地域を越え広く人々の大切な心の拠り所となり、また、文化の交流・蓄積の拠点となっています。



戸隠神社奥社参道

さらに、長野新幹線、上信越自動車道など、首都圏などからの交通アクセスに恵まれた地域であることや、長野オリンピック開催による知名度も観光面では強みとなっています。

地域の課題

平成26年度末に予定されている北陸新幹線の金沢延伸は、輸送人員の大幅な増加、北陸圏との時間短縮効果をもたらす一方で、長野地域が通過地化する、あるいは日帰り傾向がさらに進むなどのマイナス面も懸念されています。

国内の観光市場が低迷する中であって、従来から多くの観光旅行者をお迎えしていた当地域においても、これまで以上に地域のブランドを明確にしていくことが重要です。

そのためには、引き続き観光資源の磨き上げを図るとともに、地域に根ざした新たな観光商品やサービスの展開、地域全体でのおもてなしの充実などを通じ、来訪者に様々な感動の場面を提供し、地域での滞在時間の増加につなげていく必要があります。

また、中山間地域にある観光資源の多くは、公共交通機関を利用する来訪者にとってのアクセスに問題があり、二次交通の利便性向上が重要な課題となってきています。

めざす将来像

長野地域は、長野県観光の情報発信機能や交通網の要であり、また、多様な観光資源にも恵まれ、四季を通じて老若男女大勢の来訪者で溢れています。

地域においては、四季の色彩豊かな自然、幾代にもわたり積み重ねられてきた歴史、伝統文化、そして、その中で暮らす人々の豊かな日常に根ざした様々な感動の場面があり、また、多くの事業者・住民の協働により、地域が誇れる新たな感動が創造されています。



信州高山温泉郷

さらに、地域全体でのおもてなしの心は、滞在する来訪者の時間をより一層思い出深いものとし、ふるさとの安らぎをもたらしてくれています



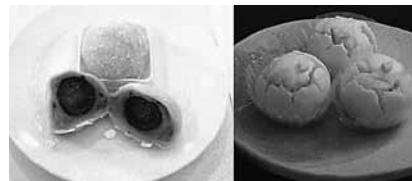
小川村から北アルプスを望む

施策の展開

1 観光資源の多角的な利用の推進・磨き上げの促進

(1) 地域資源を活かした商品・サービス開発及び磨き上げの推進

地域資源の中でも観光資源としての活用が十分にされていないものなどについて、多角的な利用方策の検討を進め、「ここにしかないもの」を増やしていきます。



須坂フルーツスイーツ

(主な取組)

- ・ 地域内で生産される多種多様な農畜産物等の資源を活用し、生産者と加工業者との連携を深めることにより、新たな商品開発・販路開拓を推進
- ・ 歴史上の人物ゆかりの事物や歴史的なまち並みなど、地域の歴史に関する様々な資源について、まち歩きや街道歩きといった、来訪者の健康志向と好奇心を充足させる手法により、観光面での活用を推進
- ・ 観光資源に関する来訪者の評価について情報収集を進め、観光関係者にフィードバックし、観光資源の磨き上げを推進

(2) 体験型観光の一層の推進

自然体験や農業体験など、来訪者のニーズの多様化に対応し、また、国内外からの教育旅行の受入・交流を促進するため、様々な体験型観光に関する情報収集・共有とPRを行い、滞在型観光を推進します。

(主な取組)

- ・ トレッキングや森林ウォーキングなど、地域の自然環境を活かしたアクティビティやスポーツ合宿誘致の取組について、情報収集やPRを促進

- ・ 農業体験や農村生活体験など、様々な主体が取り組んでいるグリーン・ツーリズム^{*}について情報収集を実施



癒しの森



りんご狩り体験

2 長野地域のブランドイメージの向上と効果的な情報発信

北陸新幹線の金沢延伸に対応し、長野地域のイメージを明確にさせた情報発信を強化することにより、特に県外からの認知度をさらに向上させ、誘客を促進します。

(1) 北陸新幹線延伸・善光寺御開帳に向けた情報発信と連携の強化

重点項目

北陸新幹線の金沢延伸、観光地間の競争激化に対応し、地域の魅力に関する認知度を向上させるために、大都市圏等における誘客イベントなどの宣伝活動を強化して実施します。

特に、新幹線延伸直後は善光寺御開帳が開催されることから、関係団体と連携した効果的なPRの実施により、来訪者の地域内滞在促進を図ります。



©善光寺

(主な取組)

- ・ 県・市町村・観光協会等が共同して、地域の大規模イベントを活用した効果的な観光PRを実施するとともに、首都圏、北陸圏、関西圏における観光PRイベントを実施
- ・ 県・観光協会等において、長野駅を基点とした滞在型観光について提案
- ・ 長野駅を基点とし、地域を越えた多様な広域観光ルートの開発、情報発信及び商品化の促進

(2) まちづくり・おもてなし意識の向上

地域住民が誇りに思えるまちづくり、地域づくりや地域全体のおもてなし意識の向上を図り、旅行者にとっての「ふるさと」となるよう、地域ブランド力を高め、来訪者の満足度向上と再来訪を促進します。

(主な取組)

- ・ 地域住民によるまちづくり活動に対し、県・市町村が支援・協力を行うほか、まちづくり活動に関する成功事例等を紹介
- ・ おもてなし能力向上のための研修会や講習会の開催
- ・ 地域のおもてなし意識向上のための地元住民向けPRの実施



さかき千曲川バラ公園



小布施町 栗の小径

3 観光地へのアクセスに関する利便性向上

観光拠点における観光情報の充実、二次交通の利便性向上により、地域全体の観光地としての魅力や地域内の周遊性を高め、地域内の滞在時間の増加を図ります。

重点項目

(1) 観光拠点における情報提供の充実

地域の観光拠点において、旬の観光情報提供機能を充実し、来訪者の周遊性を高めるとともに、満足度の向上に取り組みます。

(主な取組)

- ・ 県・市町村・観光協会等により、長野駅や道の駅等主要な観光拠点における観光情報提供機能の強化
- ・ 県・市町村・観光協会等において、主要観光地と長野駅等交通拠点を結ぶ公共交通機関に関する情報提供を充実



長野駅善光寺口駅前広場整備デザイン
(平成26年度末完成予定)
(駅ビルのデザインは市が想定したもの)

(2) 二次交通手段の多様化の検討

観光資源を結ぶ二次交通手段の多様化についての検討を進め、来訪者の利便性向上、地域内を周遊する来訪者の増加に取り組みます。

(主な取組)

- ・ タクシー等二次交通を利用した広域観光ルートを活用した周遊型商品造成の検討
- ・ 入込みの拠点となる長野駅などの鉄道駅と観光地間等を結ぶアクセス強化の検討

○ 観光振興に資する道路の主要整備か所

長野地域内の観光地へのアクセス・周遊機能の向上など、観光振興に資する道路の整備を進めます。

・ 道路整備主要か所一覧表

名称	整備か所	整備目標
(街路) 栗田屋島線	長野市 南部小学校北	事業着手
(街路) 長野菅平線	長野市 大豆島	事業着手
(街路) 高田若槻線	長野市 桐原～吉田	整備推進
(街路) 戸倉上山田線	千曲市 上中町	完成供用

名 称	整備か所	整備目標
(街路) 臥竜線	須坂市 八幡町	事業着手
(街路) 真田線	長野市 松代	完成供用
(街路) 県庁篠ノ井線	長野市 川中島～篠ノ井	事業着手
高規格幹線道路	上信越自動車道（4車線化）	整備促進
一般国道406号	長野市 西組バイパス	整備推進
主要地方道長野真田線	長野市 松代	整備推進
(広域農道) 上水内北部地区	長野市、信濃町、飯綱町	完成供用
(土地区画整理) 長野駅周辺第二地区	長野市 長野駅周辺第二地区	整備促進

※主要な整備か所として、全体事業費がおおむね5億円以上と見込まれるものを掲載しました。

【用語解説】

※グリーン・ツーリズム 緑豊かな農山村地域において、自然、文化、農林業とのふれ合いや人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動

10 北信地域

(中野市、飯山市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、栄村)

北陸新幹線飯山駅が開業 つながろう北信州！



地域特性

北信地域は、志賀高原をはじめとする美しい高原や鮮やかな四季に恵まれ、唱歌「故郷」にも歌われた日本の原風景というべき豊かな自然が広がるエリアです。

当地域は観光資源が豊かで、歴史ある大温泉街や山里・秘境の温泉など特色ある温泉が点在しているほか、自然の恩恵と技術を活かした高品質の米や野菜、きのこ、果物などの農産物や山の幸、それらを活用した多様な食文化があり、土人形や猫つぐら、内山和紙など独自の文化や伝統工芸も今なお息づいています。

また、日本有数の豪雪地帯でもある当地域は、スキーを中心としたウィンタースポーツが盛んで、スキー場の集積は国内でトップクラスとなっています。

地域の課題

当地域の課題は、平成26年度末に北陸新幹線飯山駅が開業することから、その効果を地域全体の振興にいかにつなげるかにあります。

このため、二次交通対策や他産業との連携を進めるとともに、ターゲットを見極めた広域的なストーリー性のあるテーマ・ツーリズム^{*}の確立などの広域観光を進め、地域全体がおもてなしの心でお客さまをお迎えし、リピーターとなってもらえるよう取り組む必要があります。

また、スキー客が減少する中、一大スノーリゾートである当地域を再興するため、ウィンタースポーツと他の観光資源との組合せや、子どもの頃からスキーができる環境整備、海外市場の獲得などのスキー振興策を講じる必要があります。

めざす将来像

北陸新幹線飯山駅がエリアの駅として利用され、来訪者は飯山駅の観光案内所でのワンストップサービスを受け、自分の旅行目的にあったメニューを選び、北信州の観光の魅力を満喫しています。

一大高原・スノーリゾート北信州のエリアイメージが定着し、来訪者は、大小様々な魅力あるスキー場での滑走や、高原・雪国そのものの魅力と遊び・体験、また伝統文化などを堪能しています。

北信州の主要産業である農業と観光が連携したことで観光の魅力がさらに増し、来訪者は、田舎の生活を実感できる旅や地元の食材を活かした食を満喫しています。

施策の展開

1 新幹線飯山駅開業効果の最大化

平成26年度末の北陸新幹線飯山駅開業を見据え、ふるさとの原風景や四季の彩りなどの北信州の豊富な観光資源を活用し、広域連携を強化しながらテーマ・ツーリズムを進め、新幹線飯山駅開業効果が、地域全体の振興に結びつくよう対策を進めます。

重点項目

(1) 広域連携の強化

北陸新幹線飯山駅開業に向け、広域連携による北信州の豊富な観光資源の活用を進め、来訪者がゆったりと北信州の魅力を満喫できるような施策を進めます。

(主な取組)

- ・ 観光に携わる者が、身近なものばかりでなく広域エリアの観光資源を理解する施策の推進
- ・ 官主導ではなく、民間主導により豊富な観光資源を活用したストーリー性のある広域的な旅行商品を開発
- ・ 新幹線飯山駅において来訪者へのワンストップサービスを行う広域観光案内所の開設
- ・ 情報の共有化を進め、地域内共通のパンフレットやホームページの作成など広域連携した情報発信



北陸新幹線飯山駅外観デザイン

(2) テーマ・ツーリズムの推進

重点項目

来訪者が、いかに北信州の人々と触れ合い、人々とのつながりができるかを基本としながら、多様化する旅のテーマに応え、北信州の豊かさを来訪者が実感できるようなテーマ・ツーリズムを推進します。

(主な取組)

- ・ 異業種との連携を図りながら、豊富な観光資源を加工し、磨き上げて旅行商品を開発



信越トレイル

- ・ 豊富な観光資源を組み合わせることによる来訪者の旅行目的にあったテーマ・ツーリズムの推進
- ・ 北信州の豊かな自然を活かした森林セラピー等の体験型観光の展開とそれに対応するインストラクター等の養成と配置

(3) 海外からの誘客促進

今後増加が見込まれる外国人旅行者が、当地域を訪れるよう北陸新幹線を活用した外国人旅行者向け広域観光ルートを提案するとともに、外国人旅行者の受入体制の整備を進めます。

(主な取組)

- ・ 首都圏及び北陸圏の国際空港と北陸新幹線を活用した広域的な外国人旅行者向け観光ルートの提案
- ・ 外国人旅行者向けの旅行商品を地域全体で売り込んでいくことにより、北信州の認知度を向上
- ・ 新幹線飯山駅の観光案内所に外国人旅行者向けインフォメーション機能等を持たせるなど受入体制の一本化

(4) 交通環境の整備

北陸新幹線飯山駅の利用者が円滑に目的地へ向かうことができるよう二次交通対策を進めるとともに、地方幹線道路の整備を行います。

(主な取組)

- ・ 交通事業者と連携を深めながら、利便性の高い二次交通体系の検討・整備
- ・ 国道117号、403号などの地方幹線道路の整備
- ・ 円滑な冬期交通確保のための道路整備の推進と除雪等の維持管理の強化

2 アジア随一のスノーリゾート形成

北信州には、志賀高原スキー場をはじめとした大小様々な魅力に富むスキー場が集積していることから、国際的にも通用するアジア随一のスノーリゾート形成を図るとともに、北信州で育つ子どもたちが、スキーに親しむ環境を整備します。



志賀高原スキー場

(1) 魅力的なスノーリゾートの形成

重点項目

大小様々な魅力的なスキー場が集積する北信州のエリアイメージの形成を進めながら、スキー場利用者が雪国の魅力を満喫できるような対策を進めます。

(主な取組)



野沢温泉スキー場

- ・ 広域連携により一大スノーリゾート北信州を大都市圏へPRし、エリアイメージを形成
- ・ 雪国の伝統文化や食、遊びなどを組み合わせた雪国の魅力あふれる旅行商品の造成
- ・ スキー場利用者が、1か所に滞在しながら、多くのスキー場を利用できる体制を整備
- ・ 外国人旅行者に対応した案内機能の整備や人材の育成

(2) 子どものスキー教育環境の充実

一大スノーリゾート北信州で育つ子どもたちが、幼少の頃からスキーに親しみ、将来的にはスキーの魅力を地域の外に伝えることができる環境を整備します。

(主な取組)

- ・ 各市町村スキークラブと教育機関や各種スポーツ団体が連携しながら北信州の子どもたちが小さい頃からスキーを楽しむことができる環境を整備
- ・ 児童・生徒の指導にあたっている教職員や子どものスポーツ振興に携わる者が、スキーの楽しさを再認識する機会の創出

3 農業と連携した観光の魅力創出

北信州では、自然の恩恵と技術を活かした品質の高い農産物が数多く生産されていることから、北信州の主要産業である農業と連携することで、北信州の観光の魅力を増す取組を行います。

(1) グリーン・ツーリズムの推進

日本の原風景というべき恵まれた景観の中で営まれる農業と連携しながら、農業体験などの体験メニューの充実や、都会にはない田舎の魅力を味わえるグリーン・ツーリズムを推進します。



さくらんぼ狩り体験

(主な取組)

- ・ 農業体験や農産物加工など農業者と連携した体験メニューの充実
- ・ 田舎の生活文化を実感できるグリーン・ツーリズムの推進

(2) 地域の食のPR

北信州の地域色あふれる魅力的な食のPRを進めるとともに、地域食材を活用したご当地メニューや土産品の開発を推進します。



あんぼ

(主な取組)

- ・ 北信州独特のほくちそば*やあんぼ*などの多様な食文化の来訪者への情報提供
- ・ 他地域との違いを明確化しながら、地域の食材を活用した料理や土産品の開発

○ 観光振興に資する道路の主要整備か所

北信地域内の観光地へのアクセス・周遊機能の向上など、観光振興に資する道路の整備を進めます。

・ 道路整備主要か所一覧表

名称	整備か所	整備目標
(街路) 立ヶ花東山線	中野市 吉田	事業着手
一般国道117号	中野市～飯山市 替佐～静間バイパス	完成供用
一般国道403号	飯山市 中央橋架替	完成供用

名称	整備か所	整備目標
(土地区画整理)新幹線 飯山駅周辺地区	飯山市 新幹線飯山駅周辺地区	完成

※主要な整備か所として、全体事業費がおおむね5億円以上と見込まれるものを掲載しました。

【用語解説】

※テーマ・ツーリズム 多様化する旅のテーマに応えながら、訪問者が旅を通じて訪れた地域の豊かさを実感できるような旅の形態

※ほくちそば つなぎに「オヤマボクチ」という植物の葉の繊維を使ったそば

※あんぼ 米の粉をこねた中に旬の山菜や野菜を入れて焼いた食べ物

11 10の広域圏を越えた取組

ここでは、10の広域圏を越えた広域連携について、具体的な取組を記載しました。

【大北⇄新潟県糸魚川市】

○現状と課題

- ・塩の道「千国街道」の歴史や文化を活かした塩の道祭りなどの連携した取組が行われていますが、より地域が一体となった取組を推進する必要があります。

○具体的な取組

- ・北陸新幹線の金沢延伸を契機とした、県境を越えた連携の強化と新たな魅力の創出

【大町市⇄富山県立山町】 <立山黒部アルペンルート広域観光圏>

○現状と課題

- ・平成22年4月に、大町市、富山県立山町により構成される「立山黒部アルペンルート広域観光圏」が観光庁により認定され、山岳観光・エコツーリズムの目的型・滞在型観光地をめざした取組が行われています。地域一体となって、アルペンルートブランドの構築と環境整備などをさらに推進する必要があります。

○具体的な取組

- ・立山黒部アルペンルート広域観光圏協議会による、宿泊の魅力向上、観光資源を活用したサービスの開発及び提供など、観光圏整備事業の計画的実施

【松本⇄大北】

○現状と課題

- ・日本を代表する山岳観光地でありながら、北アルプス全体を活用した広域的な取組に乏しい状況です。
- ・スノーリゾートとして発展してきましたが、スキー客の減少により冬季観光は厳しい状況にあります。
- ・平成20年4月に大北地域5市町村、安曇野市等により構成される「大糸線ゆう浪漫委員会」が設置され、大糸線を核とした観光振興を推進しています。

○具体的な取組

- ・グリーンシーズンにおける「上高地」、「立山黒部アルペンルート」等を活用した周遊型・滞在型観光ルートの開発と積極的なプロモーションの実施
- ・スノーリゾートとしての北アルプスの魅力の再発信による誘客促進
- ・大糸線リゾートトレイン内でのおもてなし活動の実施及び大糸線を核とした旅行商品のPR

【松本⇄岐阜県飛騨地域】

○現状と課題

- ・北アルプスの麓に位置し、国道158号で結ばれる松本地域と岐阜県飛騨地域とは、平成元年4月に「松本・高山・金沢・白川郷誘客協議会」、平成11年9月に「ぶり街道推進協議会」、平成21年11月に「JAPAN ALPS広域観光都市連携会議」が設立され、誘客に向けた情報交換や共同PR等を推進しています。

○具体的な取組

- ・各協議会による、海外メディアの招へいや国内外へのプロモーションなどの促進

【塩尻市⇄木曾⇄岐阜県中津川市】 <木曾地域広域観光振興プロジェクト会議>

○現状と課題

- ・平成20年9月に、塩尻市、木曾郡6町村、岐阜県中津川市等で構成される「木曾地域広域観光振興プロジェクト会議」を設置し、塩尻市奈良井から岐阜県中津川市馬籠までの木曾十一宿を中心とした地域を広く木曾路としてとらえ、歴史的、文化的なつながりを基とした地域全体の観光資源の活用と振興を図っていますが、この取組を一層推進する必要があります。

○具体的な取組

- ・木曾路の観光資源の掘り起こしと誘客活動の展開

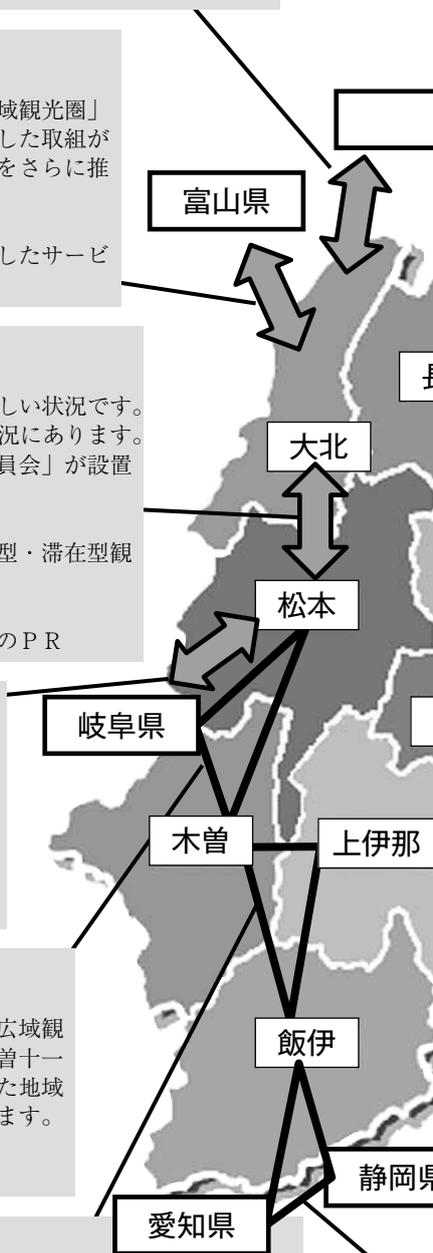
【上伊那⇄飯伊⇄木曾】

○現状と課題

- ・国道361号伊那木曾連絡道路の権兵衛トンネルが平成18年に開通し、交通事情が大幅に改善されていますが、依然として日帰り旅行者が多く、そのメリットは必ずしも活かしきれいていません。
- ・平成22年7月から各地域の観光関係者の連携を図る伊那路・木曾路広域観光連携会議を開催し、広域観光に向けた取組を行っています。
- ・将来のリニア中央新幹線の開通を見据え、いかに広域を組み合わせた周遊観光を促進するかが課題となっています。

○具体的な取組

- ・伊那路・木曾路広域観光連携会議による広域観光をテーマとした広報資料の作成及び交通事業者と連携したキャンペーン等の実施
- ・各地域間を周遊する観光モデルルートの開発
- ・広域を案内できる観光ガイドの養成とそのネットワーク化によるワンストップサービスの実施
- ・観光地の有機的な連携による新たな観光拠点づくり



【栄村⇄新潟県魚沼地域⇄群馬県みなかみ町】 <雪国観光圏>

○現状と課題

- ・平成20年10月に、「雪国観光圏」が観光庁により認定され、「雪国の自然環境と文化の魅力」を国内外にアピールし、観光旅行者の来訪および滞在促進をめざす雪国観光圏ブランドの確立」をめざした取組が行われています。地域一体となって、観光資源活用と環境整備などをさらに推進する必要があります。

○具体的な取組

- ・雪国観光圏スノーカントリートレイル準備委員会による長野、新潟、群馬の3県にまたがる「スノーカントリートレイル」の整備

【長野⇄北信⇄新潟県上越市・妙高市】

<信越観光圏><信越9市町村広域観光連携会議>

○現状と課題

- ・平成24年4月に「善光寺発ころの旅路『信越ふるさと回廊』」を基本コンセプトとする「信越観光圏」が観光庁により認定され、観光資源の活用の多様化・高度化や、都市住民との交流促進などを通じて宿泊滞在型・地域の人々との交流型の観光圏形成をめざしています。
- ・平成24年1月に「信越9市町村広域観光連携会議」が設立され、北信地方を中心に地域の特色を活かした広域リゾートエリア構築に向けた取組が始まっています。
- ・今後、北陸新幹線の金沢延伸による交流人口の拡大など、地域を取り巻く環境の変化に的確に対応し、地域全体の魅力の向上及び積極的な情報発信を図っていく必要があります。

○具体的な取組

- ・県内外における観光プロモーションの共同実施
- ・地域住民等による観光まちづくりに関する取組への支援
- ・信越観光圏協議会における観光圏整備事業の計画的実施
- ・信越9市町村広域観光連携会議における事業計画の着実な実施

【佐久⇄上小】

○現状と課題

- ・年間約770万人にのぼる軽井沢への観光旅行者の動向は、他広域への周遊が少ない状況です。
- ・これらの観光旅行者について、いかに地域内の他の市町村や他広域の観光地への周遊を促進するかが課題となっています。

○具体的な取組

- ・軽井沢を訪れる観光旅行者を対象とする地域内市町村や他広域の観光地の情報発信
- ・高速道路サービスエリア、新幹線駅等における共同プロモーションの実施
- ・ワイナリーめぐり、酒蔵めぐり等を目玉とした周遊型観光商品の開発
- ・しなの鉄道、JR小海線等広域を結ぶ交通機関と連携した誘客活動の展開

【諏訪⇄山梨県峡北地域】 <八ヶ岳観光圏>

○現状と課題

- ・平成22年4月に富士見町、原村、山梨県北杜市により構成される「八ヶ岳観光圏」が観光庁により認定され、滞在型観光推進に向けた取組を進めていますが、制度改正に伴い、新たな展開に向けた検討が必要となっています。
- ・リニア中央新幹線等の整備を見据えた広域観光を推進するためには、「八ヶ岳観光圏」よりも広いエリアにおける連携を視野に入れることも必要です。

○具体的な取組

- ・「八ヶ岳観光圏観光地域ブランド確立支援事業」を活用した観光地域整備の促進
- ・「交通新時代に向けた連携・交流基盤拡大事業」による取組の推進

【飯伊⇄愛知県東三河地域⇄静岡県遠州地域】

○現状と課題

- ・平成20年度に、「三遠南信250万流域都市圏の創造」をテーマとして将来像と連携事業の方針を定めた「三遠南信地域連携ビジョン」を策定するとともに、推進会議（SENA）を設置し、県境を越えた広域連携に取り組んでいます。
- ・整備が進む三遠南信自動車道により観光分野での新たな可能性が期待されることから、交流・連携を一層深め、地域特有の観光資源を活かす活動や海外からの誘客などを推進する必要があります。

○具体的な取組

- ・自然、食、祭り・伝統芸能、ものづくりなど三遠南信地域の資源の情報発信を強化
- ・「塩の道」やJR飯田線等を活用した地域の観光・文化の取組を支援
- ・海外への観光情報発信と外国人旅行者誘致の促進



第5編 計画の推進のために

1 計画推進の基本的な考え方

- 観光振興策には、経済対策としての短期的な施策と、将来のあるべき姿に向けた産業政策としての中長期的な施策の二つの性格があることを踏まえ、経済情勢など観光を取り巻く状況を勘案し、これらをバランスよく展開する必要があります。
- 各地域において市町村や観光協会（観光連盟）が果たす役割が大きいことはいまでもありませんが、観光振興には観光事業者をはじめとする民間の活力が不可欠です。このため、行政（県や市町村）は、民間の主体的な取組が結実するよう環境づくりや支援を行う必要があります。
- こうしたスタンスを基本としつつ、県、市町村、事業者、観光関連団体、県民等がそれぞれの役割を担いながら、連携・協働してこの計画を推進することが重要です。
- なお、県と一般社団法人 信州・長野県観光協会は、役割分担を明確にし、観光振興施策の効率的で効果的な展開を図ります。

(1) 県の役割

- ①県内の各主体の取組を支援するとともに、相互に連携・協働できるよう総合調整します。
- ②観光地域づくりに必要な人材や組織の育成など、基盤となる地域の取組を重点的に支援します。
- ③自然環境の保全や景観の育成、案内機能の向上などの環境整備、ブランドの発信、大規模なプロモーションや外国人旅行者誘致など、全县共通の仕組みや個別の市町村の対応では非効率な活動に取り組みます。
- ④周遊の広域化を踏まえ、都道府県レベルの広域連携を推進します。

(2) 一般社団法人 信州・長野県観光協会の役割

- ①マーケティングの発想に立った戦略的で広域的な旅行商品の造成・販売などの経済活動に取り組みます。
- ②全県的なプロモーションなどの誘客活動において中心的な役割を果たします。
- ③会員である市町村や観光事業者などと連携し、観光振興に関する取組に対して協力・支援します。

(3) それぞれの主体に期待する役割

市町村	<ul style="list-style-type: none"> ①地域の観光関連団体と連携して観光振興施策に取り組むとともに、観光地域づくりの取組に積極的に参画します。 ②観光事業者や住民と連携を図り、地域の取組に対して支援・調整します。 ③自然環境の保全や景観の育成に取り組むとともに、観光振興に資する基盤施設の整備を推進します。 ④市町村の区域を越えた連携を推進します。
観光関連団体	<ul style="list-style-type: none"> ①観光地域づくりの中心的な役割を担うとともに、行政と民間をつなぐ役割を果たします。 ②マーケティングを実施し、観光事業者が必要とする情報を提供します。 ③地域の観光の魅力を来訪者に提案します。 ④自ら滞在型旅行商品を開発し、販売します。
観光事業者	<ul style="list-style-type: none"> ①自らの企画力と経営力を高め、魅力ある商品サービスの提供や顧客満足度の向上に努めます。 ②観光地域づくりに積極的に参画し、来訪者と地域を結びつける役割を果たします。 ③着地型観光への意識を高め、他産業と連携しながら新たな観光需要に対応します。
関連事業者	<ul style="list-style-type: none"> ①観光地域づくりに各々の立場で参画します。 ②観光事業者と連携して、観光×農業、観光×健康などの新たな観光の魅力の創出に努めます。
大学など	<ul style="list-style-type: none"> ①観光を担う人材の育成・輩出をはじめ、観光事業者などの知識や能力の向上への積極的な貢献に努めます。 ②観光地域づくりへの積極的な貢献に努めます。
ボランティア	<ul style="list-style-type: none"> ①自らが暮らす地域の「信州暮らし」を再認識し、次代に伝えます。 ②おもてなしの心で来訪者を迎えます。 ③観光に関心を持ちながら、観光地域づくりに参画します。

2 計画の検証と評価

- 計画をより実効性あるものとするため、長野県総合5か年計画（しあわせ信州創造プラン）の政策評価・事業点検を踏まえ、検証・評価を行います。
- また、長野県観光振興審議会に対して、達成目標の進捗状況や主な施策の事業化の状況を報告します。
- エリア別の観光地域ビジョンについては、各地域の地域観光戦略会議等においてエリアごとに取り組状況を検証・評価します。

3 計画の見直し

- 本県を取り巻く社会経済情勢に計画策定時の想定を大きく超えた変化が生じることも考えられます。この場合にあっては、計画期間中においても、必要に応じて計画の見直しを行います。

附 属 資 料

1	諮 問	124
2	審議経過	125
3	答 申	126
4	長野県観光振興審議会委員名簿	127
5	県民意見の聴取	128
6	計画の決定	129
7	達成目標一覧	130
8	長野県観光のあゆみ	132
9	用語解説	133

1 諮 問

24観企第16号
平成24年(2012年)4月25日

長野県観光振興審議会
会長 佐藤 博康 様

長野県知事 阿部 守一

新たな観光振興基本計画の策定について（諮問）

本県では、平成20年2月、『国内外の多くの人々が繰り返し訪れ時代を超えて愛される日本のふるさと「長野県」(NAGANO)』を将来像にすえた「観光立県長野」再興計画を策定し、市町村、観光事業者、県民とともに様々な取組を展開してまいりました。

しかしながら、本県は全国でもトップクラスの観光県であるものの、宿泊客数や観光消費額は減少傾向にあり厳しい状況におかれています。

このような中、近年は人口減少・少子高齢化、観光地間の競争の激化、余暇活動や旅行形態の多様化など観光を取り巻く環境が急速に変化しています。

一方で、本県は、豊富な観光資源や大都市圏に近いという地理的な優位性など高いポテンシャルを有しています。また、このところ県内では農山村の価値を見直す気運の高まりや訪日外国人旅行者の増加、平成26年度末に予定される北陸新幹線の金沢延伸などにより、さらなる発展の可能性が広がっています。

これらの状況を踏まえ、長野県観光の将来を見据えた今後の観光振興施策の具体的な指針として、平成25年度から29年度までの5か年を計画期間とする新たな観光振興の基本計画を策定したいので、長野県観光振興審議会条例第2条の規定により、その基本的な考え方について貴審議会の意見を求めます。

なお、審議に当たっては、特に下記の視点での御検討をお願いします。

記

- 1 地域経済の活性化に寄与する観光施策の方向性
- 2 強みを伸ばし、弱みを強みに転換することにより目的地として選ばれ続けるための長野県観光の魅力の向上
- 3 住む人が誇りや愛着を抱くことができる観光地域づくり
- 4 本県への訪日外国人旅行者の一層の増加とツーリズムの質の向上のための実効性のある取組
- 5 長野県らしい「おもてなし」や美しい観光地づくりなどを幅広い県民参加で推進していくための仕組みづくり

2 審議経過

(1) 第1回観光振興審議会（平成24年4月25日）

- 新たな観光振興基本計画の策定について、知事から諮問
- 長野県観光の現状と課題、方向性について議論

(2) 第2回観光振興審議会（平成24年6月7日）

- 「ワールド・カフェ」方式[※]による意見交換を実施

テーマ

第1フェーズ：長野県観光のたな卸しと将来ビジョン

第2フェーズ：第1フェーズからみえる取組分野別の方向性



「ワールド・カフェ」方式による審議

(3) 第3回観光振興審議会（平成24年8月21日）

- 平成24年度の長野県観光部の新たな施策について意見交換
- 新たな観光振興基本計画 中間とりまとめ(案)を審議

(4) 第4回観光振興審議会（平成24年10月22日）

- 「観光立県長野」再興計画の進捗状況について意見交換
- 新たな観光振興基本計画 答申(案)たたき台を審議

(5) 第5回観光振興審議会（平成24年11月19日）

- 新たな観光振興基本計画 答申(案)を審議

(6) 答申（平成24年12月10日）

- 知事に答申

※「ワールド・カフェ」方式 4～5人単位の小グループで、メンバーを交替しながら話し合いを続けることにより、参加者全員が話し合っているのと同じ効果が期待される意見交換の手法

3 答 申

平成24年(2012年)12月10日

長野県知事 阿部 守一 様

長野県観光振興審議会
会長 佐藤 博康

新たな観光振興基本計画の策定について (答申)

平成24年4月25日付け24観企第16号で諮問のありましたこのことについて、別添のとおり答申します。

この答申は、当審議会で5回にわたり審議を重ねる中で、長野県観光の現状と課題を整理し、多くの県民からのご意見、ご提言も踏まえながら、長野県観光のめざす姿を示し、その実現に向けて今後5年間において取り組むべき方策についての基本的な考え方をとりまとめたものです。

貴職におかれましては、答申を踏まえ、下記事項に留意の上、速やかに計画を策定されるよう要望します。

記

- 1 計画の策定にあたっては、関係部局と密接な連携を図りながら観光施策の企画立案を行うこと。とりわけ、重点的に取り組むプロジェクトについては、早期にその事業化を図ること
- 2 計画の推進にあたっては、県、市町村、観光関連団体、事業者、県民などの役割分担を明確にするとともに、全県挙げて協働して取り組むこと
- 3 計画が誰にでも分かりやすい表現となるよう配慮するとともに、地域の具体的な行動に結びつくよう計画の浸透に努めること
- 4 計画の実効性を高めるため、具体的な達成目標を設定するとともに、事業の進捗管理や成果の検証・評価を行うこと



観光振興審議会からの知事への答申

4 長野県観光振興審議会委員名簿

会 長	佐藤 博康	松本大学 総合経営学部 観光ホスピタリティ学科 教授
会長職務代理	渡邊 充子	いーずら大町特産館 専務理事 (株)創舎「わちがい」 代表取締役
委 員	井上 弘司	NPO法人しんきん南信州地域研究所 主席研究員
〃	今井 明美	公募委員 ラ・フィューユ 代表 (JTB協定旅館ホテル連盟長野支部勤務)
〃	岡庭 一雄	長野県町村会 産業経済部会員 (阿智村長)
〃	奥原 克彦	東日本旅客鉄道(株) 長野支社 営業部長 (平成24年6月22日まで)
〃	久保田くに子	フリーアナウンサー
〃	駒谷 嘉宏	長野県索道事業者協議会 会長 ((株)五竜 代表取締役)
〃	近藤 清一郎	長野県市長会 経済部会長 (前千曲市長) (平成24年5月22日から同年10月17日まで)
〃	塩島 和子	公募委員 白馬リゾートホテル ラネージュ東館 取締役支配人
〃	芹澤 勤	長野県市長会 経済部会長 (前小諸市長) (平成24年4月18日まで)
〃	高野 和也	長野県旅館ホテル組合会 専務理事 (株)亀屋本店 代表取締役
〃	高野 登	人とホスピタリティ研究所 代表
〃	竹村 元尋	東日本旅客鉄道(株) 長野支社 営業部長 (平成24年8月21日から)
〃	玉沖 仁美	(株)タマノワ 代表取締役
〃	中川 完治	公募委員 (株)中川企画室 代表
〃	花岡 利夫	長野県市長会 経済部会長 (東御市長) (平成24年10月24日から)
〃	松本 猛	ちひろ美術館 常任顧問

(氏名は五十音順・敬称略、役職名は平成24年12月10日現在)

5 県民意見の聴取

(1) 地域懇談会（平成24年7月9日～7月31日）

- 県内10の広域圏ごとに地域からの幅広い意見・提言を聴取（203名）

地 域	開催日	各種団体等 からの出席者数
佐 久	7月13日	25名
上 小	7月17日	21名
諏 訪	7月17日	18名
上伊那	7月24日	16名
飯 伊	7月31日	26名
木 曾	7月24日	17名
松 本	7月27日	21名
大 北	7月26日	15名
長 野	7月 9日	22名
北 信	7月18日	22名

(2) 大都市圏での懇談会（平成24年8月2日～8月7日）

- 東京、名古屋、大阪で長野県にゆかりのある者（県人会、県出身者）、観光に関する有識者からの幅広い意見・提言を聴取（27名）

都市圏	開催日	参加者数
東 京	8月3日	9名
名古屋	8月2日	10名
大 阪	8月7日	8名

(3) 県民意見募集（平成24年7月9日～9月30日）

- ホームページ（電子メール）、手紙、ファクシミリにより、常時、意見・提言を受付（18件）

(4) パブリックコメント（平成25年2月8日～3月11日）

- ホームページ（電子メール）、手紙、ファクシミリにより、計画（原案）に対する意見・提言を受付（12件）

(5) 経済団体等との意見交換

- (社)長野県経営者協会、長野県中小企業団体中央会、(社)長野県商工会議所連合会、長野県商工会連合会、長野県旅館ホテル組合会と実施

(6) 有識者からの意見聴取

- 随時実施

6 計画の決定

部局長会議において決定（平成25年3月26日）



観光振興審議会における審議の様子（第5回）



大都市圏での懇談会（名古屋会場）

7 達成目標一覧

(1) 主要な達成目標

指標名	現状	目標 (平成29年度)	備考
観光地利用者数	8,435万人 (平成23年)	9,000万人 (平成29年)	県内観光地の延べ利用者数（観光地利用者統計調査） 〔平成24年実績見込から5%増加を目標に設定〕
観光消費額	3,063億円 (平成23年)	3,300億円 (平成29年)	県内観光地内で観光旅行者が支出した宿泊費、交通費、飲食費等の総計（観光地利用者統計調査） 〔平成24年実績見込から5%増加を目標に設定〕
旅行者満足度	実績値なし	大変満足 20% 必ず再訪したい 20%	県内の観光地で「大変満足」「必ず再訪したい」と回答する観光旅行者の割合（観光旅行者満足度調査） 〔全国の著名な観光地と比較しても遜色ない数値を目標として設定〕
外国人宿泊者数	20万3千人 (平成23年)	50万人 (平成29年)	県内の外国人延べ宿泊者数（外国人宿泊者数調査） 〔倍増を基本に中国をはじめとする最重点市場からの宿泊者の増加を見込み設定〕

(2) 施策分野別の達成目標

指標名	現状	目標 (平成29年度)	備考
1 観光地域づくりを担う人材の育成			
旅行者満足度 〔再掲〕	実績値なし	大変満足 20% 必ず再訪したい 20%	県内の観光地で「大変満足」「必ず再訪したい」と回答する観光旅行者の割合（観光旅行者満足度調査） 〔全国の著名な観光地と比較しても遜色ない数値を目標として設定〕
信州・観光地域づくりマネジメント塾の修了者数	実績値なし	40人	観光地域づくりマネージャーとなりうる人材の育成を目的に開講する塾の修了者数
観光事業者、地域住民等のおもてなしに対する満足度	実績値なし	大変良かった 20%	宿泊施設、観光・文化施設、飲食施設、物販施設の従業員または店員などのおもてなしを「大変良かった」と回答する観光旅行者の割合（観光旅行者満足度調査）
2 強みを活かした信州観光の質の向上			
観光消費額 〔再掲〕	3,063億円 (平成23年)	3,300億円 (平成29年)	県内観光地内で観光旅行者が支出した宿泊費、交通費、飲食費等の総計（観光地利用者統計調査） 〔平成24年実績見込から5%増加を目標に設定〕
滞在交流型プログラム群創出地域数	実績値なし	4地域 (平成25～29年度 累計)	県の支援により、体験メニューやイベントなど地域の観光資源をつなぎ合わせた滞在の仕組みと住民との交流空間を創出するためのプログラムづくりに取り組む地域の数
信州ブランドの県民認知度	実績値なし	80%	信州ブランドの確立に向けた取組を知っている県民の割合（県政モニター調査） 〔大多数の県民に認知されていることを目標として設定〕

指標名	現状	目標 (平成29年度)	備考
都道府県別地域ブランドランキング	17位 (平成22年度)	10位以内	都道府県に対する「購入意向」「訪問意向」「居住意向」「独自性」「愛着度」の5項目についてのアンケート調査などを総合評価した民間調査結果 [過去最高位(10位)を目標として設定]
3 来訪者にやさしいハード・ソフト整備			
信州森林e c o コイン参加宿泊施設数	実績値なし	500施設	信州森林e c o コインの活動に参加する宿泊施設数
景観行政団体市町村数	12市町村 (H23年度)	20市町村	景観法による景観行政団体へ移行した市町村の数 [市町村の意向調査結果をもとに設定]
県内高規格幹線道路の供用延長	331km (H23年度)	338km	県内の高規格幹線道路の供用延長 [国の事業計画に基づき設定]
信州まつもと空港利用者数	76千人 (H23年度)	120千人	信州まつもと空港を発着する便の年間利用者数の合計 [1日1往復以上の増便を目標に設定]
4 市場のニーズを踏まえた誘客、交流の促進			
観光地利用者数 [再掲]	8,435万人 (平成23年)	9,000万人 (平成29年)	県内観光地の延べ利用者数(観光地利用者統計調査) [平成24年実績見込から5%増加を目標に設定]
スキー場利用者数	697万人 (平成23-24年)	増加	県内スキー場における延べ利用者数
都市農村交流人口	546,544人 (平成22年度)	60万人	農業体験などで県内を訪れる都市住民の数
学習旅行来訪学校数	3,141校 (平成23年度)	3,600校	来訪学校数(小学校、中学校、高等学校の計)
県観光ホームページアクセス件数	138万件 (平成23年度)	150万件	公式観光ホームページ「さわやか信州旅.net」へのアクセス件数
楽園信州ファンクラブ会員数	実績値なし	1万人以上	長野県での旅や暮らしを満喫していただくための会員制ファンクラブの会員登録数
5 ゴールデンルートに負けない外国人旅行者誘致戦略			
外国人宿泊者数 [再掲]	20万3千人 (平成23年)	50万人 (平成29年)	県内の外国人延べ宿泊者数(外国人宿泊者数調査) [倍増を基本に中国をはじめとする最重点市場からの宿泊者の増加を見込み設定]
訪日教育旅行受入団体数	41団体 (平成23年度)	120団体	海外からの年間来訪団体数(県観光部調べ)
県観光ホームページ外国語ページアクセス件数	31万件 (平成23年度)	35万件	公式観光ホームページ「さわやか信州旅.net」の外国語ページへのアクセス件数

8 長野県観光のあゆみ

時代	長野県の動き	日本・世界の動き
昭和 35年 (1960) ～	<ul style="list-style-type: none"> ◎「長野県観光開発5か年計画」の策定 (1960) ○県営松本空港の開港 (1965) ◎「長野県観光開発基本計画(観光プラン70)」の策定 (1966) 	<ul style="list-style-type: none"> ○伊勢湾台風 (1959) ○国民所得倍増計画の策定 (1960) ○オリンピック景気 (1962～64) ○東海道新幹線の開業 (1964) ○東京オリンピックの開催 (1964) ○いざなぎ景気 (1965～70)
45年 (1970) ～	<ul style="list-style-type: none"> ◎「長野県観光開発における今後講ずべき方策について」の策定 (1972) ○県下初の高速道路開通(中央自動車道中津川IC・駒ヶ根IC間) (1975) ◎「長野県観光利用計画」の策定 (1976) ○三才山トンネル有料道路の開通 (1976) 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本万国博覧会(大阪万博)の開催 (1970) ○札幌冬季オリンピックの開催 (1972) ○円の変動相場制への移行 (1973) ○第一次石油ショック狂乱物価 (1973) ○国民総生産が戦後初のマイナス (1974) ○第二次石油ショック (1979)
55年 (1980) ～	<ul style="list-style-type: none"> ○デスティネーションキャンペーン(DC)(さわやか信州)開催 (1980) ○中央自動車道が県内全線開通 (1981) ◎「長野県観光振興基本計画」の策定 (1981) ◎「長野県観光振興基本計画」の策定 (1986) ○長野自動車道松本IC・豊科IC開通 (1988) 	<ul style="list-style-type: none"> ○中央自動車道の全線開通 (1982) ○東北、上越新幹線の開業 (1982) ○プラザ合意 円高進む (1985) ○円高不況 (1985～86) ○いわゆる平成景気(バブル) (1986～91) ○総合保養地域整備法(リゾート法)公布 (1987) ○ベルリンの壁崩壊 (1989) ○消費税の導入 (1989)
平成 2年 (1990) ～	<ul style="list-style-type: none"> ○東山魁夷館の開館 (1990) ◎「長野県観光振興基本計画(みんなで進めよう センスアップさわやか信州)」の策定 (1991) ○観光地利用者数のピーク(107,641千人) (1991) ○サイトウ・キネン・フェスティバル松本 (1992～) ○長野自動車道全線開通、上信越自動車道佐久IC、須坂長野東IC開通 (1993) ○信州博覧会の開催 (1993) ○松本空港のジェット化開港 (1994) ○上信越自動車道佐久・小諸IC間、須坂長野東・信州中野IC間が開通 (1995) ◎「長野県観光振興基本計画(「やすらぎ」と「まごころ」のステージ「さわやか信州プラン21」)」の策定 (1996) ○上信越自動車道小諸・更埴IC間が開通 (1996) ○北陸新幹線長野・東京間開業 (1997) ○県内高速道路全線、中部縦貫自動車道安房トンネルが開通 (1997) ○長野冬季オリンピック・パラリンピックの開催 (1998) ○DC(さわやか信州)開催 (1998) ○上信越自動車道の全線開通 (1999) 	<ul style="list-style-type: none"> ○1・57ショック(出生率低下) (1990) ○ソ連邦の崩壊 (1991) ○バブル崩壊後の不況 (1991～93) ○円高の進行(1ドル=100円を突破) (1994) ○阪神淡路大震災 (1995) ○消費税率を5%に引き上げ (1997)
12年 (2000) ～	<ul style="list-style-type: none"> ○県人口のピーク(2,220千人) (2001) ◎「長野県観光振興基本計画(長野県観光ビジョン)」の策定 (2002) ○2005年スペシャルオリンピックス冬季世界大会の開催 (2005) ○伊那木曾連絡道路が開通 (2006) ○県が観光部を設置 (2007) ◎「観光立国長野再興計画」の策定 (2008) ○三遠南信自動車道飯田山本・天龍峡IC間が開通 (2008) 	<ul style="list-style-type: none"> ○米同時多発テロ発生 (2001) ○新潟中越地震 (2004) ○日本万国博覧会(愛知万博)の開催 (2005) ○新潟中越沖地震 (2007) ○観光立国推進基本計画の策定 (2007) ○リーマンショック、世界同時不況 (2008) ○観光庁の設置 (2008) ○新型インフルエンザの世界的流行 (2009)
22年 (2010) ～	<ul style="list-style-type: none"> ○信州DC(未知をあるこう。信州)開催 (2010) ◎「長野県観光振興基本計画[2013～2017]」の策定 (2013) 	<ul style="list-style-type: none"> ○東日本大震災 (2011) ○「観光立国推進基本計画～観光でつくる日本のチカラと地域の魅力～」の策定 (2012)

9 用語解説

用語に付した(数字)は掲載ページを、解説に付した〔地域名〕はそのエリアの観光地域ビジョンの用語解説であることを示します。

～あ～

赤そば (84)

信州大学農学部氏原輝男教授(当時)らが、ヒマラヤの標高3,800メートル付近から花の赤いそばを持ち帰り、日本で品種改良して「高嶺ルビー」と名付けたもので、赤い花の鑑賞のほか、そば料理も楽しめる。〔上伊那〕

アダプトシステム (50)

自治体と住民がお互いの役割分担について協定を結び、継続的に美化活動を進める制度。アダプトとは「養子縁組をする」という意味で、住民が道路などの公共スペースを、養子のように愛情をもって面倒を見る(清掃・美化)ことから命名された。

あっちゃん漬け (81)

下諏訪町の主婦がレシピを考案した漬物。平成24年1月に開催された漬物日本一を競うイベント「T-1グランプリ」においてグランプリを受賞。新たな地域資源として注目されている。〔諏訪〕

安曇野アートライン (103)

大北地域5市町村と安曇野市に点在する約20館の美術館・博物館等を結んだライン(道)〔大北〕

アマランサス (84)

南米原産のヒユ科の栽培植物の総称で、実はたんぱく質やミネラルなどの栄養成分が豊富で、米と混ぜて炊いたり、和え物などに調理すると、独特の食感が楽しめる。〔上伊那〕

あんぼ (116)

米の粉をこねた中に旬の山菜や野菜を入れて焼いた食べ物〔北信〕

イーラ (86)

地域の人が、体験プログラムを通じて地域を案内し、地域の活気とつながりを再生するためのまちづくりイベント。平成24年は、みなこい(宮田村、中川村、駒ヶ根市、飯島町の頭文字)地域で64の体験プログラムを開催した。なお、イーラとは、この土地の言葉で「いいですね」「いいと思うよ」「いいね」という意味がある。〔上伊那〕

井上井月 (84)

19世紀中期から末期の俳人。放浪と漂泊を主題とした俳句を詠み、伊那谷を中心に活動した。その作品は、後世の芥川龍之介や種田山頭火などに影響を与えたとされる。〔上伊那〕

「おいしい信州ふーど(風土)」(42、53)

信州の豊かな風土から生まれた食べ物のうち、「プレミアム」(厳選素材と厳密基準)、「オリジナル」(オ

リジナル品種と全国シェア上位品目)、「ヘリテージ」(伝統野菜と郷土食)の3つの基準で選ばれた信州産食品の統一ブランド名

大系線ゆう浪漫委員会 (106)

大系線を核とした観光振興を推進し、地域の活性化を図ることを目的に、平成20年4月に発足した、北アルプス観光協会(大北地域5市町村の行政、観光関係団体等)、安曇野市の行政・観光協会、J R 東日本等により構成する広域連携組織〔大北〕

お六櫛 (93)

木祖村藪原を中心に、みねばりという木を材料として作られた櫛。長野県伝統的工芸品に指定〔木曾〕

～か～

観光地域づくり (14、21、35、39(コラム)、48、54)

観光による交流人口の拡大や地域経済の活性化を目的として、身近にある自然や景観、伝統や文化などの地域資源を活かしながら、住民参加のもと、地域の幅広い関係者が一体となって進める地域づくり

観光地域づくりマネージャー (36、48)

観光地域づくりに関して地域がめざすべき方向性を企画・立案し、関係者との認識共有及び合意形成を行い、かつ具体的な事業の実務を適正に実施するために必要な知識及び経験を有する者(観光圏整備法に基づく「観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する基本指針」二 1(4))

寒晒しそば (81)

秋に採れた蕎麦の実を厳寒期に冷たい清流に浸した後、天日と寒風に約1か月さらして乾燥させたもの。江戸時代、将軍への献上品とされていた。〔諏訪〕

北アルプス山麓ブランド (105)

豊かな自然と清冽な水・空気がもたらす恵みから生み出される、北アルプス山麓地域の農畜産物やその加工品などの中から、北アルプス山麓農畜産物ブランド運営委員会ブランド品として認め、情報発信する特に優れた商品。平成25年2月現在59品目〔大北〕

共創 (35)

多様な主体がそれぞれの持つ特性や創造性を相乗的に発揮し、新しい発想で新たな価値を創り出すこと

グリーン・ツーリズム (110)

緑豊かな農山村地域において、自然、文化、農林

業とのふれ合いや人々との交流を楽しむ滞在型の余暇活動〔長野〕

景観行政団体 (30、50、59)

地域の景観行政を担う主体として景観法で規定される市町村や都道府県

高規格幹線道路 (3、59)

高速交通サービスの提供を目的に、全国的な自動車交通網を構成する自動車専用道路。国の道路計画審議会の答申（昭和62年（1987年））を受け、第4次全国総合開発計画において定められている。県内の高規格幹線道路は中央自動車道、長野自動車道、上信越自動車道、中部横断自動車道、三遠南信自動車道、中部縦貫自動車道

小海線ハイブリッド列車 (69)

ハイブリッド列車とは、「ディーゼルを発電に利用し、ブレーキ時に発生するエネルギーを蓄積することで燃料消費と環境負荷を抑える。」ことにより、従来のディーゼル車両に比べ窒素酸化物（NO_x）などの排出量を60%減らせる次世代の環境を考えた車両。世界で初めて営業列車として小海線に登場した。〔佐久〕

国際青少年交流農村宣言 (62)

平成23年（2011年）10月8日、世界中から「農村体験」として若者を受け入れ、国内外の若者の交流の場となる「世界の青少年交流農村づくり」をめざして長野県が発表した宣言

～ さ ～

桜 守 (91)

南信州の銘桜・古桜の歴史や暮らしとの結びつき、保全の取組などの解説・案内を行う人〔飯伊〕

真田街道 (77)

真田三代（真田幸隆、昌幸、信之、幸村）が統治した長野県から群馬県の地域を結ぶ街道を真田街道と称し、真田氏ゆかりの地域の連携を深めている。〔上小〕

真田幸村 (76)

（1567～1615）安土桃山時代の武将。昌幸の次男。名は信繁（のぶしげ）。関ヶ原の戦いでは父とともに豊臣方で戦い、のち高野山麓九度山に蟄居（ちつきよ）。大坂冬の陣では大坂城にはいり、出城（真田丸）を築いて東軍を悩まし、夏の陣で戦死した。〔上小〕

三遠南信自動車道 (88)

長野県飯田市の中央自動車道・飯田山本ICから愛知県を經由して静岡県浜松市の新東名高速道路・浜松いなさJCTに至る、総延長約100kmの高規格幹線道路〔飯伊〕

山岳高原観光地 (29、34（コラム）、58)

雄大な山岳やさわやかな高原、美しい景観に加えて、スノーリゾートや温泉など信州を代表する強みを活かした滞在型の観光地

山 賊 焼 (98)

鶏の一枚肉をニンニクなどが効いたタレに漬け込み、片栗粉をまぶして揚げた、松本平の郷土料理〔松本〕

ジビエ (42、53)

捕獲した野生鳥獣の肉をジビエ（jibier:仏語）という。ジビエ料理は、フランス料理の中でも最も古典的で高級な料理に位置付けられている。

信州黄金シャモ (99)

県畜産試験場でシャモと名古屋種を交配することにより作り出した肉用地鶏。歯応えと食味成分の高いことが特徴〔松本〕

信州・観光地域づくりマネージメント塾 (36、48)

観光地域づくりマネージャーとなりうる人材の育成を目的に、平成24年6月に開講

「信州暮らし」 (21、24（コラム）、27、35、49、58)

身近にある豊かな自然や美しい景観、伝統や文化など、信州らしさを大切にしながらつくり上げてきたライフスタイル

信州サーモン (99)

県水産試験場でニジマスの雌とブラウントラウトの雄を交配して作り出した養殖魚。サーモンを思わせる銀色の身体と紅色の身が特徴〔松本〕

信州諏訪温泉泊覧会「ズーラ」 (80)

諏訪圏を中心としたエリアにおいて、地域資源の掘りおこしをしながら人々に感動を与えられるような体験型プログラムを開発する取組。大分県別府市の「別府八湯温泉泊覧会（ハットウ・オンパク）」が起源。地元の方言「ほうずら、いづら」を参考に「ズーラ」という名称とした。〔諏訪〕

信州伝統野菜認定制度 (42、53)

伝統野菜の保存と継承を目的として、信州の食文化を支える行事食・郷土食の素材として伝承されている野菜を認定する制度

信州登山案内人 (31、48、53)

信州登山案内人条例に基づき、長野県知事の登録を受け、信州登山案内人の名称を用いて、県内において登山等を行う者に付き添ってその案内を行うことを業とする者

信州プレミアム牛肉認定制度 (42、53)

安全・安心について県の認定を受けた農場で育てられた黒毛和種のうち、県独自のおいしさ基準（香りと口溶けを左右するオレイン酸含有率）を満たす牛肉を認定する制度

信州みそ天井 (81)

平成17年3月、諏訪市のまちづくり事業に取り組む団体「諏訪TMO」がご当地井として開発したメニュー。全国有数の産地となっている諏訪地域の味噌を使用した「みそダレ」が特徴〔諏訪〕

森林セラピー (52)

森林浴で得られる森林の癒し効果を、医療やリハビリテーション、カウンセリングに利用する療法のこと

スマートフォン (81)

インターネットの接続や様々なソフトウェアの追加が容易な多機能携帯電話〔諏訪〕

スワクル・プロジェクト (78)

諏訪圏における地域活性化を図るため、観光、商業、工業などの産業連携により、自転車を活かしたまちづくりを推進する取組〔諏訪〕

諏訪大社御柱祭 (81)

諏訪大社で七年に一度の寅と申の年に宝殿を新築し、社殿の四隅にあるモミの大木を建て替える祭り。諏訪地方における最大の行事であり、日本三大奇祭の一つとされている。〔諏訪〕

すんぎ漬け (93)

木曾の赤かぶ菜を植物性乳酸菌で発酵させた食塩無添加の漬物。長野県味の文化財に指定〔木曾〕

全国産業観光フォーラム (78)

平成24年10月11日～12日、岡谷市において、産業観光のさらなる活性化と地域振興を図る目的により開催。産業観光を推進している地域や関連企業等1,250名の来場者があった。～信州発「未来につながる“ものづくり”のDNA!」～をテーマに、産業観光の魅力と可能性を全国に情報発信した。〔諏訪〕

戦国武将ブーム (73)

平成21年ころから、戦国時代を扱ったゲームソフトやアニメ、また大河ドラマなどの影響により戦国武将が人気を集め、「歴女」と呼ばれる若い女性を中心に武将ゆかりの地や博物館などを来訪する旅行客等が増加した。〔上小〕

～ た ～

タブレット端末 (81)

平板形でキーボードがついておらず、液晶の画面に指先をあてながら操作する「タッチパネル」を備えている携帯可能なパーソナルコンピュータ〔諏訪〕

チャーター便 (31、64)

旅行会社等が航空機を借り切って不定期に運航される便

中央内陸県連合広域観光推進協議会 (62)

山梨・長野・岐阜の3県が連携し、「中央内陸県」の広域観光の推進に取り組むため設立した協議会

中部横断自動車道 (68)

静岡市(新清水JCT)を起点とし、山梨県を經由して小諸市(佐久小諸JCT)まで総距離約132kmの高速自動車国道として整備中であり、上信越自動車道と接続し太平洋側(静岡県静岡市)と日本海側(新潟県上越市)を結ぶ路線に位置付けられている。平成25年3月現在、長野県内では佐久南I.C～佐久小諸JCTまでが暫定2車線で供用されているほか、佐久南I.C～八千穂I.C(仮称)間の整備が進められている。〔佐久〕

中部広域観光推進協議会 (62)

愛知・静岡・岐阜・三重・富山・石川・福井・滋賀・長野の9県と名古屋・静岡・浜松の3市などが、官民一体となって中部地域の広域観光や産業観光の推進に取り組むため設立した協議会

テーマ・ツーリズム (113)

多様化する旅のテーマに答えながら、訪問者が旅を通じて訪れた地域の豊かさを実感できるような旅の形態〔北信〕

デマンド交通 (80)

事前予約して乗合で運行するバスやタクシー〔諏訪〕

とうじそば (99)

竹で編んだ「投汁(とうじ)かご」に小盛したそばを取り、季節の野菜やキノコたっぷりのつゆ(鍋)に浸しさっと湯がいて食する郷土料理〔松本〕

どんぶり街道、山麓一の麺街道 (84)

地域独自に育まれた個性豊かな食文化をシリーズ化し、より広い地域で力を合わせて観光の活性化や地域おこしを図ろうとする取組。どんぶり街道は、諏訪、上伊那、飯伊地域のご当地丼を、山麓一(さんろくいち)の麺街道は、岐阜高山から木曾を抜けて伊那に至る国道361号沿いのご当地麺を提供している。〔上伊那〕

～ な ～

長野県原産地呼称管理制度 (42、53)

県産農産物のブランド化を目的として、県内で生産・製造された農産物や農産物加工品を原料・栽培方法・味覚を基準に評価し、味と品質が特に優れたものを認定する制度

～ は ～

羽広菜 (84)

伊那市西箕輪羽広が原産で、かぶはやわらかく甘みがあるため、漬物や煮物に利用されている。〔上伊那〕

秘境駅 (89)

山奥や原野など人里から離れた場所にあり、列車の停車が極めて少ない駅〔飯伊〕

フィルムコミッション (36、62)

映画、テレビドラマ、CMなどのロケーション撮影の誘致や、実際の撮影をスムーズに進めるための諸手続きを行う非営利公的機関

ほお葉巻き (93)

小豆等のあんが入った餅を朴の葉で包んで蒸した和菓子。朴の葉が採れる5月末～7月下旬頃の季節限定の郷土菓子。長野県味の文化財に指定〔木曾〕

ほくちそば (116)

つなぎに「オヤマボクチ」という植物の葉の繊維を使ったそば〔北信〕

～ ま ～

MICE (マイス) (29、61)

企業等の会議 (Meeting)、企業等の行う報奨・研修旅行 (インセンティブ旅行) (Incentive Travel)、国際機関・団体、学会等が行う国際会議 (Convention)、展示会・見本市、イベント (Exhibition/Event) の頭文字のこと。多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称

松本一本ねぎ (99)

信州の伝統野菜に認定されている一本ねぎ。全長90センチ、軟白部40センチで、肉質が柔らかく、甘み、風味の豊かさが特徴〔松本〕

森林 (もり) の里親制度 (52)

荒廃した里山の再生のため、県が仲人となり、企業等の社会貢献活動を誘導し、森林整備や交流等を通じた森林づくりを推進する制度

～ ら ～

リニア中央新幹線 (3、57)

東京～大阪間を最高設計速度505km/hで結ぶ超電導磁気浮上方式による新幹線。建設・営業主体であるJR東海は、開業予定を、東京～名古屋間は平成39年 (2027年)、名古屋～大阪間は平成57年 (2045年) と想定

6次産業化 (52)

第1次産業 (農林水産業) が第2次産業・第3次産業と連携、異業種交流し、経営の複合化・多角化を進めること

ろくろ細工 (93)

厚い板や丸太をろくろで回転させながらカンナで挽いて形を削り出す伝統技術。国の伝統工芸品に指定〔木曾〕

～ わ ～

「ワールド・カフェ」方式 (125)

4～5人単位の小グループで、メンバーを交替しながら話し合いを続けることにより、参加者全員が話し合っているのと同じ効果が期待される意見交換の手法

ワインツーリズム (42)

ブドウ畑を訪れ、ワイン造りの過程に触れ、ワインに関わる人々と交流することで、その土地の風土や文化を感じることを目的とした旅

長野県観光振興基本計画 [2013～2017]

平成25年(2013年)3月

編集発行 長野県 観光部 観光企画課

〒380-8570 長野市大字南長野字幅下692-2

電話 026-232-0111(代表)

県ホームページアドレス <http://www.pref.nagano.lg.jp>

掘り起こそう、足元の価値。
伝えよう、信州から世界へ。